富士市埋蔵文化財調査報告　第70集

静岡県　富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

―令和元年度―

2021年3月

富士市教育委員会

例　言

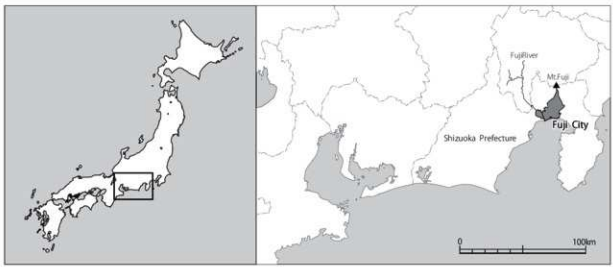
1　本書は、富士市教育委員会が令和元年度に静岡県富士市内において実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、実務は市民部文化振興課職員がこれにあたった。
調査の一部は『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。
調査体制、担当者は第 1 章第 1 節に譲る。

3　本書の執筆は、第 5 章までのうち、第 1 章第 1 節・第 5 章第 2 節は佐藤祐樹（市民部文化振興課 主査）、第 1 章第 2 節・第 2 章は若林美希（市民部文化振興課 発掘調査員）、第 3 章・第 4 章は志崎江莉子（市民部文化振興課 発掘調査員）が担当した。第 5 章第 1 節には株式会社フジヤマから提出された業務委託報告書を編集し掲載した。
植月 学氏（帝京大学文化財研究所）、豊島直博氏（奈良大学）からは玉稿を賜り、第 6 章に掲載をさせていただいた。
編集は佐藤・若林による。

4　本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
植月 学　　黒済和彦　　小崎 晋　　滝沢 誠　　辻 真人　　豊島直博　　堀内秀樹　　前嶋秀張　　若狭 徹

5　本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会（富士市埋蔵文化財調査室）で保管している。今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）に移管する予定でいる。



静岡県富士市の位置

凡　例

1　本書で示す座標は、平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系（平成 14 年 4 月施行）を使用している。
調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。

2　挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。

3　土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。
縄文土器・弥生土器・土師器　□　須恵器　■　灰釉陶器・陶器　▒

4　土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。

5　遺構・遺物ともに、法量の（　）は残存値、〔　〕は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。

6　遺構の略記号は以下の通りである。
SB：竪穴建物跡　SD：溝状遺構　SK：土坑　Pit：小穴　SX：性格不明遺構

目　次

例　言
凡　例
目　次

第 1 章　令和元年度の調査
第 1 節　調査体制と調査概要　1
第 2 節　令和元年度の発掘調査報告　5

第 2 章　東平遺跡の調査
第 1 節　第 113 地区の調査成果　65
第 2 節　第 117 地区の調査成果　71

第 3 章　滝下遺跡の調査
第 1 節　滝下遺跡の概要　75
第 2 節　N 地区の調査成果　77

第 4 章　三新田遺跡の調査
第 1 節　三新田遺跡の概要　85
第 2 節　N 地区の調査成果　87

第 5 章　国指定史跡 浅間古墳における地中探査
第 1 節　地中探査結果について　97
第 2 節　地中レーダー探査から想定される浅間古墳の埋葬施設　125

第 6 章　資料報告
第 1 節　沢東 A 遺跡から出土した動物遺体　（植月 学）　133
第 2 節　富士山かぐや姫ミュージアム所蔵頭椎大刀について　（豊島 直博）　139

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章　令和元年度の調査
第1節　調査体制と調査概要
第1図　令和元年度　調査地の位置と地形区分図□　2
第2節　令和元年度の発掘調査報告
第2図　東平遺跡第111地区　位置図□　5
第3図　東平遺跡第111地区　トレンチ配置図、セクション図□　5
第4図　花守遺跡第7地区　位置図□　6
第5図　花守遺跡第7地区　トレンチ配置図、セクション図□　6
第6図　天間沢遺跡第55地区　位置図□　6
第7図　天間沢遺跡第55地区　トレンチ配置図、セクション図　7
第8図　天間代山遺跡第5地区　位置図□　8
第9図　天間代山遺跡第5地区　トレンチ配置図、セクション図□　8
第10図　沢東A遺跡第21次調査地点　位置図□　9
第11図　沢東A遺跡第21次調査地点
トレンチ配置図、セクション図□　9
第12図　国久保遺跡第9地区　位置図□　10
第13図　国久保遺跡第9地区　トレンチ配置図□　10
第14図　国久保遺跡第9地区　トレンチ平面図、セクション図　10
第15図　東平遺跡第112地区　位置図□　11
第16図　東平遺跡第112地区　トレンチ配置図、セクション図□　11
第17図　神谷古墳群第11地区　位置図□　12
第18図　神谷古墳群第11地区　調査区配置図□　12
第19図　神谷古墳群第11地区　セクション図□　13
第20図　神谷古墳群第11地区　出土遺物実測図□　13
第21図　善得寺城跡・東泉院跡第4地区　位置図□　14
第22図　善得寺城跡・東泉院跡第4地区　出土遺物実測図□　14
第23図　善得寺城跡・東泉院跡第4地区　トレンチ配置図□　14
第24図　善得寺城跡・東泉院跡第4地区
トレンチ平面図、セクション図□　14
第25図　天間沢遺跡第56地区　位置図□　15
第26図　天間沢遺跡第56地区　トレンチ配置図、セクション図□　15
第27図　中里2古墳群第3地区　位置図□　16
第28図　中里2古墳群第3地区
トレンチ配置図、1Tr・2Tr・5Trセクション図□　16
第29図　中里2古墳群第3地区
3Tr・4Tr　平面図、セクション図□　17
第30図　大坂遺跡第2地区　位置図□　18
第31図　大坂遺跡第2地区　トレンチ配置図、セクション図□　18
第32図　花守遺跡第8地区　位置図□　18
第33図　花守遺跡第8地区　トレンチ配置図□　19
第34図　花守遺跡第8地区　セクション図□　19
第35図　中島遺跡第15地区　位置図□　19
第36図　中島遺跡第15地区　トレンチ配置図□　20
第37図　中島遺跡第15地区　セクション図□　20
第38図　善得寺城跡・東泉院跡第5地区　位置図□　20
第39図　善得寺城跡・東泉院跡第5地区　出土遺物実測図□　20
第40図　善得寺城跡・東泉院跡第5地区　トレンチ配置図□　20
第41図　善得寺城跡・東泉院跡第5地区
トレンチ平面図、セクション図□　21
第42図　舟久保遺跡第64地区　位置図□　21
第43図　舟久保遺跡第64地区　トレンチ配置図、セクション図□　22
第44図　厚原横道下遺跡第6地区　位置図□　22
第45図　厚原横道下遺跡第6地区
トレンチ配置図、セクション図□　22
第46図　入山瀬城跡第2地区　位置図□　23
第47図　入山瀬城跡第2地区　トレンチ配置図、セクション図　23
第48図　舟久保遺跡第65地区　位置図□　23
第49図　舟久保遺跡第65地区　トレンチ配置図、セクション図□　24
第50図　東平遺跡第114地区　位置図□　24
第51図　東平遺跡第114地区　トレンチ配置図、セクション図□　24
第52図　東平遺跡第115地区　位置図□　25
第53図　東平遺跡第115地区　トレンチ配置図、セクション図□　25
第54図　舟久保遺跡第66地区　位置図□　25
第55図　舟久保遺跡第66地区　トレンチ配置図、セクション図□　26
第56図　川坂遺跡第7地区　位置図□　26
第57図　川坂遺跡第7地区　トレンチ配置図□　26
第58図　川坂遺跡第7地区　セクション図□　27
第59図　国久保遺跡第10地区　位置図□　27
第60図　国久保遺跡第10地区　トレンチ配置図、セクション図□　28
第61図　沢東B遺跡第12地区　位置図□　28
第62図　沢東B遺跡第12地区　トレンチ配置図、セクション図□　28
第63図　舟久保遺跡第67地区　位置図□　29
第64図　舟久保遺跡第67地区　トレンチ配置図、セクション図□　29
第65図　沢東B遺跡第13地区　位置図□　30
第66図　沢東B遺跡第13地区　トレンチ配置図□　30
第67図　沢東B遺跡第13地区　トレンチ平面図、セクション図□　30
第68図　東平遺跡第116地区　位置図□　31
第69図　東平遺跡第116地区　トレンチ平面図、セクション図□　31
第70図　比奈4古墳群第3地区　位置図□　32
第71図　比奈4古墳群第3地区
トレンチ配置図、セクション図□　32
第72図　天間沢遺跡第40地区　位置図□　32
第73図　天間沢遺跡第40地区
トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図□　33
第74図　天間沢遺跡第57地区　位置図□　33
第75図　天間沢遺跡第57地区　トレンチ配置図□　34
第76図　天間沢遺跡第57地区　1～3Tr平面図、セクション図□　35
第77図　天間沢遺跡第57地区　4・6Tr平面図、セクション図□　36
第78図　天間沢遺跡第57地区　6～8Tr平面図、セクション図□　37
第79図　天間沢遺跡第57地区　9～11Tr平面図、セクション図□　38
第80図　天間沢遺跡第57地区　出土遺物実測図□　39
第81図　厚原遺跡第9地区　位置図□　40
第82図　厚原遺跡第9地区　トレンチ配置図、セクション図□　40
第83図　舟久保遺跡第68地区　位置図□　41
第84図　舟久保遺跡第68地区　位置図□　41
第85図　舟久保遺跡第68地区　トレンチ平面図、セクション図□　41
第86図　宇東川遺跡第28地区　位置図□　41
第87図　宇東川遺跡第28地区　トレンチ配置図、セクション図□　42
第88図　コーカン畑遺跡第4地区　位置図□　42
第89図　コーカン畑遺跡第4地区
トレンチ配置図、セクション図□　43
第90図　天間沢遺跡第58地区　位置図□　43
第91図　天間沢遺跡第58地区　トレンチ配置図、セクション図□　43
第92図　沢東A遺跡第22次調査地点　位置図□　44
第93図　沢東A遺跡第22次調査地点　トレンチ配置図□　44
第94図　沢東A遺跡第22次調査地点　セクション図□　44
第95図　柏原遺跡第15地区　位置図□　45
第96図　柏原遺跡第15地区　トレンチ配置図□　45
第97図　柏原遺跡第15地区　セクション図□　45
第98図　柏原遺跡第15地区　出土遺物実測図□　45
第99図　東平遺跡第118地区　位置図□　46
第100図　東平遺跡第118地区
トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図□　46
第101図　東平遺跡第118地区　出土遺物実測図□　46
第102図　石坂8古墳群第2地区　位置図□　47

第 103 図　石坂 8 古墳群第 2 地区
トレンチ配置図、セクション図□　47
第 104 図　富士岡 1 古墳群第 18 地区　位置図□　48
第 105 図　富士岡 1 古墳群第 18 地区
トレンチ配置図、セクション図□　48
第 106 図　宇東川遺跡第 29 地区　位置図□　48
第 107 図　宇東川遺跡第 29 地区
トレンチ配置図、1・2Tr セクション図□　49
第 108 図　宇東川遺跡第 29 地区
トレンチ配置図、3・4Tr 平面図、セクション図□　49
第 109 図　宇東川遺跡第 29 地区　出土遺物実測図□　50
第 110 図　天間沢遺跡第 52 地区　位置図□　50
第 111 図　天間沢遺跡第 52 地区
トレンチ配置図、セクション図□　50
第 112 図　東平遺跡第 119 地区　位置図□　51
第 113 図　東平遺跡第 119 地区
トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図□　51
第 114 図　東平遺跡第 119 地区　出土遺物実測図□　52
第 115 図　神田遺跡第 159 次調査地点　位置図□　52
第 116 図　神田遺跡第 159 次調査地点
トレンチ配置図、セクション図□　52
第 117 図　東平遺跡第 120 地区　位置図□　53
第 118 図　東平遺跡第 120 地区　トレンチ配置図、セクション図□　53
第 119 図　天間沢遺跡第 59 地区　位置図□　53
第 120 図　天間沢遺跡第 59 地区
トレンチ配置図、セクション図□　53
第 121 図　宇東川遺跡 2 地区　位置図□　54
第 122 図　宇東川遺跡 2 地区　出土遺物実測図□　54
第 123 図　宇東川遺跡 2 地区　トレンチ配置図、セクション図□　54
第 124 図　天間沢遺跡第 60 地区　位置図□　55
第 125 図　天間沢遺跡第 60 地区
トレンチ配置図、セクション図□　55
第 126 図　東平遺跡第 121 地区　位置図□　55
第 127 図　東平遺跡第 121 地区　トレンチ配置図□　55
第 128 図　東平遺跡第 121 地区　トレンチ平面図、セクション図□　56
第 129 図　祢宜ノ前遺跡第 6 地区　位置図□　56
第 130 図　祢宜ノ前遺跡第 6 地区
トレンチ配置図、セクション図□　56
第 131 図　東平遺跡第 122 地区　位置図□　57
第 132 図　東平遺跡第 122 地区　トレンチ配置図、セクション図□　57
第 133 図　東平遺跡第 123 地区　位置図□　57
第 134 図　東平遺跡第 123 地区
トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図□　58
第 135 図　東平遺跡第 124 地区　位置図□　58
第 136 図　東平遺跡第 124 地区
トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図□　58
第 137 図　出口遺跡Ⅵ地区　位置図□　59
第 138 図　出口遺跡Ⅵ地区　トレンチ配置図、セクション図□　59
第 139 図　沢東 A 遺跡第 23 次調査地点　位置図□　60
第 140 図　沢東 A 遺跡第 23 次調査地点
トレンチ配置図、セクション図□　60
第 141 図　船津 8 古墳群第 2 地区　位置図□　61
第 142 図　船津 8 古墳群第 2 地区　トレンチ配置図□　61
第 143 図　船津 8 古墳群第 2 地区　セクション図□　61
第 144 図　木の宮遺跡第 3 地区　位置図□　61
第 145 図　木の宮遺跡第 3 地区　トレンチ配置図、セクション図□　62
第 146 図　東平遺跡第 125 地区　位置図□　63
第 147 図　東平遺跡第 125 地区　トレンチ配置図□　63
第 148 図　東平遺跡第 125 地区　トレンチ平面図、セクション図□　63
第 2 章　東平遺跡の調査
第 1 節　第 113 地区の調査成果
第 149 図　東平遺跡第 113 地区　位置図□　65
第 150 図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図□　65
第 151 図　確認調査トレンチ　平面図、セクション図□　66
第 152 図　出土遺物実測図□　66
第 153 図　本調査区　遺構配置図、セクション図□　67
第 154 図　溝状遺構　平面図、セクション図□　68
第 155 図　土坑・ピット　平面図、セクション図 1□　69
第 156 図　土坑・ピット　平面図、セクション図 2□　70
第 2 節　第 117 地区の調査成果
第 157 図　東平遺跡第 117 地区　位置図□　71
第 158 図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図□　71
第 159 図　確認調査トレンチ　平面図、セクション図□　72
第 160 図　本調査区　遺構配置図□　72
第 161 図　土坑・ピット　平面図、セクション図□　73
第 162 図　出土遺物実測図□　74
第 3 章　竪下遺跡の調査
第 1 節　竪下遺跡の概要
第 163 図　竪下遺跡の位置□　75
第 164 図　竪下遺跡　調査履歴図□　76
第 2 節　N 地区の調査成果
第 165 図　竪下遺跡 N 地区　位置図□　77
第 166 図　確認調査トレンチ配置図および本調査区位置図□　78
第 167 図　確認調査　トレンチ平面図、セクション図□　79
第 168 図　出土遺物実測図□　80
第 169 図　本調査区平面図□　80
第 170 図　土坑・ピット平面図□　81
第 171 図　土坑・ピット　個別平面図、セクション図 1□　82
第 172 図　土坑・ピット　個別平面図、セクション図 2□　83
第 4 章　三新田遺跡の調査
第 1 節　三新田遺跡の概要
第 173 図　三新田遺跡の位置□　85
第 174 図　三新田遺跡　調査履歴図□　86
第 2 節　N 地区の調査成果
第 175 図　三新田遺跡 N 地区　位置図□　87
第 176 図　確認調査トレンチおよび本調査区位置図□　87
第 177 図　確認調査トレンチ　平面図、セクション図□　88
第 178 図　本調査区遺構検出状況　平面図、セクション図□　89
第 179 図　本調査区完掘状況　平面図、セクション図□　90
第 180 図　SD2001　平面図、セクション図□　91
第 181 図　SD2001　遺物出土状況□　92
第 182 図　SD2001 出土遺物実測図□　92
第 183 図　SD2002　平面図、セクション図□　93
第 184 図　Ⅱ層　遺物出土状況□　94
第 185 図　Ⅲ・Ⅳ層　遺物出土状況□　94
第 186 図　出土遺物実測図 1□　95
第 187 図　出土遺物実測図 2□　96
第 5 章　国指定史跡 浅間古墳における地中探査
第 1 節　地中探査結果について
第 188 図　調査地位置図□　97
第 189 図　基準点網図□　101
第 190 図　2.2　地中レーダ探査測定装置（IF 型）□　101
第 191 図　2.2.1　地中レーダ探査模式図□　101
第 192 図　2.2.2　測定波形のカラー変換□　101
第 193 図　2.2.3　地層境界面からの電磁波□　101
第 194 図　1.3　調査位置平面図（S=1:500）□　102

第 195 図　3.2.2　結果断面解釈基準□　104
第 196 図　3.3.1　地中レーダ結果平面図
（深度－1.5 m 未満）（S=1:500）□　105
第 197 図　3.3.2　地中レーダ結果平面図
（深度－1.5 m 以深）（S=1:500）□　105
第 198 図　3.3.3　異常反応地点（平面図、Y 軸断面図）□　106
第 199 図　3.3.3　異常反応地点（X 軸断面図）□　107
第 200 図　3.3.4　古墳埋葬施設等想定位置図（S=1：800）□　108
第 201 図　地中レーダ探査結果断面図　1□　110
第 202 図　地中レーダ探査結果断面図　2□　111
第 203 図　地中レーダ探査結果断面図　3□　112
第 204 図　地中レーダ探査結果断面図　4□　113
第 205 図　地中レーダ探査結果断面図　5□　114
第 206 図　地中レーダ探査結果断面図　6□　115
第 207 図　地中レーダ探査結果断面図　7□　116
第 208 図　地中レーダ探査結果断面図　8□　117
第 209 図　地中レーダ探査結果断面図　9□　118
第 210 図　地中レーダ探査結果断面図　10□　119
第 211 図　地中レーダ探査結果断面図　11□　120
第 212 図　地中レーダ探査結果断面図　12□　121
第 213 図　地中レーダ探査結果断面図　13□　122
第 214 図　地中レーダ探査結果断面図　14□　123
第 215 図　地中レーダ探査結果断面図　15□　124
第 2 節　地中レーダー探査から想定される浅間古墳の埋葬施設
第 216 図　埋葬施設の推定位置図□　125
第 217 図　地中レーダ探査結果断面合成図□　126
第 218 図　駿河および周辺地域における前期古墳位置図□　127
第 219 図　駿河・遠江における前期古墳の埋葬施設
（竪穴式石室）　129
第 220 図　駿河・遠江における前期古墳の埋葬施設（粘土床）□　130
第 221 図　粘土棺下部における石材使用（高橋 2010）□　131
第 6 章　資料報告
第 1 節　沢東 A 遺跡から出土した動物遺体
第 222 図　静岡県富士市　沢東 A 遺跡の位置□　133
第 223 図　沢東 A 遺跡　周辺遺跡分布図□　134
第 224 図　沢東 A 遺跡第 1 次調査地点
動物遺体出土遺構位置図□　135
第 225 図　沢東 A 遺跡第 1 次調査地点 SB27　遺物出土状況図□　136
第 226 図　沢東 A 遺跡第 1 次調査地点出土動物遺体□　138
第 2 節　富士山かぐや姫ミュージアム所蔵頭椎大刀について
第 227 図　静岡県富士市の位置□　139
第 228 図　富士山かぐや姫ミュージアム所蔵
頭椎大刀装具と復元図□　140
第 229 図　把間の銀縞□　140
第 230 図　銀線の細部□　140
写真図版　富士山かぐや姫ミュージアム所蔵頭椎大刀刀装具□　143
写真図版　富士山かぐや姫ミュージアム所蔵頭椎大刀刀装具□　144

挿 表 目 次

第 1 章　令和元年度の調査
第 1 節　調査体制と調査概要
第 1 表　文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表　1
第 2 表　令和元年度　発掘調査一覧表□　3
第 2 節　令和元年度の発掘調査報告
第 3 表　神谷古墳群第 11 地区　出土遺物観察表□　13
第 4 表　善得寺城跡・東泉院跡第 4 地区　出土遺物観察表□　14
第 5 表　善得寺城跡・東泉院跡第 5 地区　出土遺物観察表□　21
第 6 表　天間沢遺跡第 57 地区　出土遺物観察表□　40
第 7 表　柏原遺跡第 15 地区　出土遺物観察表□　45
第 8 表　三日市廃寺跡（東平遺跡第 118 地区）　出土遺物観察表　46
第 9 表　宇東川遺跡第 29 地区　出土遺物観察表□　50
第 10 表　三日市廃寺跡（東平遺跡第 119 地区）　出土遺物観察表□　52
第 11 表　宇東川遺跡 2 地区　出土遺物観察表□　54
第 2 章　東平遺跡の調査
第 1 節　第 113 地区の調査成果
第 12 表　東平遺跡第 113 地区出土遺物観察表□　66
第 13 表　溝状遺構　一覧表□　68
第 14 表　土坑・ピット　一覧表□　68
第 2 節　第 117 地区の調査成果
第 15 表　土坑・ピット　一覧表□　74
第 16 表　東平遺跡第 117 地区　出土遺物観察表□　74
第 3 章　滝下遺跡の調査
第 1 節　滝下遺跡の概要
第 17 表　滝下遺跡　調査履歴一覧表□　76
第 2 節　N 地区の調査成果
第 18 表　滝下遺跡 N 地区　出土遺物観察表□　80
第 19 表　土坑・ピット　一覧表□　84
第 4 章　三新田遺跡の調査
第 1 節　三新田遺跡の概要
第 20 表　三新田遺跡　調査履歴一覧表□　86
第 2 節　N 地区の調査成果
第 21 表　三新田遺跡 N 地区　出土遺物観察表□　96
第 5 章　国指定史跡　浅間古墳における地中探査
第 1 節　地中探査結果について
第 22 表　2.2.1　比誘電率□　98
第 23 表　1.4.1　調査実施数量表□　102
第 24 表　異常反応一覧表□　109
第 2 節　地中レーダー探査から想定される浅間古墳の埋葬施設
第 25 表　駿河・遠江において埋葬施設の明らかな前期古墳□　128
第 6 章　資料報告
第 1 節　沢東 A 遺跡から出土した動物遺体
第 26 表　同定結果一覧□　137

写真図版目次

PL.1
第 1 章　1. 東平遺跡　第 111 地区 1 次調査
2. 花守遺跡　第 7 地区 1 次調査
3. 天間沢遺跡　第 55 地区 1 次調査
4. 天間代山遺跡　第 5 地区 1 次調査

PL.2
第 1 章　5. 沢東 A 遺跡　第 21 次調査地点 1 次調査
7. 東平遺跡　第 112 地区 1 次調査
8. 神谷古墳群　第 11 地区 2 次調査

PL.3
第 1 章　6. 国久保遺跡　第 9 地区 1 次調査
9. 善得寺塚跡・東泉院跡　第 4 地区 1 次調査
10. 天間沢遺跡　第 56 地区 1 次調査
11. 中里 2 古墳群　第 3 地区 1 次調査

PL.4
第 1 章　12. 大坂遺跡　第 2 地区 1 次調査
13. 花守遺跡　第 8 地区 1 次調査
14. 中島遺跡　第 15 地区 1 次調査
15. 善得寺塚跡・東泉院跡　第 5 地区 1 次調査
16. 舟久保遺跡　第 64 地区 1 次調査
17. 厚原横道下遺跡　第 6 地区 1 次調査

PL.5
第 1 章　18. 入山瓶塚跡　第 2 地区 1 次調査
19. 舟久保遺跡　第 65 地区 1 次調査
20. 東平遺跡　第 114 地区 1 次調査
21. 東平遺跡　第 115 地区 1 次調査
22. 舟久保遺跡　第 66 地区 1 次調査
23. 川坂遺跡　第 7 地区 1 次調査
24. 国久保遺跡　第 10 地区 1 次調査

PL.6
第 1 章　25. 沢東 B 遺跡　第 12 地区 1 次調査
26. 舟久保遺跡　第 67 地区 1 次調査
27. 沢東 B 遺跡　第 13 地区 1 次調査・2 次調査
28. 東平遺跡　第 116 地区 1 次調査
29. 北谷 4 古墳群　第 3 地区 1 次調査
30. 天間沢遺跡　第 40 地区 4 次調査

PL.7 ～ 8
第 1 章　31. 天間沢遺跡　第 57 地区 1 次調査

PL.9
第 1 章　32. 厚原遺跡　第 9 地区 1 次調査
33. 舟久保遺跡　第 68 地区 1 次調査
34. 宇東川遺跡　第 28 地区 1 次調査
35. コーカン畑遺跡　第 4 地区 1 次調査
36. 天間沢遺跡　第 58 地区 1 次調査
37. 沢東 A 遺跡　第 22 次調査地点 1 次調査

PL.10
第 1 章　38. 舘原遺跡　第 15 地区 1 次調査
39. 東平遺跡　第 118 地区 1 次調査
40. 石坂 8 古墳群　第 2 地区 1 次調査
41. 富士岡 1 古墳群　第 18 地区 1 次調査

PL.11
第 1 章　42. 宇東川遺跡　第 29 地区 1 次調査

PL.12
第 1 章　43. 天間沢遺跡　第 52 地区 2 次調査
44. 東平遺跡　第 119 地区 1 次調査
45. 仲田遺跡　第 159 次調査地点 1 次調査
46. 東平遺跡　第 120 地区 1 次調査

PL.13
第 1 章　47. 天間沢遺跡　第 59 地区 1 次調査
48. 宇東川遺跡　Z 地区 4 次調査
49. 天間沢遺跡　第 60 地区 1 次調査
50. 東平遺跡　第 121 地区 1 次調査

PL.14
第 1 章　51. 弥宜ノ前遺跡　第 6 地区 1 次調査
52. 東平遺跡　第 122 地区 1 次調査
53. 東平遺跡　第 123 地区 1 次調査
54. 東平遺跡　第 124 地区 1 次調査
55. 出口遺跡　Ⅶ地区 1 次調査

PL.15
第 1 章　56. 沢東 A 遺跡　第 23 次調査地点 1 次調査
57. 船津 8 古墳群　第 2 地区 1 次調査
58. 木の宮遺跡　第 3 地区 1 次調査
59. 東平遺跡　第 125 地区 1 次調査

PL.16 ～ 19
第 2 章　東平遺跡　第 113 地区

PL.20 ～ 22
第 2 章　東平遺跡　第 117 地区

PL.23 ～ 25
第 3 章　滝下遺跡　N 地区

PL.26 ～ 30
第 4 章　三新田遺跡　N 地区

PL.31 ～ 36
第 5 章　国指定史跡　浅間古墳

第1章　令和元年度の調査

第1節　調査体制と調査概要

1　調査体制

令和元年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会 教 育 長 森田　嘉幸
[担当機関] 富士市役所市民部 部　　長 高野　浩一
文化振興課 課　　長 久保田伸彦
文化財担当 統括主幹 植松　良夫
主　　幹 石川　武男
調査担当者 主　　査 佐藤　祐樹
上席主事 藤村　翔
調 査 員 小島　利史
若林　美希
志崎江莉子

2　調査件数

令和元年度は、文化財保護法（以下、法という。）第99条に基づき、確認調査64件、本発掘調査5件を実施した。確認調査費用と個人住宅建設に伴う本発掘調査費用、浅間古墳地中レーダー探査調査費用の一部には『国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金』(平成31年4月1日付け文財第4号交付決定)及び『静岡県文化財保存費補助金』（令和元年5月20日付け文財第465号交付決定）を使用している。

確認調査の事業目的は個人住宅建設が23件と最も多く、次いで宅地造成に伴う調査が14件である。本発掘調査も、個人住宅建設目的、宅地造成目的がともに2件で、店舗建設が1件ある。

第1表　文化財保護法に基づく各届出の件数一覧表

			道路	鉄道	空港	河川	港湾	ダム	学校	住宅	個人住宅	工場	店舗	住宅兼	その他建物	宅地造成	土地区画整理	公園造成	ゴルフ場	観光開発	ガス等	農業基盤	農業関係	土砂採取	その他開発	自然崩壊	遺跡地図作製等	保存目的	学術	遺跡整備	計
工事の届等	93条	現状保存																												0
		発掘調査									2		1																	3
		工事立会								8	91	3	4	1	7	12	2				72				2					202
		慎重工事													1															1
		注意																												0
		未指示																												0
		計	0	0	0	0	0	0	0	8	93	3	5	1	8	12	2	0	0	0	72	0	0	0	2	0	0	0	0	206
	94条	現状保存																												0
		発掘調査																1												1
		工事立会	3				1											1			21				0					26
		慎重工事	1																		1				0					2
		注意																												0
		未指示																												0
		計	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	29
	合計		4	0	0	1	0	0	0	8	93	3	5	1	8	12	2	2	0	0	94	0	0	0	2	0	0	0	0	235
発掘届等	92条	確認調査																												0
		本発掘調査																												0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	99条	確認調査								8	23	3	6	1	1	14		1			1	2			4					64
		本発掘調査									2		1			2														5
		計	0	0	0	0	0	0	0	8	25	3	7	1	1	16	0	1	0	0	1	2	0	0	4	0	0	0	0	69
	合計		0	0	0	0	0	0	0	8	25	3	7	1	1	16	0	1	0	0	1	2	0	0	4	0	0	0	0	69

3　届出・通知の周知徹底と件数

法 93 条に基づく届出は平成 30 年度の 252 件から大幅に減少し 205 件を数える。平成 29 年度が 199 件であったことからすれば、例年通りとも言える。内訳は個人住宅建設に伴うものが 93 件と最も多い。

法 94 条に基づく公共工事については、平成 31 年 2 月に、平成 31 年度（令和元年度）分の公共事業の全リストを提出するように庁内各課に求め、そのリストを基に通知の必要な事業、事前の確認調査の実施が必要な事業などを各課に回答した。令和元年度は下水道設置に伴う通知 10 件を含む 29 件の通知がなされ、件数は例年通りといえる。

4　発掘調査の概要

縄文時代　宇東川遺跡 Z 地区では、平成 30 年度に引き続き、本発掘調査を行った。その結果、中期後半の曽利Ｖ式の埋甕や土坑・ピットを検出したほか、当該期の河川氾濫の痕跡を確認した（富士市教委 2020）。確認調査では天間沢遺跡第 57 地区の調査成果が注目される。遺跡の南端において 4,200 ㎡という広大な面積を対象とした確認調査において、中期中葉の藤内式土器を含む包含層が対象地ほぼ全面で確認された（本書第 1 章第 2 節 31）。

弥生時代　善得寺城跡・東泉院跡第 4 地区の確認調査において弥生後期の壺片が出土した（本書第 1 章第 2 節 9）。

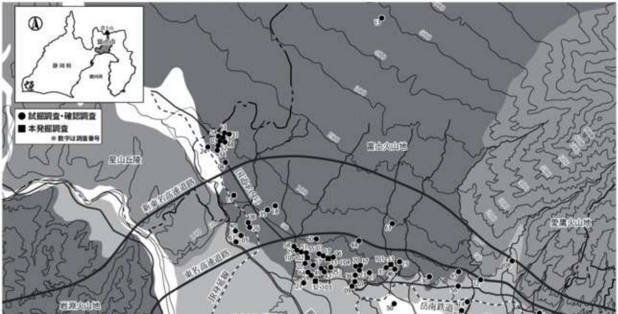
古墳時代　市内増川に所在する国指定史跡浅間古墳において埋葬施設の有無や形状を把握することを目的として墳丘上の地中レーダー探査を実施した。その結果、後方部中央の主軸直交方向において内法長辺約 7.4m、短辺 2.2m の竪穴式石室もしくは粘土槨と推定される埋葬施設の存在が明らかとなった（本書第 5 章）。

田子浦砂丘上に展開する三新田遺跡の確認調査・本発掘調査を行い、古墳時代前期の土器を含む土層（砂質）や大淵スコリア降下直前段階の古墳時代中期の土器が出土した（本書第 4 章）。

奈良・平安時代　前述の三新田遺跡の確認調査において、溝状遺構から 7 世紀末から 8 世紀初頭のものとされる蕨手刀もしくは共鉄造方頭横刀（立鼓柄方頭横刀）の可能性のある銅製縁金具が出土した（本書第 4 章）。

参考文献

富士市教育委員会　2020『宇東川遺跡 Z 地区』富士市埋蔵文化財調査報告　第 69 集



第 1 図　令和元年度　調査地の位置と地形区分図

第２表　令和元年度　発掘調査一覧表

調査番号	所収番号	遺跡名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査担当者
H31 -101	本報告 済	宇東川遺跡 Z 地区 3 次調査	本調査	20190408 ～20190422	原田 628-1　外 宅地分譲	225.457	縄文	自然流路	土器・石器	佐藤・若林 志崎
H31 -102	2 章	東平遺跡 第 113 地区 2 次調査	本調査	20190708 ～20190731	伝法 2520-5 店舗建設	181.428	奈良・平安	溝・柱穴・土坑	土器	藤村・若林 志崎
H31 -103	2 章	東平遺跡 第 117 地区 2 次調査	本調査	20190930 ～20191002	伝法 3014-11 個人住宅新築	28.185	奈良・平安	土坑・ピット	土器・金属製品	佐藤・若林
H31 -104	3 章	滝下遺跡 N 地区 2 次調査	本調査	20191112 ～20191126	伝法 2316-1 宅地分譲	106.097	奈良・平安	ピット	土器	佐藤・志崎 若林
H31 -105	4 章	三新田遺跡 N 地区 2 次調査	本調査	20191128 ～20191227	柏新田 189-1　外 個人住宅新築	69.095	古墳・奈良 平安	溝	土器	佐藤・志崎 渡井
H31 -01	1 章 2 節 1	東平遺跡 第 111 地区 1 次調査	確認	20190409 ～20190411	伝法 2400-2 個人住宅新築	1,123.650 4.639		なし	なし	藤村・小島
H31 -02	1 章 2 節 2	花守遺跡 第 7 地区 1 次調査	確認	20190415 ～20190416	富士岡 307-1 郵便局新築	734.000 17.351		なし	なし	藤村・小島
H31 -03	1 章 2 節 3	天間沢遺跡 第 55 地区 1 次調査	確認	20190417 ～20190418	天間 1075-1　外 宅地分譲造成	1,804.000 91.819		なし	なし	藤村・小島
H31 -04	1 章 2 節 4	天間代山遺跡 第 5 地区 1 次調査	確認	20190423 ～20190424	天間 1431-11　外 店舗建設	1,470.000 33.492	古墳・奈良	なし	土器	藤村・小島
H31 -05	1 章 2 節 5	沢東 A 遺跡 第 21 次調査地点 1 次調査	確認	20190425	久沢 83-4 貸倉庫新築	912.000 20.007		なし	なし	藤村・小島
H31 -06	1 章 2 節 6	国久保遺跡 第 9 地区 1 次調査	確認	20190508 ～20190509	伝法 2001-6 事務所兼倉庫小屋新築	417.270 10.098	奈良	ピット	土器	佐藤・若林
H31 -07	1 章 2 節 7	東平遺跡 第 112 地区 1 次調査	確認	20190508 ～20190509	伝法 2335-1 宅地分譲	1,467.000 75.301		なし	なし	藤村・小島 志崎
H31 -08	1 章 2 節 8	神谷古墳群 第 11 地区 2 次調査	確認	20190513 ～20190520	川尻 480-1　外 永眠地新設	700.000 215.351	古墳	なし	土器	藤村・小島 志崎
H31 -09	1 章 2 節 9	善尊寺遺跡・東泉院跡 第 4 地区	確認	20190514	今泉八丁目 1418-2 不動産売買	216.820 3.774	弥生・平安	土坑	土器	佐藤・若林
H31 -10	2 章	東平遺跡 第 113 地区 1 次調査	確認	20190515	伝法 2520-5 店舗建設	408.390 5.004	奈良	ピット	土器	佐藤・若林
H31 -11	1 章 2 節 10	天間沢遺跡 第 56 地区 1 次調査	確認	20190520	天間 1010-1 宅地分譲	280.000 10.552		なし	なし	佐藤・若林
H31 -12	1 章 2 節 11	中荒 2 古墳群 第 3 地区 1 次調査	確認	20190522	中荒 1474-1　外 集合住宅新築	280.000 52.206	縄文・古墳 奈良・平安	竪穴建物跡・土坑 ピット	土器	佐藤・小島 若林
H31 -13	1 章 2 節 12	大原遺跡 第 2 地区 1 次調査	確認	20190527	大原 853-4　外 個人住宅新築	925.600 10.014		なし	なし	佐藤・小島 若林
H31 -14	1 章 2 節 13	花守遺跡 第 8 地区 1 次調査	確認	20190522	富士岡 127-2 宅地分譲地造成	1,107.280 30.107		なし	なし	藤村・志崎
H31 -15	1 章 2 節 14	中島遺跡 第 15 地区 1 次調査	確認	20190604	原田 771-2 外 宅地造成	218.000 4.459		なし	なし	藤村・小島 志崎
H31 -16	1 章 2 節 15	善尊寺遺跡・東泉院跡 第 5 地区 1 次調査	確認	20190605	今泉八丁目 1387-1 個人住宅新築	348.130 6.293	奈良・平安	竪穴建物跡	土器	佐藤・若林
H31 -17	1 章 2 節 16	舟久保遺跡 第 64 地区 1 次調査	確認	20190531	今泉 2030-20 個人住宅新築	165.730 6.345		なし	なし	藤村・小島 志崎
H31 -18	1 章 2 節 17	厚原横道下遺跡 第 6 地区 1 次調査	確認	20190618 ～20190619	厚原 1229-16　外 集合住宅新築	668.440 19.847		なし	なし	佐藤・小島
H31 -19	1 章 2 節 18	入山搬城跡 第 2 地区 1 次調査	確認	20190624 ～20190626	入山搬四丁目 335-1 宅地分譲	835.030 10.244		なし	なし	佐藤・小島
H31 -20	1 章 2 節 19	舟久保遺跡 第 65 地区 1 次調査	確認	20190705 ～20190708	今泉 2054-1 建売個人住宅建設	666.590 22.272		なし	なし	佐藤・小島
H31 -21	1 章 2 節 20	東平遺跡 隣接地（第 114 地区 1 次調査）	試掘	20190716 ～20190718	瓜畑町 72　外 店舗建設	1,345.720 7.340		なし	なし	佐藤・小島
H31 -22	1 章 2 節 21	東平遺跡 第 115 地区 1 次調査	確認	20190719	伝法 2821-1 個人住宅新築	263.520 5.272		なし	なし	佐藤・小島
H31 -23	1 章 2 節 22	舟久保遺跡 第 66 地区 1 次調査	確認	20190801 ～20190802	今泉 2030-24 不動産売買	143.920 11.044		なし	なし	佐藤・小島 若林
H31 -24	1 章 2 節 23	川原遺跡 隣接地（第 7 地区 1 次調査）	試掘	20190805 ～20190807	大間字川原 797-1　外 宅地分譲造成	3,994.000 56.016		なし	なし	藤村・若林 志崎
H31 -25	1 章 2 節 24	国久保遺跡 第 10 地区 1 次調査	確認	20190806	国久保三丁目 2263-7 長屋住宅建設	372.340 3.759		なし	なし	佐藤・小島
H31 -26	1 章 2 節 25	沢東 B 遺跡 第 12 地区 1 次調査	確認	20190808	厚原 158-3　外 集合住宅新築	729.910 7.313		なし	なし	佐藤・小島 志崎
H31 -27	1 章 2 節 26	舟久保遺跡 第 67 地区 1 次調査	確認	20190829 ～20190831	今泉六丁目 656-6 個人住宅新築	327.280 9.889	奈良・平安	ピット	土器	佐藤・小島
H31 -28	1 章 2 節 27	沢東 B 遺跡 第 13 地区 1 次調査	確認	20190819 ～20190821	厚原 167-1 車庫改修	32,515.480 16.195		なし	なし	佐藤・小島 志崎
H31 -29	1 章 2 節 28	東平遺跡 第 116 地区 1 次調査	確認	20190820	伝法 2653-4 個人住宅新築	190.780 33.231		なし	なし	藤村・若林 志崎
H31 -30	1 章 2 節 29	比谷 4 古墳群 第 3 地区 1 次調査	確認	20190827	比谷 1106-3 個人住宅新築	198.000 15.090		なし	なし	藤村・若林 志崎
H31 -31	1 章 2 節 30	天間沢遺跡 第 40 地区 4 次調査	確認	20190826	天間 1001-6 個人住宅新築	321.000 12.693		なし	なし	佐藤・小島
H31 -32	2 章	東平遺跡 第 117 地区 1 次調査	確認	20190902	伝法 3014-11 個人住宅新築	111.470 8.298	奈良・平安	ピット	なし	佐藤・小島
H31 -33	3 章	滝下遺跡 隣接地（N 地区 1 次調査）	試掘	20190904 ～20190906	伝法 2316-1 宅地分譲	1,200.000 106.659	奈良・平安	ピット	土器	佐藤・小島 若林・志崎

調査番号	所収番号	遺跡名 地区名	調査種類	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積 調査面積 (㎡)	時代	遺構	遺物	調査担当者
H31 -34	1 章 2 節 31	天間沢遺跡 第 57 地区 1 次調査	確認	20190909 ～ 20190912	天間 529-1　外 宅地分譲	4,200.000 173.008	縄文・奈良	(縄文) 土坑・ピット (奈良) 竪穴建物跡・溝 土坑・ピット	土器・石器	佐藤・若林 志崎
H31 -35	1 章 2 節 32	厚原遺跡 第 9 地区 1 次調査	確認	20190906	厚原 710-1　外 南岡住宅建築	468.000 14.759		なし	なし	藤村・若林
H31 -36	1 章 2 節 33	舟久保遺跡 第 68 地区 1 次調査	確認	20190912	今泉八丁目 1586-2 個人住宅新築	152.810 3.351	奈良・平安	竪穴建物跡	土器	佐藤・若林 志崎
H31 -37	1 章 2 節 34	宇実川遺跡 第 28 地区 1 次調査	確認	20190925 ～ 20190926	今泉 1692-4 集合住宅新築	954.790 29.909		なし	なし	佐藤・若林 志崎
H31 -38	1 章 2 節 35	コーカン団遺跡 第 4 地区 1 次調査	確認	20191007	江尻 667-7 個人住宅新築	204.620 6.802		なし	なし	佐藤・小島
H31 -39	1 章 2 節 36	天間沢遺跡 第 58 地区 1 次調査	確認	20190919	天間 1137-1 個人農地改良	350.000 26.279	縄文	なし	土器	佐藤・若林 志崎
H31 -40	1 章 2 節 37	沢東 A 遺跡 第 22 次調査地点 1 次調査	確認	20191002 ～ 20191003	久沢 -158-1 貸倉庫建設	2,290.000 54.950		なし	なし	藤村・若林 志崎
H31 -41	1 章 2 節 38	柏原遺跡 第 15 地区 1 次調査	確認	20191002 ～ 20191003	中柏原新田 164-1 宅地造成	245.000 6.849	奈良	土坑・ピット	土器	佐藤・小島
H31 -42	1 章 2 節 39	三日市廃寺跡 東平遺跡第 118 地区 1 次調査	確認	20191114	浅間上町 2926-1　外 宅地分譲	1,530.000 9.283	奈良・平安	ピット	土器	佐藤・志崎
H31 -43	4 章	三新田遺跡 N 地区 1 次調査	確認	20191018 ～ 20191023	松新田 189-1 個人住宅新築	271.640 8.963	古墳・奈良	竪穴建物跡	(古墳) 土器 (奈良) 金属製品	佐藤・小島
H31 -44	1 章 2 節 40	石反 B 古墳群 第 2 地区 1 次調査	確認	20191010 ～ 20191017	今泉 3443-6　外 集合住宅新築	841.840 43.861	奈良・平安	なし	土器	藤村・小島
H31 -45	1 章 2 節 41	富士見 I 古墳群 第 18 地区 1 次調査	確認	20191025 ～ 20191028	北原 1749-1 個人住宅新築	312.160 9.716		なし	なし	佐藤・小島
H31 -46	1 章 2 節 42	宇実川遺跡 第 29 地区 1 次調査	確認	20191031	原田 704 公園整備	2,385.000 40.083	縄文・古墳 奈良・平安	竪穴建物跡・土坑	縄文土器・土師器 須恵器・灰釉陶器	藤村・小島 志崎
H31 -47	1 章 2 節 27	沢東 B 遺跡 第 13 地区 2 次調査	確認	20191107	厚原 167-1 建築虚偽	32,515.480 20.197		なし	なし	佐藤・小島 若林・志崎
H31 -48	1 章 2 節 43	天間沢遺跡 第 52 地区 2 次調査	確認	20191105	天間 1130-2 個人住宅新築	263.000 5.687		なし	なし	佐藤・小島 志崎
H31 -49	1 章 2 節 44	三日市廃寺跡 東平遺跡第 119 地区 1 次調査	確認	20191125	浅間上町 2920-2 宅地分譲	659.760 35.184	奈良・平安	竪穴建物跡 ピット	土器	佐藤・若林
H31 -50	1 章 2 節 45	仲田遺跡 第 159 次調査地点	確認	20191210 ～ 20191211	今泉 470-3 工場新築	999.210 17.713		なし	なし	佐藤・若林
H31 -51	1 章 2 節 46	東平遺跡 第 120 地区 1 次調査	確認	20191204	伝法 2581-7 個人住宅新築	384.120 16.987		なし	なし	佐藤・若林
H31 -52	1 章 2 節 47	天間沢遺跡 第 59 地区 1 次調査	確認	20191212	天間 584-13 不動産売買	227.090 4.078		なし	なし	佐藤・若林
H31 -53	1 章 2 節 48	宇実川遺跡 Z 地区 4 次調査	確認	20191211	原田 628-24 個人住宅新築	174.150 3.323	縄文	なし	土器	佐藤・若林
H31 -54	1 章 2 節 49	天間沢遺跡 第 60 地区 1 次調査	確認	20191216 ～ 20191217	天間 1069-2 個人住宅新築	198.340 4.781		なし	なし	佐藤・志崎
H31 -55	1 章 2 節 50	東平遺跡 第 121 地区 1 次調査	確認	20191223	伝法 2502-1 宅地造成	570.090 10.754	奈良	溝・ピット	土器	佐藤・志崎
H31 -56	1 章 2 節 51	弥宮ノ前遺跡 第 6 地区 1 次調査	確認	20200114 ～ 20200115	比奈 1592-2　外 宅地造成	300.000 8.898		なし	なし	佐藤・志崎
H31 -57	1 章 2 節 52	東平遺跡 第 122 地区 1 次調査	確認	20200116	伝法 2839-5 住宅擁壁新築	26.540 5.769	古墳～奈良	なし	土器	藤村・小島
H31 -58	1 章 2 節 53	東平遺跡 第 123 地区 1 次調査	確認	20200124	伝法 2663-1　外 集合住宅新築	380.410 10.081		なし	なし	佐藤・若林 志崎
H31 -59	1 章 2 節 54	東平遺跡 第 124 地区 1 次調査	確認	20200128 ～ 20200129	伝法 3048 個人住宅新築	340.000 10.590		なし	なし	佐藤・若林 志崎
H31 -60	1 章 2 節 55	出口遺跡 隣接地（V地区 1 次調査）	試掘	20200203 ～ 20200205	伝法 277-1　外 不動産売買	3,816.160 167.760		なし	なし	藤村・小島 志崎
H31 -61	1 章 2 節 56	沢東 A 遺跡 第 23 次調査地点 1 次調査	確認	20200212	久沢 8-1 住宅展示場建設	937.720 34.466		なし	なし	藤村・小島
H31 -62	1 章 2 節 57	船津 8 古墳群 第 2 地区 1 次調査	確認	20200219 ～ 20200220	船津 755-1 危険農地再生事業	203.000 20.002		なし	なし	藤村・小島
H31 -63	1 章 2 節 58	木の宮遺跡 第 3 地区 1 次調査	確認	20200226 ～ 20200227	三ツ沢 219-1　外 宅地造成	5000 20.523		なし	なし	佐藤・若林
H31 -64	1 章 2 節 59	東平遺跡 第 125 地区 1 次調査	確認	20200305	伝法 2806-5　外 個人住宅建設	522.870 27.520	奈良・平安	ピット	なし	佐藤・若林
H31 -99	5 章	増川古墳群 浅間古墳	地中探査	20191017 ～ 20191018	増川 624　外					

第2節　令和元年度の発掘調査報告

1　東平遺跡　第 111 地区 1 次調査

所在地　伝法 2400-2

調査面積　4,639 ㎡（対象面積　1,123.65 ㎡）

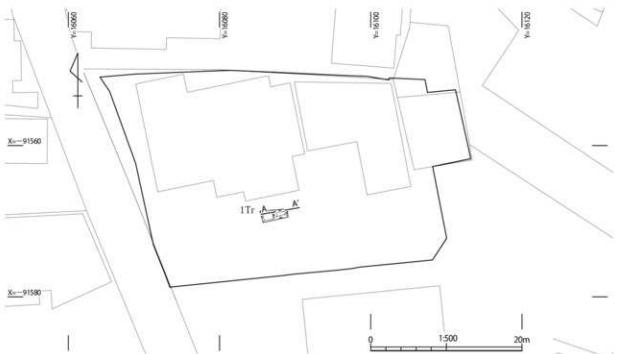
調査期間　平成 31 年 4 月 9 日～4 月 11 日

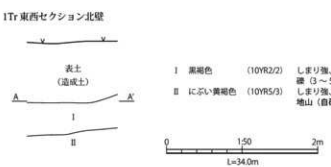
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　調査地に東西方向のトレンチを 1 本設定し、重機による掘削後、人力精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果　調査地には近代の造成土が厚く存在するが、地表下 0.8 m以下には古代以前の自然堆積土が確認される。遺構・遺物は検出されなかった。

第 2 図　東平遺跡第 111 地区　位置図





第 3 図　東平遺跡第 111 地区　トレンチ配置図、セクション図

2　花守遺跡　第７地区１次調査

所在地　富士岡 307-1

調査面積　17.351 ㎡（対象面積　734 ㎡）

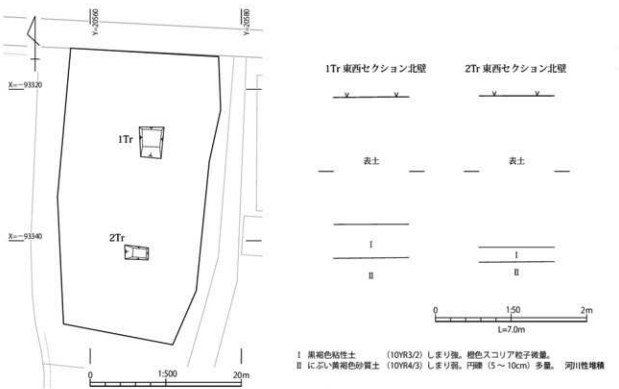
調査期間　平成 31 年４月 15 日～４月 16 日

調査の原因　郵便局新築

調査の概要　トレンチを２箇所設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査地には厚く近代の造成土が存在するが、地表下 1.7m ～ 2.0m 以下に自然堆積土が存在する。Ⅱ層は赤褐川起源とみられる河川性堆積物である。遺構および遺物は検出されなかった。

第４図　花守遺跡第７地区　位置図



第５図　花守遺跡第７地区　トレンチ配置図、セクション図

3　天間沢遺跡　第 55 地区１次調査

所在地　天間 1075-1　外

調査面積　91.819 ㎡（対象面積　1,804 ㎡）

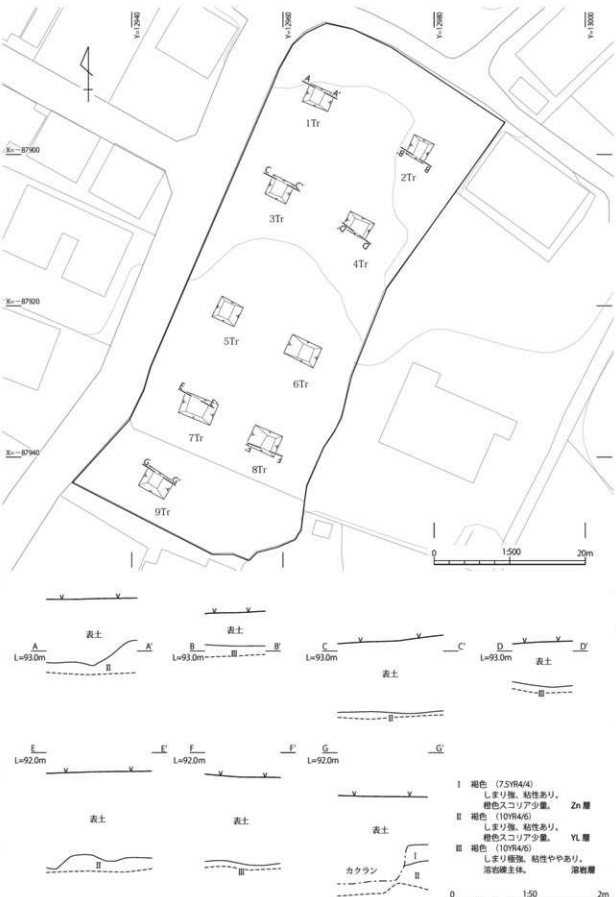
調査期間　平成 31 年４月 17 日～４月 18 日

調査の原因　宅地分譲地造成

調査の概要　９箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査地全体において、近代の大規模な削平によって遺物包含層が失われており、調査地内に埋蔵文化財は存在しないものと判断された。

第６図　天間沢遺跡第 55 地区　位置図



第7図 天間沢遺跡第55地区 トレンチ配置図、セクション図

4　天間代山遺跡　第５地区１次調査

所在地　天間 1431-11、-1

調査面積　33.492 ㎡（対象面積 1,470 ㎡）

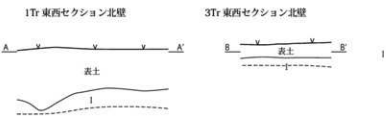
調査期間　平成 31 年 4 月 23 日～4 月 24 日

調査の原因　店舗建設

調査の概要　3 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査地では近代の大規模な削平と造成によって遺物包含層が失われていた。しかし、少量の土器片が表採されたことから、削平以前には当該地周辺に遺跡が存在した可能性がある。

第８図　天間代山遺跡第５地区　位置図



第９図　天間代山遺跡第５地区　トレンチ配置図、セクション図

5　沢東A遺跡　第21次調査地点1次調査

所在地　久沢 83-4

調査面積　20.007 ㎡（対象面積 912 ㎡）

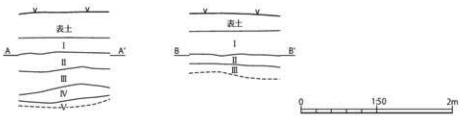
調査期間　平成 31 年 4 月 25 日

調査の原因　貸倉庫新築

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下 0.5m 以下において大淵スコリアを含む自然堆積層（古墳～奈良時代）を確認したが、その上下の層に遺構や遺物はみられず、敷地内に埋蔵文化財は存在しないものと判断される。

第 10 図　沢東 A 遺跡第 21 次調査地点　位置図



I 浅黄橙色粘性土　(7.5YR8/4) しまり強。炭化物粒子微量。　旧耕作土
II 黒褐色粘性土　(7.5YR3/1) しまり強。大淵スコリア（3～5mm）中量。
III 橙色粘性土　(7.5YR6/6) しまり強。大淵スコリア（3～5mm）微量。
IV にぶい褐色砂質土 (7.5YR5/3) しまり弱。礫（1～5cm）極多量。　扇状地堆積物層
V 明赤褐色砂質土 (2.5YR5/6) しまり弱。礫（1～2cm）極多量。　扇状地堆積物層

第 11 図　沢東 A 遺跡第 21 次調査地点　トレンチ配置図、セクション図

6　国久保遺跡　第９地区１次調査

所在地　伝法 2001-6

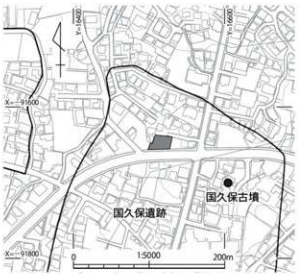
調査面積　10.098 ㎡（対象面積 417.27 ㎡）

調査期間　令和元年５月８日～５月９日

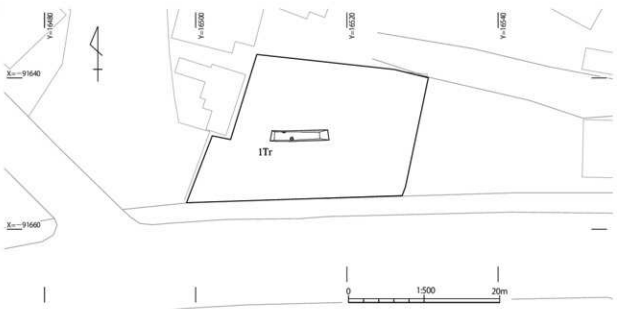
調査の原因　事務所兼展示場新築

調査の概要　１箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

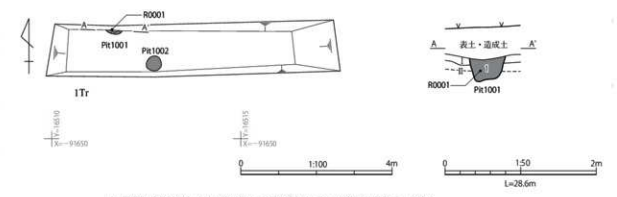
調査の結果　奈良時代と考えられるピット２基（Pit1001 ～ 1002）を検出した。地表にも多数の土器が確認されることから、敷地全体に遺跡が展開するものと考えられる。Pit1001 から８世紀代に位置づけられる駿東甕の破片（R0001）が出土したが、図化には至らなかった。



第 12 図　国久保遺跡第９地区　位置図



第 13 図　国久保遺跡第９地区　トレンチ配置図



I　黒褐色（7.5YR3/1）しまりややあり、粘性ややあり、オレンジ粒子中量含む。　旧表土
II　黒褐色（7.5YR3/2）しまりややあり、粘性ややあり。　地山

1　黒褐色（7.5YR3/1）しまりややあり、粘性ややあり、オレンジ粒子中量含む。　Pit1001 覆土

第 14 図　国久保遺跡第９地区　トレンチ平面図、セクション図

7　東平遺跡　第 112 地区 1 次調査

所在地　伝法 2355-1

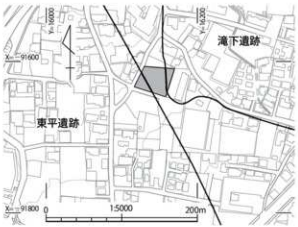
調査面積　75.301 ㎡（対象面積 1,467 ㎡）

調査期間　令和元年 5 月 8 日～ 5 月 9 日

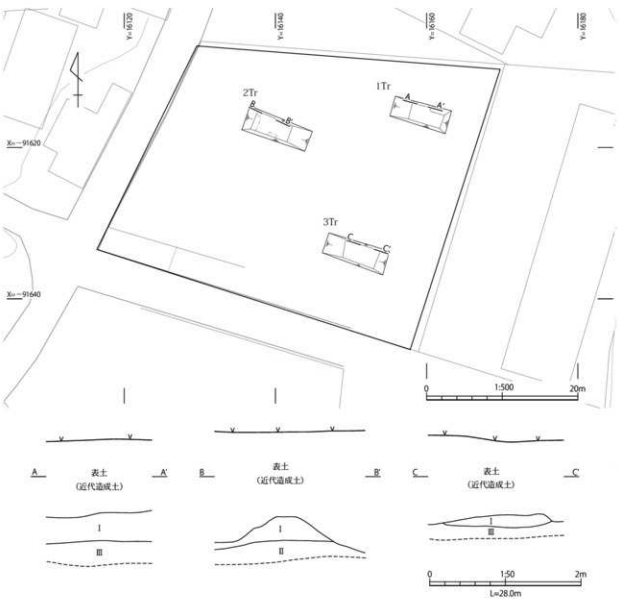
調査の原因　宅地分譲

調査の概要　3 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　敷地全体にわたって近代の削平が及んでおり、遺存する基盤層周辺を精査したものの、遺構や遺物は検出されなかった。したがって、敷地内に埋蔵文化財は存在しないものと判断される。



第 15 図　東平遺跡第 112 地区　位置図



第 16 図　東平遺跡第 112 地区　トレンチ配置図、セクション図

8　神谷古墳群　第 11 地区 2 次調査

所在地　川尻 480-1　外

調査面積　215.351 ㎡（対象面積 700 ㎡）

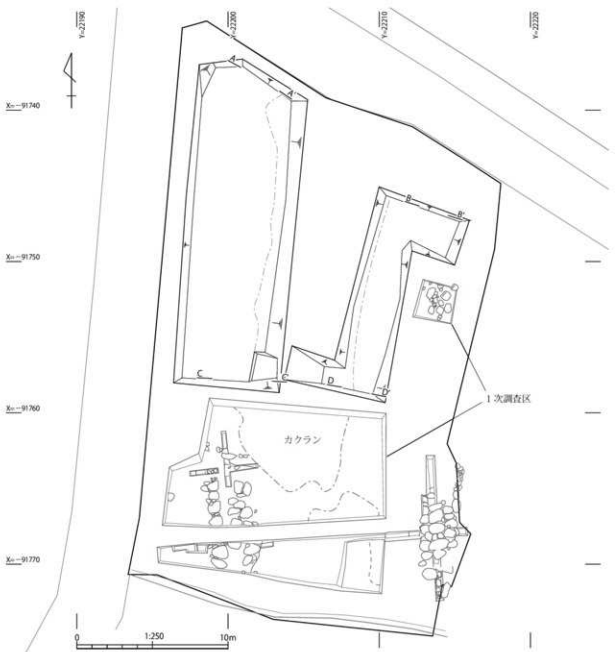
調査期間　令和元年 5 月 13 日～ 5 月 20 日

調査の原因　水源地新設

調査の概要　平成 30 年度に行った 1 次調査に引き続き、敷地内の北側に調査工区を設定し、重機による掘削を行った後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　敷地内中央に南北方向の大規模な撹乱が検出されたため、その周辺を中心に精査したが、古墳の痕跡を確認することはできなかった。

第 17 図　神谷古墳群第 11 地区　位置図



第 18 図　神谷古墳群第 11 地区　調査区配置図

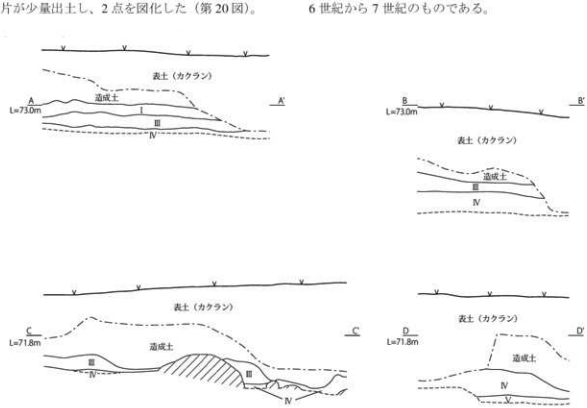
2次調査区内は、古代には体場層形成以前に流れ込んだ大型の石が多く露頭する環境であったため、古墳を築造するには支障があった可能性がある。

遺物は、周辺の古墳からの流れ込みとみられる土器片が少量出土し、2点を図化した（第20図）。

1・2はいずれも須恵器甕の胴部片である。

1は外面にはタタキメが残るが内面はナデている。7世紀に位置づけられる。

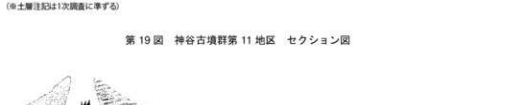
2は外面にタタキメ、内面に当て具の痕跡が残る。6世紀から7世紀のものである。



I	黒褐色土層	(10YR2/2)	しまりややあり。粘性弱。大淵スコリア多量含む。	大淵スコリア層
II	黒褐色土層	(10YR2/2)	しまり弱。粘性なし。	大淵スコリア純層
III	黒色土層	(2.5Y5/2)	しまりあり。粘性あり。橙色粒子多量含む。	大沢層
IV	黒褐色土層	(10YR3/1)	しまりあり。粘性あり。橙色粒子多量含む。	YL1層？
V	褐色土層	(10YR4/4)	しまり強。粘性弱。褐色粒子微量。ローム質。	YL層？

（※土層注記は1次調査に準ずる）

第19図　神谷古墳群第11地区　セクション図



第20図　神谷古墳群第11地区　出土遺物実測図

第3表　神谷古墳群第11地区　出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	計量（cm） 口径	底径	器高	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第20図1	R0020	PL.2	2工区	須恵器	甕	7C	-	-	(5.5)	良好	-	灰黄（2.5Y7/2）	灰白（2.5Y7/1）
第20図2	R0020	PL.2	2工区	須恵器	甕	6～7C	-	-	(2.3)	良好	-	黄灰（2.5Y5/1）	オリーブ黒（5Y3/1）

9　善得寺城跡・東泉院跡　第４地区１次調査

所在地　今泉八丁目 1418-2

調査面積　3,774 ㎡（対象面積 216.82 ㎡）

調査期間　令和元年５月 14 日

調査の原因　不動産売買

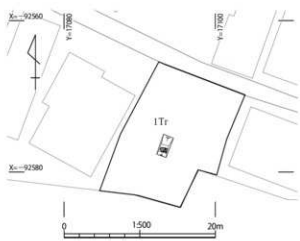
調査の概要　１箇所のトレンチを設定し、重機による掘削の後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　土坑１基（SK1001）を検出した。土坑からは小破片ながら弥生土器が出土したことから当該期の遺構と想定される。

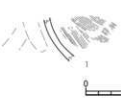
また、地表から 1.1m の深さには、平安時代の土器を含む土層も良好に遺存していることが明らかとなった。

出土した遺物のうち、SK1001 から出土した弥生時代後期の壺の頸部片を図化した（第 22 図 1）。外面はナナメハケ目調整で、内面はナデている。

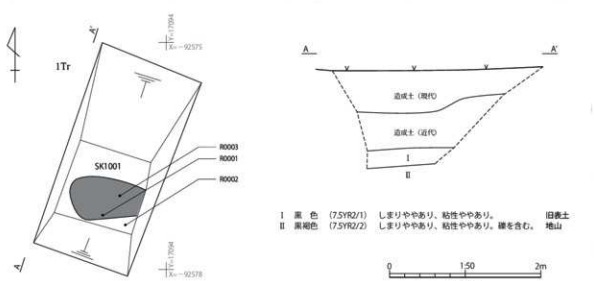
第 21 図　善得寺城跡・東泉院跡第４地区　位置図



第 23 図　善得寺城跡・東泉院跡第４地区　トレンチ配置図



第 22 図　善得寺城跡・東泉院跡第４地区　出土遺物実測図



第 24 図　善得寺城跡・東泉院跡第４地区　トレンチ平面図、セクション図

第４表　善得寺城跡・東泉院跡第４地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）			成形	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第 22 図 1	R0003	PL.3	1Tr　SK1001	弥生土器	壺	弥生後期	-	-	(3.4)	良好	-	橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）

10　天間沢遺跡　第 56 地区 1 次調査

所在地　天間 1010-1

調査面積　10.552 ㎡（対象面積 280 ㎡）

調査期間　令和元年 5 月 20 日

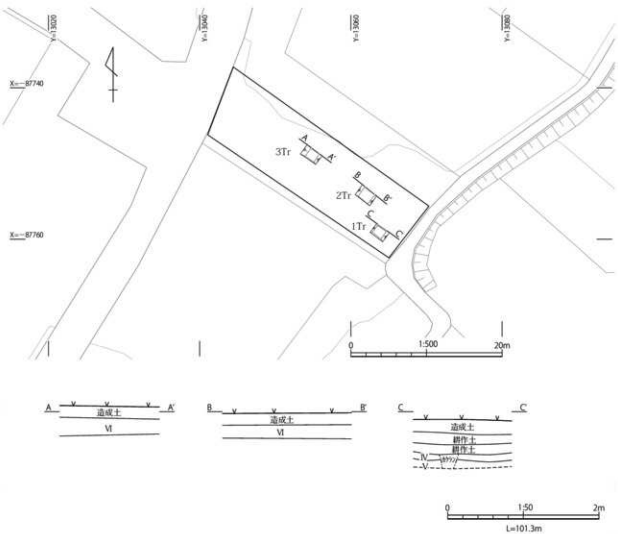
調査の原因　宅地分譲

調査の概要　3 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は確認されなかった。

調査地全体が大規模に削平を受けていることが明らかとなり、調査地内に埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

第 25 図　天間沢遺跡第 56 地区　位置図



Ⅳ　漸移層（Zn）　暗褐色。褐色味の強い土と黒味が強い土が混ざり合い、鮮やかな橙色のスコリア粒を少量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

Ⅴ　休場層（YL）　明褐色。全体的に赤みが強く、橙色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

Ⅵ　古富士泥流層

第 26 図　天間沢遺跡第 56 地区　トレンチ配置図、セクション図

11　中里２古墳群　第３地区１次調査

所在地　中里 1474-1　外

調査面積　52.206 ㎡（対象面積 280 ㎡）

調査期間　令和元年 5 月 22 日

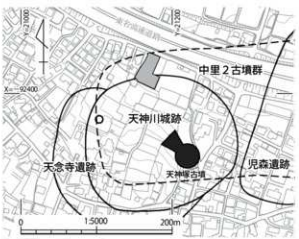
調査の原因　集合住宅新築

調査の概要　5 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

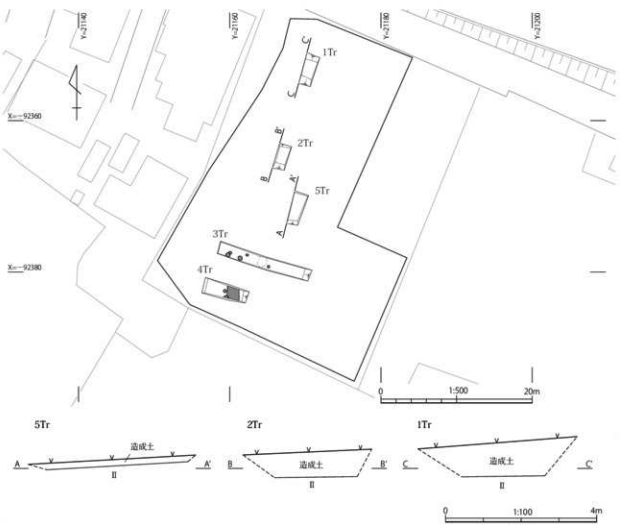
調査の結果　敷地北側（1Tr、2Tr、5Tr）は大規模に削平を受けていたが、敷地南側（3Tr、4Tr）には奈良時代の竪穴建物跡（SB1001）や、縄文時代中期の遺物包含層が残存することが明らかとなった。

遺物は縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代の遺物が出土したが、図化には至らなかった。

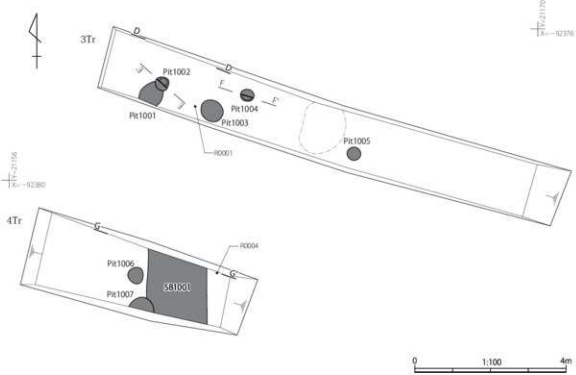
対象地は中里２古墳群の範囲内に含まれているが、対象地南側に展開する天念寺遺跡の範囲として捉えることが望ましいと考えられたため、令和元年 6 月 6 日、天念寺遺跡の登録内容変更（包蔵地範囲の拡大、遺跡の時代および種類の変更）を行った。

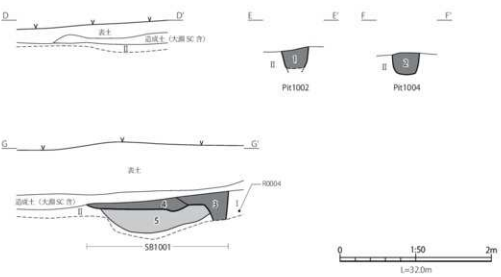


第 27 図　中里２古墳群第３地区　位置図



第 28 図　中里２古墳群第３地区　トレンチ配置図、1Tr・2Tr・5Tr セクション図





1 黒 色 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性ややあり。オレンジ色粒子を中量含む。
II 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性ややあり。 地山

1 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりあり、粘性ややあり。オレンジ色粒子を少量含む。 Pit1002 覆土
2 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりあり、粘性ややあり。上面に大淵SC 少量含む。オレンジ色粒子少量含む。 Pit1004 覆土
3 黒 色 (7.5YR2/1) しまりあり、粘性ややあり。大淵SC を多量含む。 SB1001 覆土
4 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性ややあり。焼土を多量、大淵SC を中量含む。 SB1001 のカマドか炉跡
5 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性ややあり。地山をシミ状に含む。 SB1001 掘り方埋土

Pit1001・Pit1003・Pit1005 の覆土
黒 色 (7.5YR2/1) しまりあり、粘性あり。（縄文時代の土坑か）

第 29 図　中里 2 古墳群第 3 地区　3Tr・4Tr　平面図、セクション図

12　大坂遺跡　第２地区１次調査

所在地　大淵 8553-4　外

調査面積　10.014 ㎡（対象面積 925.60 ㎡）

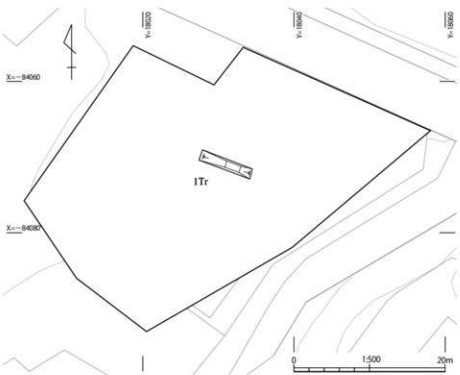
調査期間　令和元年 5 月 27 日

調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　埋蔵文化財は確認されなかった。

第 30 図　大坂遺跡第２地区　位置図



第 31 図　大坂遺跡第２地区　トレンチ配置図、セクション図

13　花守遺跡　第８地区１次調査

所在地　富士岡 127-2

調査面積　30.107 ㎡（対象面積 1,107.28 ㎡）

調査期間　令和元年 5 月 22 日

調査の原因　宅地分譲地造成

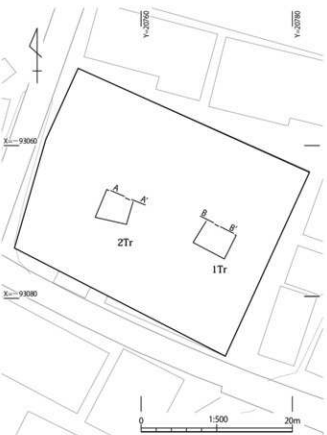
調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行った後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査区西側の 2Tr では、地表下 1.2 m で赤淵川から派生するとみられる旧小河道（砂礫層）が検出されたため、浸水著しく、それより下層を掘削することができなかった。

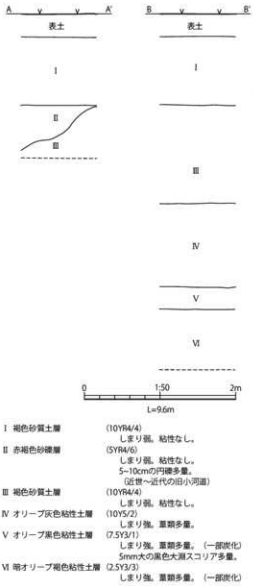
第 32 図　花守遺跡第８地区　位置図

東側の 1Tr では地表下 3.6m 以下に大溝スコリア含有層（V層、5 ～ 6 世紀頃堆積）が良好に遺存していたが、その上下の層において遺構・遺物は発見されなかった。

以上のことから、調査地内に埋蔵文化財は存在しないものと判断される。



第 33 図　花守遺跡第 8 地区　トレンチ配置図



第 34 図　花守遺跡第 8 地区　セクション図

14　中島遺跡　第 15 地区 1 次調査

所在地　原田 771-2　外

調査面積　4,459 ㎡（対象面積 218 ㎡）

調査期間　令和元年 6 月 4 日

調査の原因　宅地造成

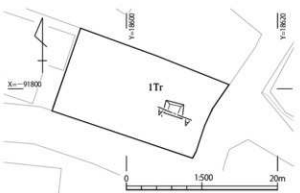
調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行った後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下 1.0 m以下において、植物や円礫を含む粘質土層等が発達しており、当該地は旧松原川の縁辺に広がる湿地帯の一部であったと推察された。

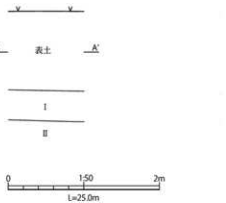
第 35 図　中島遺跡第 15 地区　位置図

地表下 1.4 m程で浸水が顕著となり、それ以上の掘削を行うことができず、遺構・遺物は確認されなかった。

本遺跡や対岸に位置する宇東川遺跡は基本的には松原川に面した台地上に展開する点から、当該地に埋蔵文化財が存在した可能性は極めて低いものと判断される。



第 36 図　中島遺跡第 15 地区　トレンチ配置図



I　灰色粘質土層　(7.5Y4/1)
しまり弱、粘性あり。
植物を多く含む。
II　灰オリーブ粘土層　(5Y5/3)
しまり強、粘性強。酸化鉄分混入。
円礫（3〜5cm）中量。

第 37 図　中島遺跡第 15 地区　セクション図

15　善得寺城跡・東泉院跡　第 5 地区 1 次調査

所在地　今泉八丁目 1387-1

調査面積　6,293 ㎡（対象面積 348.13 ㎡）

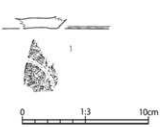
調査期間　令和元年 6 月 5 日

調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

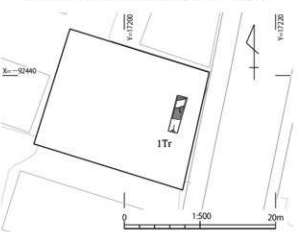
調査の結果　奈良・平安時代と推定される竪穴建物跡 2 軒（SB1001 〜 1002）を検出し、当該期の土器が出土した。溶岩礫を含む方形の掘り込み（SX1001）は近世の建物に伴うものと推定される。

1Tr 出土遺物から、土師器坏の底部片 1 点を図化した（第 39 図 1）。外面に糸切り痕が残る。10 世紀から 11 世紀に位置づけられる。

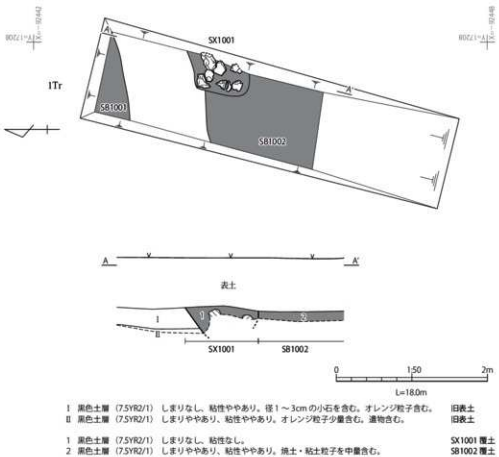


第 39 図　善得寺城跡・東泉院跡第 5 地区　出土遺物実測図

第 38 図　善得寺城跡・東泉院跡第 5 地区　位置図



第 40 図　善得寺城跡・東泉院跡第 5 地区　トレンチ配置図



第 41 図　善得寺城跡・東泉院跡第 5 地区　トレンチ平面図、セクション図

第 5 表　善得寺城跡・東泉院跡第 5 地区　出土遺物観察表

挿図番号	取番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm) 口径	底径	器高	構成	残存率	内面色調	外面色調
第 39 図 1	R0001	PL.4	1Tr	土師器	坏	10～11C	-	-	(0.9)	良好	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)

16　舟久保遺跡　第 64 地区 1 次調査

所在地　今泉 2030-20

調査面積　6.345 ㎡（対象面積 165.73 ㎡）

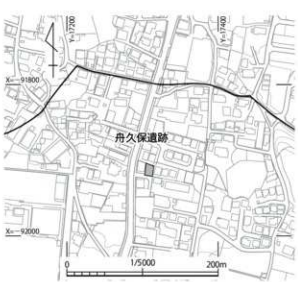
調査期間　令和元年 5 月 31 日

調査の原因　個人住宅新築

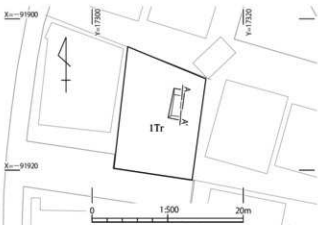
調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行った後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査区は地表下 0.9 m まで近代の削平とそれに伴う造成が行われており、基盤層も自破砕溶岩層以下しか残存しておらず、遺構や遺物は発見されなかった。

したがって、敷地内に埋蔵文化財は存在しないものと判断される。



第 42 図　舟久保遺跡第 64 地区　位置図



第 43 図　舟久保遺跡第 64 地区　トレンチ配置図、セクション図

17　厚原横道下遺跡　第 6 地区 1 次調査

所在地　厚原 1229-16　外

調査面積　19.847 ㎡（対象面積 668.44 ㎡）

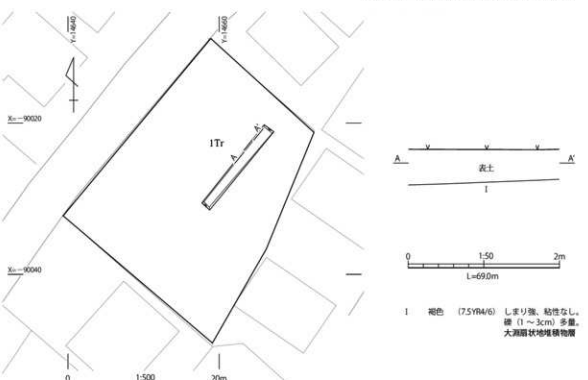
調査期間　令和元年 6 月 18 日～ 6 月 19 日

調査の原因　集合住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物ともに検出されなかった。

第 44 図　厚原横道下遺跡第 6 地区　位置図



第 45 図　厚原横道下遺跡第 6 地区　トレンチ配置図、セクション図

18　入山瀬城跡　第２地区１次調査

所在地　入山瀬四丁目 335-1

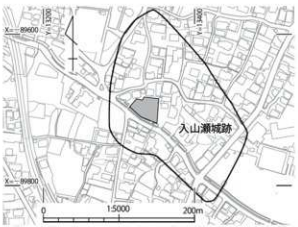
調査面積　10,244 ㎡（対象面積 835.03 ㎡）

調査期間　令和元年 6 月 24 日～ 6 月 26 日

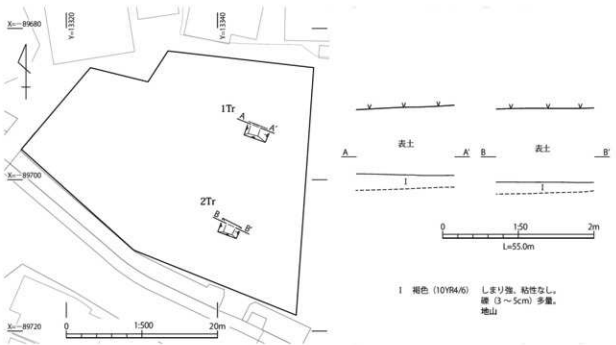
調査の原因　宅地分譲

調査の概要　２箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物ともに検出されなかった。



第 46 図　入山瀬城跡第２地区　位置図



第 47 図　入山瀬城跡第２地区　トレンチ配置図、セクション図

19　舟久保遺跡　第 65 地区１次調査

所在地　今泉 2054-1

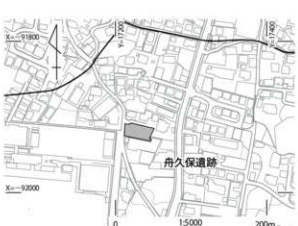
調査面積　22,272 ㎡（対象面積 666.59 ㎡）

調査期間　令和元年 7 月 5 日～ 7 月 8 日

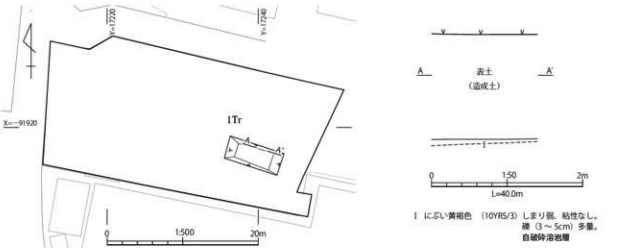
調査の原因　建売個人住宅建設

調査の概要　１箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物ともに検出されなかった。



第 48 図　舟久保遺跡第 65 地区　位置図



第 49 図　舟久保遺跡第 65 地区　トレンチ配置図、セクション図

20　包蔵地外 東平遺跡隣接地(第 114 地区 1 次調査)

所在地　瓜島町 72、73-2

調査面積　7,340 ㎡（対象面積 1,345.72 ㎡）

調査期間　令和元年 7 月 16 日～7 月 18 日

調査の原因　店舗建設

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　旧富士川の流路内と考えられる砂礫層が検出され、遺構・遺物ともに検出されなかった。当該地は埋蔵文化財が存在する立地ではないことが明らかとなった。

第 50 図　東平遺跡第 114 地区　位置図

第 51 図　東平遺跡第 114 地区　トレンチ配置図、セクション図

21　東平遺跡　第 115 地区 1 次調査

所在地　伝法 2821-1

調査面積　5,272 ㎡（対象面積 263.52 ㎡）

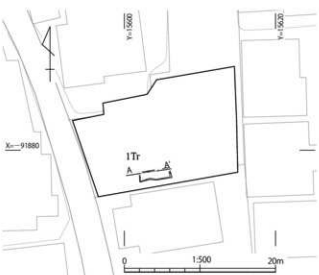
調査期間　令和元年 7 月 19 日

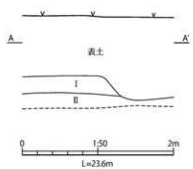
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物ともに検出されなかった。当該地は埋蔵文化財が存在しない空白域と考えられる。

第 52 図　東平遺跡第 115 地区　位置図





I　黒色　(7.5YR2/1)　しまりなし、粘性なし。地山粒子少量。旧表土

II　黒褐色　(7.5YR3/2)　しまりややあり、粘性なし。地山

第 53 図　東平遺跡第 115 地区　トレンチ配置図、セクション図

22　舟久保遺跡　第 66 地区 1 次調査

所在地　今泉 2030-24

調査面積　11,044 ㎡（対象面積 143.92 ㎡）

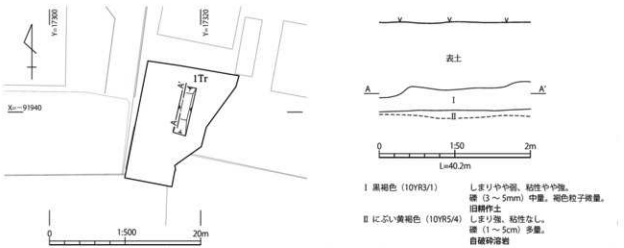
調査期間　令和元年 8 月 1 日～ 8 月 2 日

調査の原因　不動産売買

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　旧耕作土から土師器の小片 2 点が出土したものの、ビニールなどが混じることから遺物包含層を形成しているとは言えない。当該地は、埋蔵文化財が存在しない空白域と考えられる。

第 54 図　舟久保遺跡第 66 地区　位置図



第 55 図　舟久保遺跡第 66 地区　トレンチ配置図、セクション図

23　包蔵地外 川坂遺跡隣接地（第 7 地区 1 次調査）

所在地　天間 797-1　外

調査面積　56.016 ㎡（対象面積 3,994 ㎡）

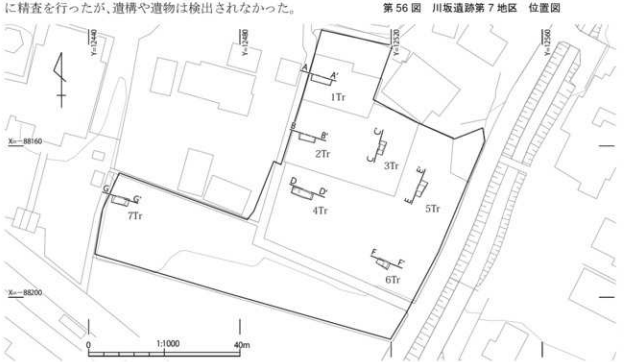
調査期間　令和元年 8 月 5 日～ 8 月 7 日

調査の原因　宅地分譲地造成

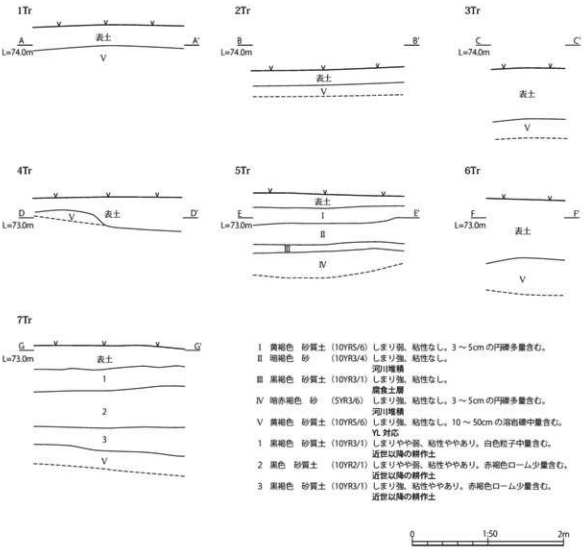
調査の概要　7 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査区西側では休場層相当の基盤層がみられたが、東側では福泉川による浸食の影響とみられる砂礫層が確認された。黄褐色土層上面を中心に精査を行ったが、遺構や遺物は検出されなかった。

第 56 図　川坂遺跡第 7 地区　位置図



第 57 図　川坂遺跡第 7 地区　トレンチ配置図



第 58 図　川坂遺跡第 7 地区　セクション図

24　国久保遺跡　第 10 地区 1 次調査

所在地　国久保三丁目 2263-7

調査面積　3.759 ㎡（対象面積 372.34 ㎡）

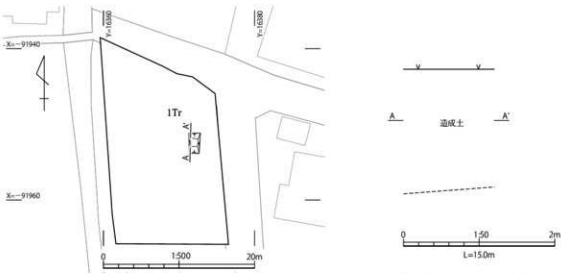
調査期間　令和元年 8 月 6 日

調査の原因　長屋住宅建設

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　当該地はかつて谷地形であったことが聞き取りから判明しており、その谷を埋めるように造成土が厚く存在したため、調査では地山まで到達することができなかった。前述のような地形から埋蔵文化財は存在しなかった可能性が高い。

第 59 図　国久保遺跡第 10 地区　位置図



第 60 図　国久保遺跡第 10 地区　トレンチ配置図、セクション図

25　沢東 B 遺跡　第 12 地区 1 次調査

所在地　厚原 158-3　外

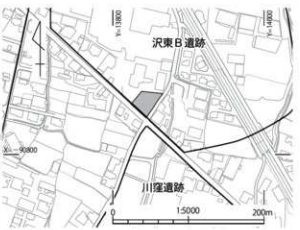
調査面積　7,313 ㎡（対象面積 729.91 ㎡）

調査期間　令和元年 8 月 8 日

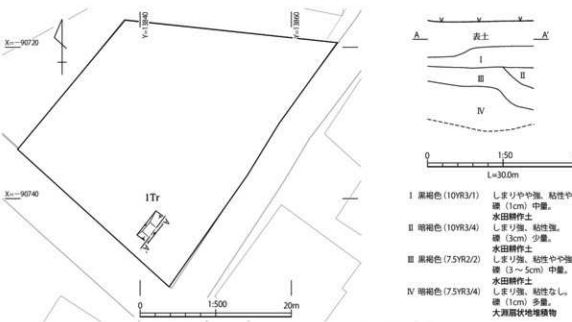
調査の原因　集合住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は発見されなかった。周辺での確認調査の結果からも当該地は遺構が希薄なエリアと想定される。



第 61 図　沢東 B 遺跡第 12 地区　位置図



第 62 図　沢東 B 遺跡第 12 地区　トレンチ配置図、セクション図

26　舟久保遺跡　第 67 地区 1 次調査

所在地　今泉六丁目 656-6

調査面積　9,889 ㎡（対象面積 327.28 ㎡）

調査期間　令和元年 8 月 29 日～ 8 月 31 日

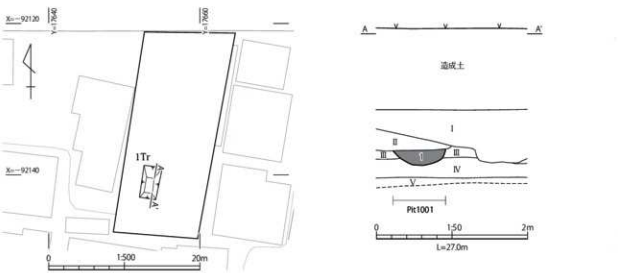
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下 1.6m から奈良・平安時代と考えられるピット（Pit1001）を検出した。当該地には集落域が展開しているものと考えられる。

遺物は 8 世紀から 9 世紀に位置づけられる土器片が少量出土したが、図化には至らなかった。

第 63 図　舟久保遺跡第 67 地区　位置図



I 黒褐色（7.5YR3/1）しまりなし、粘性なし。大淵スコリア少量。遺物を含む。　旧耕作土か
II 黒色　（7.5YR2/1）しまりなし、粘性ややあり。大淵スコリア少量。遺物を含む。　自然堆積層
III 黒色　（7.5YR2/1）しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア少量。　地山
IV 黒色　（7.5YR2/1）しまりややあり、粘性あり。赤色粒子少量。　地山
V 黒色　（7.5YR2/1）しまりややあり、粘性あり。赤色粒子多量。大沢スコリアを含む。　地山

1 黒色　（7.5YR2/1）しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア中量。　Pit1001 覆土

第 64 図　舟久保遺跡第 67 地区　トレンチ配置図、セクション図

27　沢東 B 遺跡　第 13 地区 1 次調査・2 次調査

所在地　厚原 167-1

調査面積　1 次調査：16.195 ㎡
2 次調査：20.197 ㎡
（対象面積 32,515.48 ㎡）

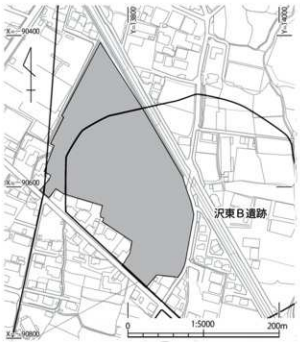
調査期間　1 次調査：令和元年 8 月 19 日～ 8 月 21 日
2 次調査：令和元年 11 月 7 日

調査の原因　建屋改修工事

調査の概要　1 次調査では建物が残存する敷地内に 2 箇所のトレンチ（1 ～ 2Tr）を設定し、2 次調査では建物解体後に 2 箇所のトレンチ（3 ～ 4Tr）を設定した。重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

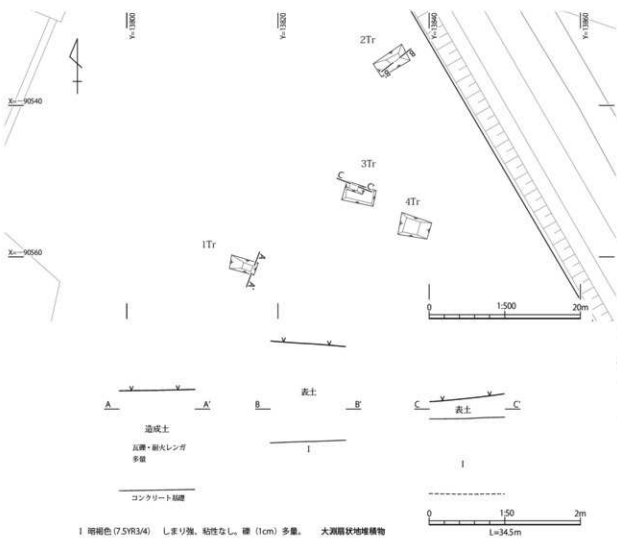
調査の結果　1Tr では近代のレンガ積み建物が地中深く残存しており、遺跡の有無を確認することができなかった。

2 ～ 4Tr では、倉庫建設に伴い旧表土が大規模に削平を受けていることが確認され、遺構・遺物は残存しないことが明らかとなった。



第 65 図　沢東 B 遺跡第 13 地区　位置図

第 66 図　沢東 B 遺跡第 13 地区　トレンチ配置図



第 67 図　沢東 B 遺跡第 13 地区　トレンチ平面図、セクション図

28　東平遺跡　第 116 地区 1 次調査

所在地　伝法 2653-4

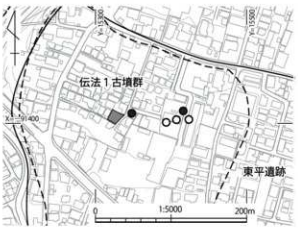
調査面積　33.231 ㎡（対象面積 190.78 ㎡）

調査期間　令和元年 8 月 20 日

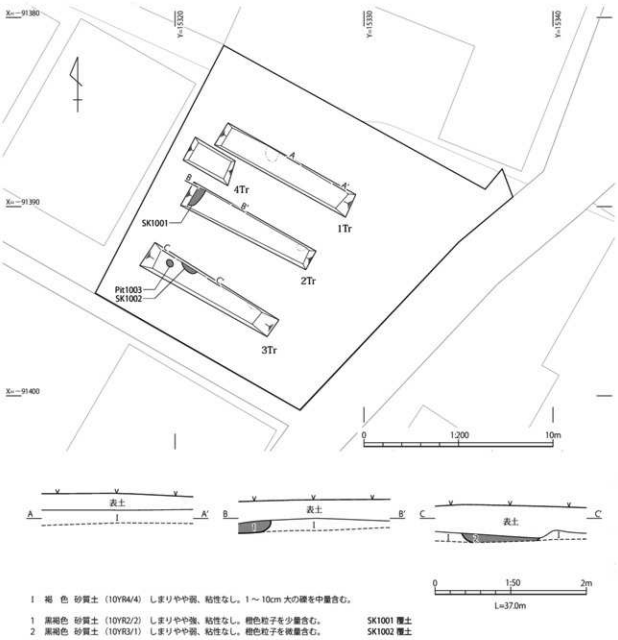
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　4 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　近世以降とみられる土坑・ピット 3 基（SK1001 ～ 1002、Pit1003）を検出したが、本遺跡に該当する中世以前の埋蔵文化財は検出されなかった。



第 68 図　東平遺跡第 116 地区　位置図



第 69 図　東平遺跡第 116 地区　トレンチ平面図、セクション図

29　比奈 4 古墳群　第 3 地区 1 次調査

所在地　比奈 1106-3

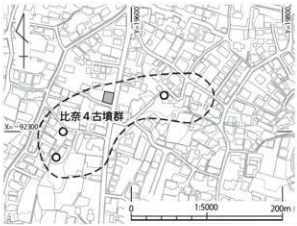
調査面積　15.090 ㎡（対象面積 198 ㎡）

調査期間　令和元年 8 月 27 日

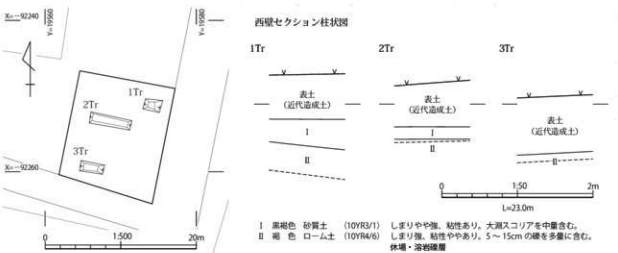
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　3 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削の後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　1Tr・2Tr では表土直下で大澗スコリアを含む黒褐色土層が検出されたものの、その下層の曽比奈溶岩流起源と考えられる褐色ローム土層までの間に遺構や遺物は発見されなかった。



第 70 図　比奈 4 古墳群第 3 地区　位置図



第 71 図　比奈 4 古墳群第 3 地区　トレンチ配置図、セクション図

30　天間沢遺跡　第 40 地区 4 次調査

所在地　天間 1001-6

調査面積　12.693 ㎡（対象面積 321 ㎡）

調査期間　令和元年 8 月 26 日

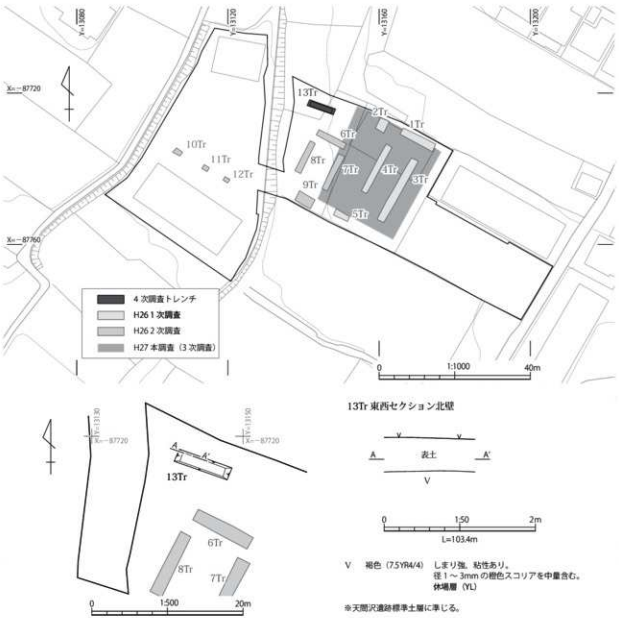
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　本地区では平成 26 年度に確認調査（1～2 次調査、1～12Tr）、平成 27 年度に本発掘調査（3 次調査）を実施し、竪穴建物跡 1 軒、溝 3 条、土坑・ピット 300 基を検出している（富士市教育委員会 2016『天間沢遺跡』富士市埋蔵文化財調査報告 第 58 集）。

1 箇所のトレンチ（13Tr）を設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は検出されなかった。当該地の東側では縄文時代の遺構が展開しているものの、谷に落ち込む当該地は遺構が希薄な範囲と想定される。なお、図化には至らなかったものの、地表面から縄文時代中期に位置づけられる縄文土器片が採集されている。

第 72 図　天間沢遺跡第 40 地区　位置図



第 73 図　天間沢遺跡第 40 地区　トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

31　天間沢遺跡　第 57 地区 1 次調査

所在地　天間 529-1　外

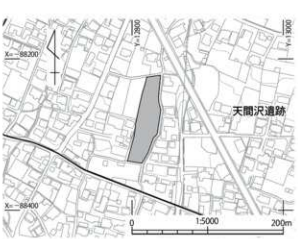
調査面積　173.008 ㎡（対象面積 4,200 ㎡）

調査期間　令和元年 9 月 9 日～ 9 月 12 日

調査の原因　宅地分譲

調査の概要　11 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　対象地内全域において、奈良時代とみられる竪穴建物跡 3 軒（SB1001 ～ 1003）、溝（SD1001 ～ 1004）、縄文時代と奈良時代に位置づけられる土坑・ピット 74 基（Pit1001 ～ 1074）を検出した。



第 74 図　天間沢遺跡第 57 地区　位置図

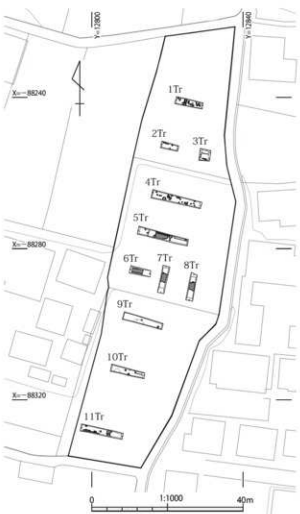
特に敷地中央の 5Tr 周辺では縄文時代中期の遺物包含層が良好に残存している。6Tr・7Tr・8Tr では、東西方向にのびる溝 SD1004 が検出された。SD1004 は幅約 2.3m、深さ約 1.5 m を測り、断面形は V 字形を呈する。覆土の堆積状況から、下層は人為的に埋め戻されている可能性も考えられる溝である。

遺物は縄文土器・石器と土師器が出土し、23 点を図示した（第 80 図）。

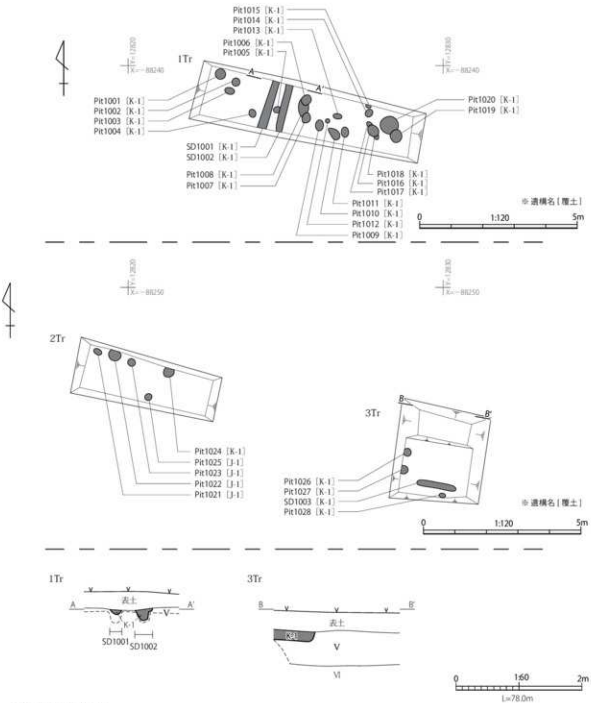
1・2 は、縄文時代中期初頭の五領ヶ台式の土器である。1 は、緩く外反する口縁部で、口唇部は丸くおさまる。口縁部文様帯は、3 条の沈線で横帯区画され、その中に縦位の沈線が施文される。2 には縦位沈線と弧状沈線が施されている。

3 から 22 は縄文時代中期中葉の藤内式の土器である。3 は無文の口縁部で、くの字状に内側に屈曲する。下部に横位の沈線が 2 条巡る。4 は口縁部につく渦巻状の突起で、渦巻の背に沿って連続刺突文が施される。5 は口縁部の際まで縄文を施文した後、口縁に沿ってキャタピラー文と波状沈線を施す。その下に円形のくぼみがつき、波状沈線がくぼみを囲む。6・7 は口縁端部まで縄文を施文した後、横位の波状沈線を巡らせる。8 は波状口縁で、口縁部の内側に突帯が巡る。斜位の隆帯に沿ってキャタピラー文が施文される。9 はキャリパー形の口縁部で、ややみみをもつ重三角区画文である。隆帯の区画に沿って 2 条の平行沈線による擬似隆帯が施される。左側の区画では、擬似隆帯上に連続刺突文が施文され、その内側に縦位の沈線が施される。右側の区画内には沈線に沿ってキャタピラー文が施文される。10 は隆帯による重三角区画文に沿って、キャタピラー文と三角押文が施文される。隆帯の横位部分には刺突が施される。11 は隆帯で楕円形に区画し、隆帯に沿って沈線やキャタピラー文が施される。隆帯上には刻み目が施文される。12 は断面台形の隆帯で楕円形に区画し、隆帯上には縄文が施文される。隆帯に沿ってキャタピラー文が施されるが、区画外側はナデられてつぶれている。13 も隆帯で楕円形に区画し、隆帯に沿ってキャタピラー文が施文される。区画内には横位の波状沈線が施される。14 も隆帯で楕円形に区画し、隆帯に沿って連続爪形文が施文され、区画内には小さな爪形文が充填される。15 は隆帯で方形に区画し、隆帯に沿ってキャタピラー文、三角押文が施文される。区画内には縄文や波状沈線文が施される。16 は隆帯で楕円形に区画し、隆帯に沿ってキャタピラー文と三角押文が施文される。17 は直線的な隆帯で区画し、隆帯に沿って連続爪形文を施している。縦方向の隆帯上には、連続刺突文が施される。18・19 は隆帯に沿ってキャタピラー文と波状沈線が施文される。18 の隆帯上には刻みが施される。20 は 2 条の平行沈線が M 字状に施される。21 は 2 条の平行沈線で三角形に区画され、区画に沿ってキャタピラー文と連続刺突文が施文される。22 は深鉢の底部片で、外面は無文である。

23 は古墳時代中期の土師器高坏で、ハの字状に開く脚部である。脚部内側の付け根にはしぼり痕が認められる。痕跡はわずかであるが、外面にはヘラミガキが施されているようである。



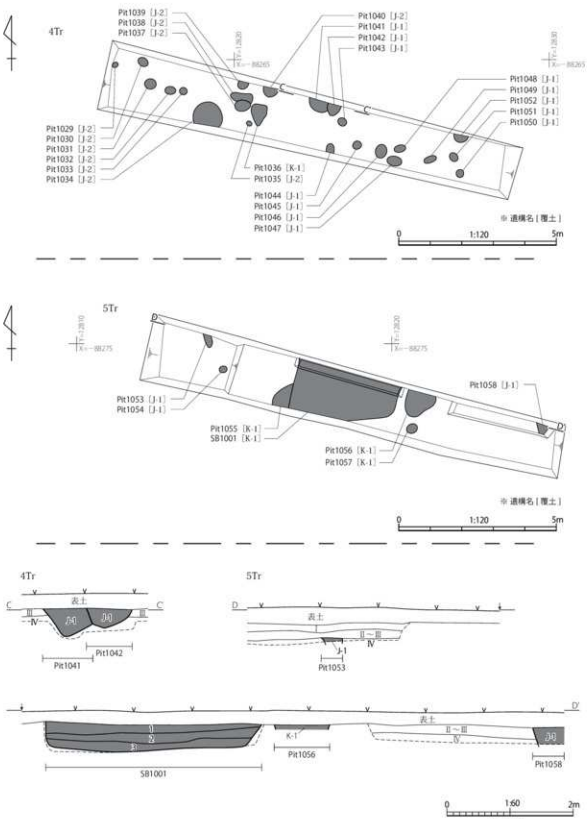
第 75 図　天間沢遺跡第 57 地区　トレンチ配置図



《天間沢遺跡　標準土層》
古墳時代前期の遺構覆土
Ⅰ 大沼ラピリ層　黒褐色　緻密なスコリア粒子で極めて硬くしまる。
縄文時代中・後期の包含層
Ⅱ 栗色土層　黒褐色　橙色スコリア粒をやや多く、白色テフラ（カワゴ平パミス）を少量含む。しまりはやや強い。
縄文時代早・前期の包含層
Ⅲ 富士黒土層　黒　色　橙色スコリア微粒子を微量含む。しまりはやや弱く、粘性が出てくる。
Ⅳ 漸移層　暗褐色　褐色味の強い土と黒味が強い土が混ざりあい、鮮やかな橙色のスコリア粒を少量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。
旧石器時代の包含層
Ⅴ 休場層　明褐色　全体的にあみが強く、橙色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。
Ⅵ 古富士泥流堆上層か　旧礫層主体となり粘性が強くなる。水分を多く含み、しばらく放置すると礫間に水が溜まる。

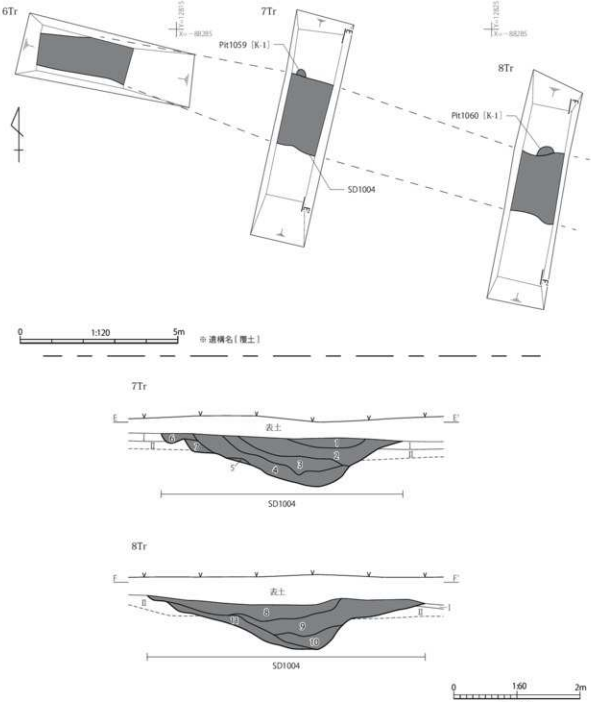
《遺構覆土》
J-1　黒褐色　(7.5YR2/2)　黒～グレー　縄文時代の遺構覆土
J-2　黒褐色　(7.5YR3/2)　シミ状　栗色土に似る　縄文時代の遺構覆土
K-1　黒　色　(7.5YR2/1)　しまりなし、粘性なし。　古代の遺構覆土

第 76 図　天間沢遺跡第 57 地区　1 ～ 3Tr 平面図、セクション図



〈SB1001〉
1　黒　色（7.5YR2/1）しまりなし、粘性なし。赤色粒子少量含む。　SB1001 覆土
2　黒　色（7.5YR2/1）しまりなし、粘性なし。ロームブロック少量含む。SB1001 覆土
3　黒　色（7.5YR2/1）しまりなし、粘性なし。ロームブロック中量含む。SB1001 掘り方埋土

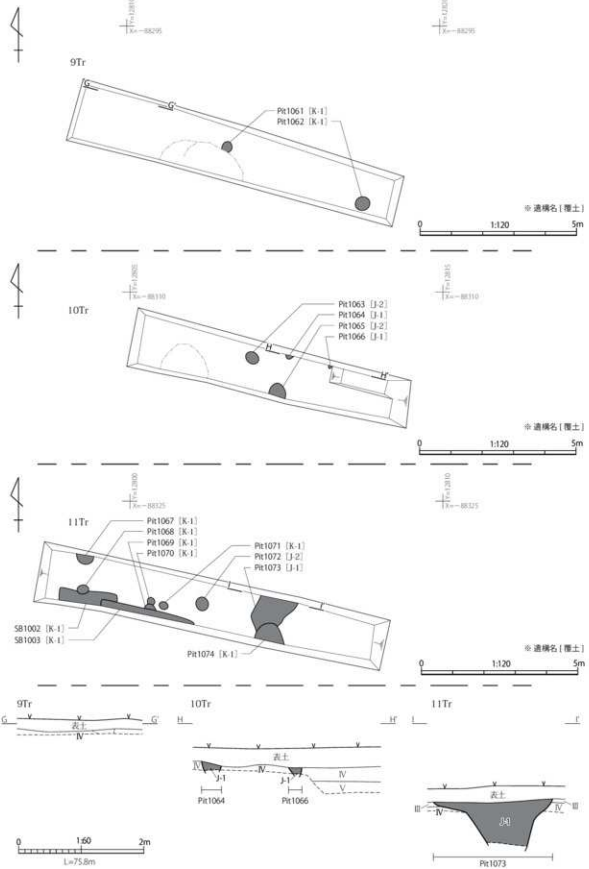
第 77 図　天間沢遺跡第 57 地区　4・5Tr 平面図、セクション図



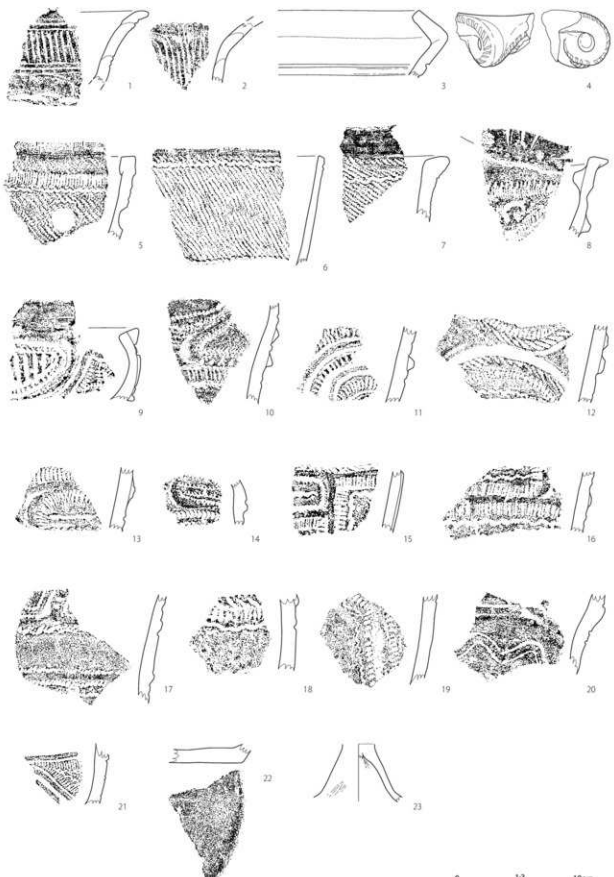
(SD1004)

1	黒　色	(7.5YR2/1)	しまりなし、粘性なし。赤色粒子微量含む。	SD1004 覆土
2	黒　色	(7.5YR2/1)	しまりなし、粘性なし。赤色粒子中量含む。	SD1004 覆土
3	黒　色	(7.5YR2/1)	しまりなし、粘性なし。地山ブロック少量含む。	SD1004 覆土
4	黒褐色	(7.5YR3/2)	しまりなし、粘性なし。地山ブロック中量含む。	SD1004 覆土（人為的な埋戻しの可能性あり）
5	黒褐色	(7.5YR3/2)	しまりなし、粘性なし。地山ブロック少量含む。	SD1004 覆土（人為的な埋戻しの可能性あり）
6	黒褐色	(7.5YR3/2)	しまりなし、粘性なし。地山をシミ状に含む。	SD1004 覆土
7	黒　色	(7.5YR2/1)	しまりなし、粘性なし。地山をシミ状に含む。	SD1004 覆土
8	黒褐色	(7.5YR3/2)	しまりなし、粘性なし。地山をシミ状に含む。	SD1004 覆土
9	黒　色	(7.5YR2/1)	しまりなし、粘性なし。赤色粒子中量含む。	SD1004 覆土
10	黒褐色	(7.5YR3/2)	しまりなし、粘性なし。地山ブロック少量含む。	SD1004 覆土（人為的な埋戻しの可能性あり）
11	黒褐色	(7.5YR3/2)	しまりなし、粘性なし。地山ブロック中量含む。	SD1004 覆土（人為的な埋戻しの可能性あり）

第 78 図　天間沢遺跡第 57 地区　6 ～ 8Tr 平面図、セクション図



第 79 図　天間沢遺跡第 57 地区　9 ～ 11Tr 平面図、セクション図



第 80 図　天間沢遺跡第 57 地区　出土遺物実測図

第 6 表　天間沢遺跡第 57 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）			成形	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第 80 図 1	R0008	PL.8	5Tr	縄文土器	口縁部	五領ヶ台	-	-	(6.5)	良好	-	暗褐（10YR3/3）	暗褐（10YR3/3）
第 80 図 2	**R0008**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**胴部**	**五領ヶ台**	**-**	**-**	**(4.6)**	**良好**	**-**	**にぶい赤褐（5YR5/4）**	**黒褐（7.5YR3/1）**
第 80 図 3	R0003	PL.8	5Tr	縄文土器	口縁部	藤内	-	-	(5.3)	良好	-	褐（7.5YR4/3）	にぶい赤褐（5YR4/4）
第 80 図 4	**R0008**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**口縁部**	**藤内**	**-**	**-**	**(4.0)**	**良好**	**-**	**明赤褐（5YR5/6）**	**にぶい赤褐（5YR5/4）**
第 80 図 5	R0008	PL.8	5Tr	縄文土器	口縁部	藤内	-	-	(6.5)	良好	-	赤褐（5YR4/6）	赤褐（5YR4/6）
第 80 図 6	**R0003**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**口縁部**	**藤内**	**-**	**-**	**(8.6)**	**良好**	**-**	**褐（10YR4/4）**	**暗褐（7.5YR3/4）**
第 80 図 7	R0003	PL.8	5Tr	縄文土器	口縁部	藤内	-	-	(5.2)	良好	-	にぶい黄橙（10YR6/4）	黒褐（10YR3/2）
第 80 図 8	**R0003**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**口縁部**	**藤内**	**-**	**-**	**(6.3)**	**良好**	**-**	**明赤褐（5YR5/6）**	**明赤褐（5YR5/6）**
第 80 図 9	R0003	PL.8	5Tr	縄文土器	口縁部	藤内	-	-	(5.7)	良好	-	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい褐（7.5YR5/4）
第 80 図 10	**R0003**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**胴部**	**藤内**	**-**	**-**	**(7.8)**	**良好**	**-**	**褐（10YR4/6）**	**褐（7.5YR4/3）**
第 80 図 11	R0011	PL.8	5Tr	縄文土器	胴部	藤内	-	-	(6.0)	良好	-	褐（7.5YR4/4）	褐（7.5YR4/6）
第 80 図 12	**R0002**	**PL.8**	**4Tr**	**縄文土器**	**胴部**	**藤内**	**-**	**-**	**(6.0)**	**良好**	**-**	**明赤褐（5YR5/6）**	**にぶい赤褐（5YR4/3）**
第 80 図 13	R0002	PL.8	4Tr	縄文土器	胴部	藤内	-	-	(5.0)	良好	-	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄褐（10YR5/4）
第 80 図 14	**R0008**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**胴部**	**藤内**	**-**	**-**	**(3.6)**	**良好**	**-**	**にぶい黄褐（10YR5/4）**	**明赤褐（5YR5/6）**
第 80 図 15	R0011	PL.8	5Tr	縄文土器	胴部	藤内	-	-	(4.7)	良好	-	橙（7.5YR6/6）	褐（7.5YR4/4）
第 80 図 16	**R0003**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**胴部**	**藤内**	**-**	**-**	**(4.8)**	**良好**	**-**	**橙（7.5YR6/6）**	**橙（7.5YR6/6）**
第 80 図 17	R0004	PL.8	8Tr	縄文土器	胴部	藤内	-	-	(8.3)	良好	-	暗褐（7.5YR3/4）	暗褐（7.5YR3/4）
第 80 図 18	**R0008**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**胴部**	**藤内**	**-**	**-**	**(6.0)**	**良好**	**-**	**橙（7.5YR6/6）**	**橙（7.5YR6/6）**
第 80 図 19	R0002	PL.8	4Tr	縄文土器	胴部	藤内	-	-	(5.4)	良好	-	赤褐（5YR4/6）	褐（7.5YR4/4）
第 80 図 20	**R0003**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**胴部**	**藤内**	**-**	**-**	**(6.3)**	**良好**	**-**	**にぶい黄褐（10YR4/3）**	**橙（7.5YR6/6）**
第 80 図 21	R0003	PL.8	5Tr	縄文土器	胴部	藤内	-	-	(4.7)	良好	-	褐（7.5YR4/3）	褐（7.5YR4/3）
第 80 図 22	**R0003**	**PL.8**	**5Tr**	**縄文土器**	**底部**	**藤内**	**-**	**-**	**(1.5)**	**良好**	**-**	**橙（7.5YR6/6）**	**橙（7.5YR6/6）**
第 80 図 23	R0012	PL.8	6Tr	土師器	高坏脚部	古墳中期	-	-	(4.5)	良好	-	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）

32　厚原遺跡　第 9 地区 1 次調査

所在地　厚原 710-1、710-7

調査面積　14.759 ㎡（対象面積 468 ㎡）

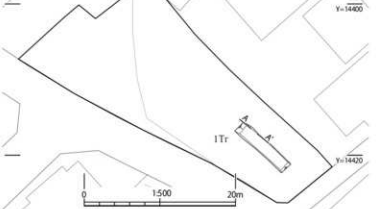
調査期間　令和元年 9 月 6 日

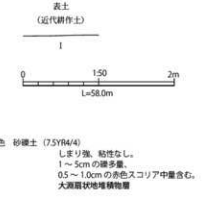
調査の原因　共同住宅建築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　表土である近代耕作土の直下において基盤層である大淵扇状地堆積物層がみとめられたが、遺構・遺物は検出されなかった。

第 81 図　厚原遺跡第 9 地区　位置図





I　褐色　砂礫土（7.5YR4/4）
しまり強、粘性なし。
1 ～ 5cm の礫多量。
0.5 ～ 1.0cm の赤色スコリア中量含む。
大淵扇状地堆積物層

第 82 図　厚原遺跡第 9 地区　トレンチ配置図、セクション図

33　舟久保遺跡　第 68 地区 1 次調査

所在地　今泉八丁目 1586-2

調査面積　3.551 ㎡（対象面積 152.81 ㎡）

調査期間　令和元年 9 月 12 日

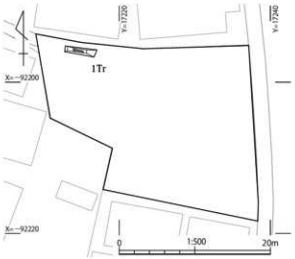
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

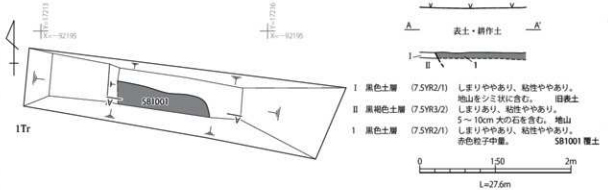
調査の結果　奈良・平安時代と考えられる竪穴建物跡（SB1001）を検出した。

遺物は奈良・平安時代の土器が出土したが、図化には至らなかった。

第 83 図　舟久保遺跡第 68 地区　位置図



第 84 図　舟久保遺跡第 68 地区　位置図



第 85 図　舟久保遺跡第 68 地区　トレンチ平面図、セクション図

34　宇東川遺跡　第 28 地区 1 次調査

所在地　今泉 1692-4

調査面積　29.909 ㎡（対象面積 954.79 ㎡）

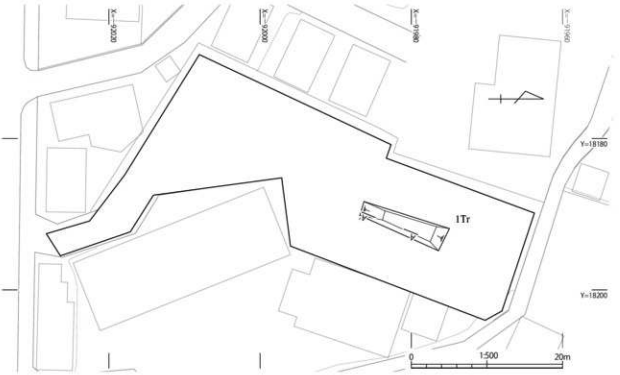
調査期間　令和元年 9 月 25 日～9 月 26 日

調査の原因　集合住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は検出されなかった。縄文時代の遺物包含層である栗色土層が良好に存在するにもかかわらず、遺物が出土しないことから、集落形成の散漫なエリアと想定される。

第 86 図　宇東川遺跡第 28 地区　位置図



I　黒　色（7.5YR2/1）しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を多量含む。
II　黒　色（7.5YR2/1）しまりややあり、粘性ややあり。白色粒子（カワゴ平パミス）を少量含む。
III　黒褐色（7.5YR2/2）しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子・白色粒子（カワゴ平パミス）を中量含む。
IV　黒褐色（7.5YR2/2）しまりややあり、粘性ややあり。径 5cm の礫を中量含む。　（黒色土層か）
V　黒褐色（7.5YR2/2）しまりややあり、粘性ややあり。径 5cm の礫を中量含む。　（富士黒土層か）
VI　黒褐色（7.5YR3/2）しまりややあり、粘性ややあり。径 10cm の礫を多量含む。　自破砕溶岩層（基盤層）

第 87 図　宇東川遺跡第 28 地区　トレンチ配置図、セクション図

35　コーカン畑遺跡　第 4 地区 1 次調査

所在地　江尾 667-7

調査面積　6.802 ㎡（対象面積 204.62 ㎡）

調査期間　令和元年 10 月 7 日

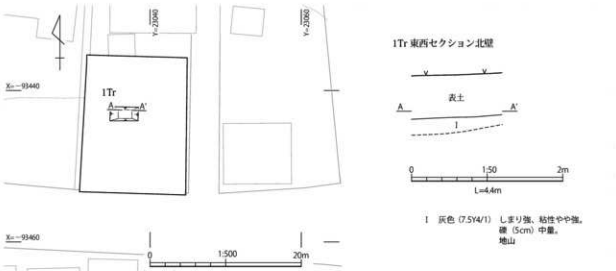
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　表土直下に浮島ヶ原低地部特有の粘性のある地山が検出された。

　このため、当該地は古代の生活域ではなかったと推定される。

第 88 図　コーカン畑遺跡第 4 地区　位置図



第 89 図　コーカン畑遺跡第 4 地区　トレンチ配置図、セクション図

36　天間沢遺跡　第 58 地区 1 次調査

所在地　天間 1137-1

調査面積　26.279 ㎡（対象面積 350 ㎡）

調査期間　令和元年 9 月 19 日

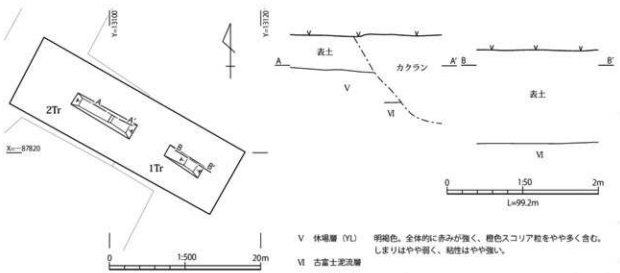
調査の原因　個人農地改良

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は検出されなかった。当該地の大部分は大規模な改変を受けており、遺物包含層や遺構は残存しないことが明らかとなった。

縄文時代中期の土器が表面採集されるが、改変に伴い地表面に残されたものと考えられる。

第 90 図　天間沢遺跡第 58 地区　位置図



第 91 図　天間沢遺跡第 58 地区　トレンチ配置図、セクション図

37　沢東 A 遺跡　第 22 次調査地点 1 次調査

所在地　久沢 158-1

調査面積　54.950 ㎡（対象面積 2,290 ㎡）

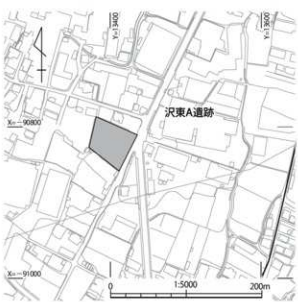
調査期間　令和元年 10 月 2 日～ 10 月 3 日

調査の原因　貸倉庫建設

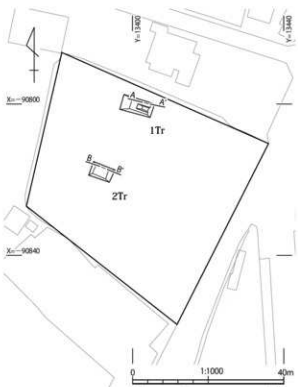
調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下 2.0m 前後まで掘削したものの、遺構や遺物はみられなかった。

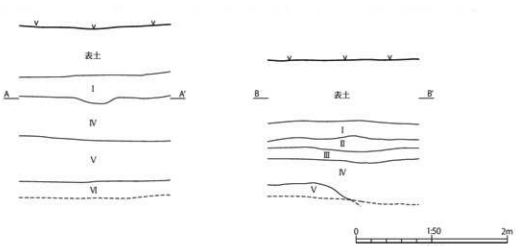
調査区北側（1Tr）に比べ、南側（2Tr）はわずかに低湿地性の特徴を帯びる堆積土に変化する傾向がみられる点から、当該地周辺が地形の変わり目に位置した可能性がある。



第 92 図　沢東 A 遺跡第 22 次調査地点　位置図



第 93 図　沢東 A 遺跡第 22 次調査地点　トレンチ配置図



I　黒褐色砂質土　(10YR3/2)　粘性あり。しまり強い。3～5mmの礫を中量、橙色粒子を少量含む。
II　明黄褐色砂質土　(10YR7/6)　粘性なし。しまり極強い。黒褐色土をシミ状に含む。
III　暗褐色砂質土　(10YR3/3)　粘性あり。しまりやや弱い。橙色粒子を微量含む。
IV　明黄褐色砂質土　(10YR6/6)　粘性ややあり。しまり強い。
V　黒褐色砂礫土　(10YR3/2)　粘性なし。しまり弱い。1～5cmの円礫を極多量に含む。
　層状地堆積物層
VI　にぶい黄橙色土　(10YR7/4)　粘性なし。しまり極強い。

第 94 図　沢東 A 遺跡第 22 次調査地点　セクション図

38　柏原遺跡　第 15 地区 1 次調査

所在地　中柏原新田 164-1

調査面積　6,849 ㎡（対象面積 245 ㎡）

調査期間　令和元年 10 月 2 日～ 10 月 3 日

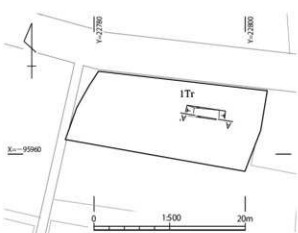
調査の原因　宅地造成

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

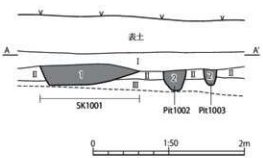
調査の結果　地表下 0.65m において大淵スコリア層を掘り込む土坑・ピット 3 基（SK1001、Pit1002 ～ 1003）を検出した。奈良時代の土器が出土しており、遺構も同時期と考えられる。

出土した土器のうち、2 点を図示した（第 98 図）。1 は須恵器甕の胴部片で外面はタタキ目、内面はナデている。2 は SK1001 から出土した土師器の高台坏である。体部の外面はヨコヘラミガキ、内面はタテヘラミガキで、見込みには放射状暗文を施す。

第 95 図　柏原遺跡第 15 地区　位置図



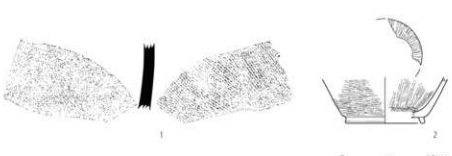
第 96 図　柏原遺跡第 15 地区　トレンチ配置図



I　黒褐色（10YR2/2）　しまりやや強、粘性なし。
　　円錐（5mm）中量。砂多量。
　　旧表土
II　暗褐色（10YR3/4）　しまり強、粘性なし。
　　大淵スコリア多量。
III　黒褐色（7.5YR2/2）　しまり弱、粘性なし。粗砂層。
　　基盤層

1　暗褐色（10YR3/3）　しまりやや強、粘性なし。
　　円錐（5mm）中量。大淵スコリア微量。
　　SK1001 覆土
2　黒褐色（10YR3/2）　しまりやや強、粘性なし。砂多量。
　　Pit1002・Pit1003 覆土

第 97 図　柏原遺跡第 15 地区　セクション図



第 98 図　柏原遺跡第 15 地区　出土遺物実測図

第 7 表　柏原遺跡第 15 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所		種別	細別	時代	法量（cm）			成形	残存率	内面色調	外面色調
								口径	底径	器高				
第 98 図 1	R0001	PL.10	1Tr		須恵器	甕	古代	-	-	(7.0)	良好	-	灰黄（2.5Y7/2）	浅黄（2.5Y7/3）
第 98 図 2	R0002	PL.10	1Tr	SK1001	土師器	坏	古代	-	(8.2)	(4.9)	良好	30%	明赤褐（2.5YR5/6）	明赤褐（2.5YR5/6）

39　三日市廃寺跡（東平遺跡第 118 地区 1 次調査）

所在地　浅間上町 2926-1、2926-2、2925-1

調査面積　9.283 ㎡（対象面積 1,530 ㎡）

調査期間　令和元年 11 月 14 日

調査の原因　宅地分譲

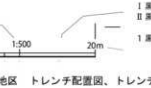
調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　覆土から古代と推定されるピット 2 基（Pit1001 ～ 1002）が検出され、奈良・平安時代の土器が出土した。

須恵器坏蓋 1 点を図示した（第 101 図 1）。天井部を回転ケズリしている。8 世紀に位置づけられる。

第 99 図　東平遺跡第 118 地区　位置図

第 100 図　東平遺跡第 118 地区　トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図



第 101 図　東平遺跡第 118 地区　出土遺物実測図

第 8 表　三日市廃寺跡（東平遺跡第 118 地区）　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）			焼成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第 101 図 1	R0001	PL.10	1Tr	須恵器	坏蓋	8C	-	-	(2.1)	良好	-	褐灰（10YR5/1）	灰（5Y5/1）

40　石坂８古墳群　第２地区１次調査

所在地　今泉 3443-6　外

調査面積　43.861 ㎡（対象面積 841.84 ㎡）

調査期間　令和元年 10 月 10 日～ 10 月 17 日

調査の原因　集合住宅新築

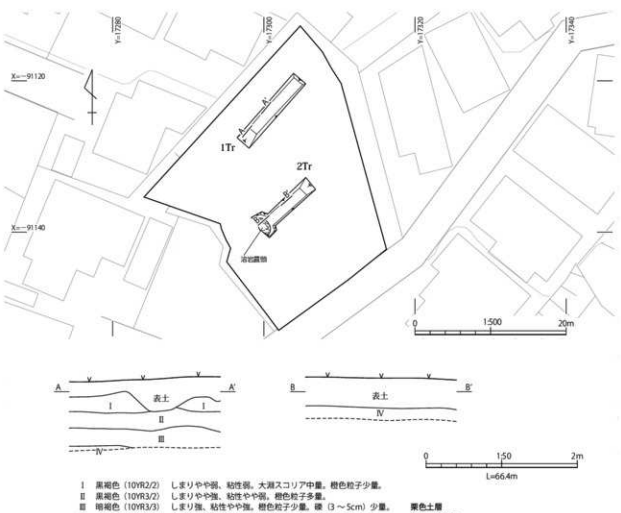
調査の概要　対象地の北西 20m には、平成元年２～３月に発掘調査を行い横穴式石室を完掘した荒久古墳が位置している。

２箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査区北西に設定した 1Tr において良好な土層堆積が認められたものの、南東側の 2Tr では基盤層である自破砕溶岩が急激に高くなる状況が確認された。1Tr の北西から荒久古墳が発見された調査区西側隣接地にかけて溶岩の窪地が存在し、その内側の一部に古墳が築かれたと考えられる。

今回の調査区では、地表面にて周辺からの流れ込みとみられる少量の土器片が表採されたものの、トレンチ内に遺構や遺物はみられなかった。当該地には埋蔵文化財は存在しないものと判断される。

第 102 図　石坂８古墳群第２地区　位置図



第 103 図　石坂８古墳群第２地区　トレンチ配置図、セクション図

41　富士岡 1 古墳群　第 18 地区 1 次調査

所在地　比奈 1749-1

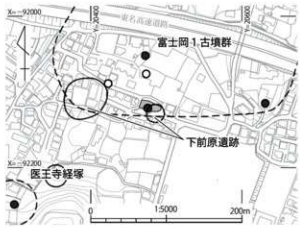
調査面積　9.716 ㎡（対象面積 312.16 ㎡）

調査期間　令和元年 10 月 25 日～ 10 月 28 日

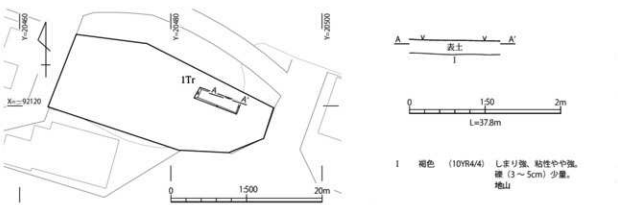
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　旧地表が削平されており、遺構・遺物は検出されなかった。



第 104 図　富士岡 1 古墳群第 18 地区　位置図



第 105 図　富士岡 1 古墳群第 18 地区　トレンチ配置図、セクション図

42　宇東川遺跡　第 29 地区 1 次調査

所在地　原田 704

調査面積　40.083 ㎡（対象面積 2,385 ㎡）

調査期間　令和元年 10 月 31 日

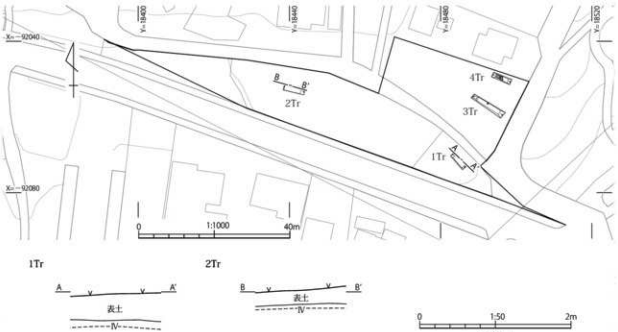
調査の原因　公園整備

調査の概要　4 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

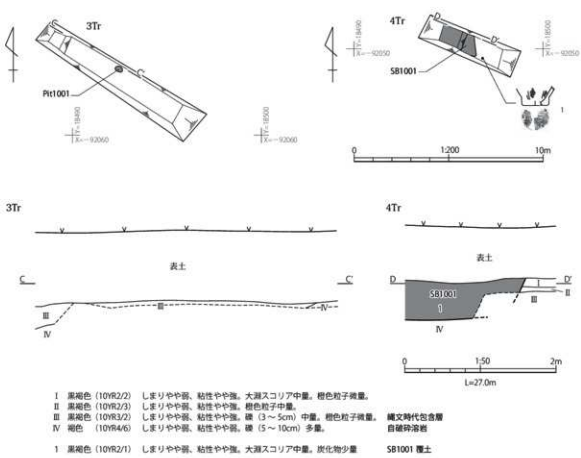
調査の結果　対象地南側の 1Tr・2Tr 周辺は既に土地が削られており、遺構・遺物は検出されなかった。北側の 3Tr・4Tr 周辺では縄文時代から古代の遺構や遺物包含層が残存することが明らかになった。3Tr で検出された Pit1001 は覆土から古代に位置づけられ、4Tr で検出された SB1001 は出土遺物から平安時代の遺構と判断される。

遺物は、縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器が出土し、5 点を図示した（第 109 図）。1 は縄文土器の底部である。胴部には縄文と縦位の沈線が施文され、底部外面には網代痕が残る。曽利Ⅳ～Ⅴ式に位置づけられる。2 は縄文土器の口縁部である。口縁部は内湾し、無文帯の下に 1 条の沈線が巡り、沈線より下部には縄文が施文される。加曽利 E4 式の土器である。3 と 4 は山茶碗である。3 は糸切り痕の残る底部に高台を貼り付けている。5 は灰釉陶器の碗である。外面の一部と内面に施釉が認められる。

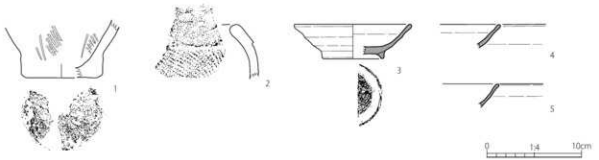
第 106 図　宇東川遺跡第 29 地区　位置図



第 107 図　宇東川遺跡第 29 地区　トレンチ配置図、1・2Tr セクション図



第 108 図　宇東川遺跡第 29 地区　トレンチ配置図、3・4Tr 平面図、セクション図



第 109 図　宇東川遺跡第 29 地区　出土遺物実測図

第 9 表　宇東川遺跡第 29 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm） 口径	底径	器高	地成	残存率	内面色調	外面色調
第 109 図 1	R0004	PL_11	4Tr	縄文土器	底部	晩期Ⅳ～Ⅴ	-	7.3	(5.2)	良好	50%	にぶい赤褐（5YR5/4）	にぶい赤褐（5YR5/4）
第 109 図 2	**R0003**	**PL_11**	**4Tr**	**縄文土器**	**口縁部**	**加曽利 E4**	-	-	**(5.8)**	良好	-	にぶい黄橙（10YR6/4）	**橙（7.5YR6/6）**
第 109 図 3	R0003	PL_11	4Tr	陶器	山茶碗		(12.2)	6.2	3.7	軟質	35%	浅黄橙（10YR8/3）	浅黄橙（10YR8/3）
第 109 図 4	**R0003**	**PL_11**	**4Tr**	**陶器**	**山茶碗**		-	-	**(2.5)**	軟質	-	**浅黄橙（10YR8/3）**	**浅黄橙（10YR8/3）**
第 109 図 5	R0003	PL_11	4Tr	灰釉陶器	碗	9～10C	-	-	(2.5)	良好	-	灰白（5Y7/2）	灰白（5Y7/1）

43　天間沢遺跡　第 52 地区 2 次調査

所在地　天間 1130-2

調査面積　5,687 ㎡（対象面積 263 ㎡）

調査期間　令和元年 11 月 5 日

調査の原因　個人住宅新築

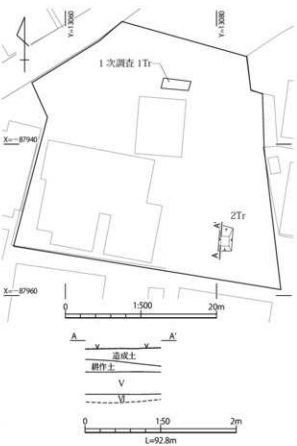
調査の概要　本地区では平成 30 年度にも確認調査（1 次調査）を行っている。

1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下 0.3m で体場ロームに対応する土層が検出されたが、遺物は確認されなかった。

1 次調査でも同様の結果が得られており、敷地全体が大規模に削平され、縄文時代の遺物包含層は残存しないと結論付けられる。

第 110 図　天間沢遺跡第 52 地区　位置図



V　褐色（7.5YR4/4）　しまり強、粘性あり。
　　径 1～3mm の橙色スコリアを中量含む。
　　休場層（YL）
VI　褐色（10YR4/6）　しまりごく強、粘性ややあり。溶岩礫主体。
　　古墳土泥流上層か

※天間沢遺跡標準土層に準じる。

第 111 図　天間沢遺跡第 52 地区
トレンチ配置図、セクション図

44　三日市廃寺跡（東平遺跡第 119 地区 1 次調査）

所在地　浅間上町 2920-2

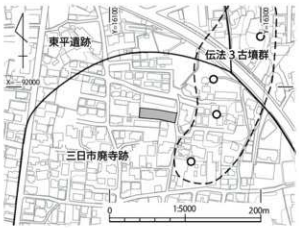
調査面積　35.184 ㎡（対象面積 659.76 ㎡）

調査期間　令和元年 11 月 25 日

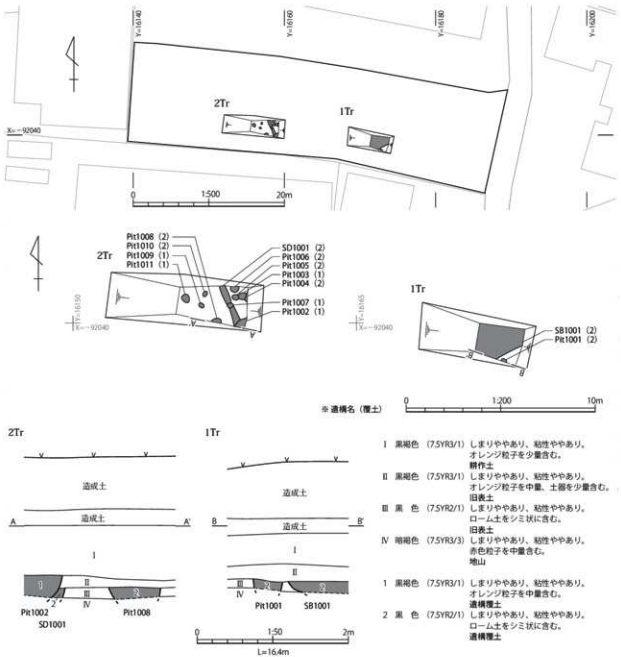
調査の原因　宅地分譲

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下 1.6 ～ 1.7m から古代と想定される竪穴建物跡 1 軒（SB1001）、溝 1 条（SD1001）、ピット 11 基（Pit1001 ～ 1011）が検出された。敷地内には埋蔵文化財が残存していると考えられる。



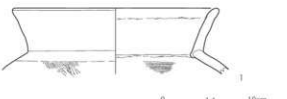
第 112 図　東平遺跡第 119 地区　位置図



第 113 図　東平遺跡第 119 地区　トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

遺物は、奈良時代・平安時代の土器が出土し、1点を図化した（第114図）。

1は土師器の鍛東型甕である。口唇部をやや肥厚させ、肩部の内面をヨコハケ目調整、外面はタテハケ目・ナナメハケ目調整後、ナナメヘラミガキを施している。



第 114 図　東平遺跡第 119 地区　出土遺物実測図

第 10 表　三日市廃寺跡（東平遺跡第 119 地区）　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）			成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第 114 図 1	R0001	PL.12	1Tr SB1001	土師器	甕	8C	〔21.5〕	-	(7.0)	良好	30%	にぶい赤褐（2.5YR4/4）	にぶい赤褐（2.5YR4/4）

45　沖田遺跡　第 159 次調査地点 1 次調査

所在地　今泉 470-3

調査面積　17.713 ㎡（対象面積 999.21 ㎡）

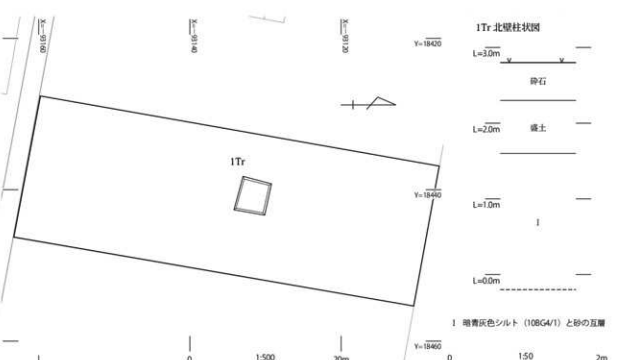
調査期間　令和元年 12 月 10 日～ 12 月 11 日

調査の原因　工場新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表面から 3m 以上掘削したものの、遺構・遺物は見つからなかった。

第 115 図　沖田遺跡第 159 次調査地点　位置図



第 116 図　沖田遺跡第 159 次調査地点　トレンチ配置図、セクション図

46　東平遺跡　第 120 地区 1 次調査

所在地　伝法 2581-7

調査面積　16.987 ㎡（対象面積 384.12 ㎡）

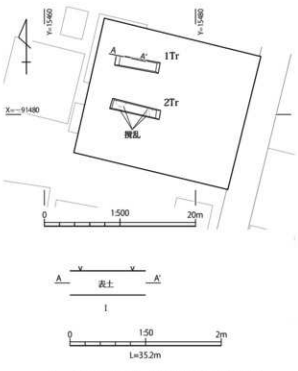
調査期間　令和元年 12 月 4 日

調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は検出されなかった。調査地は埋蔵文化財が希薄な範囲であると考えられる。

第 117 図　東平遺跡第 120 地区　位置図



第 118 図　東平遺跡第 120 地区
トレンチ配置図、セクション図

47　天間沢遺跡　第 59 地区 1 次調査

所在地　天間 584-13

調査面積　4.078 ㎡（対象面積 227.09 ㎡）

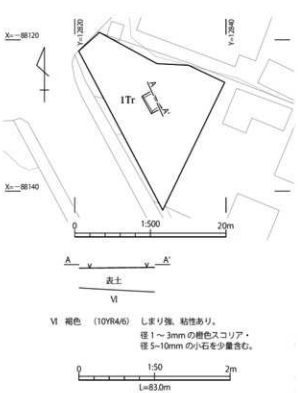
調査期間　令和元年 12 月 12 日

調査の原因　不動産売買

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　調査地は大規模に削平されており、遺物を包含する土層は残存しなかった。

第 119 図　天間沢遺跡第 59 地区　位置図



第 120 図　天間沢遺跡第 59 地区
トレンチ配置図、セクション図

48　宇東川遺跡　Z 地区 4 次調査

所在地　原田 628-24

調査面積　3,323 ㎡（対象面積 174.15 ㎡）

調査期間　令和元年 12 月 11 日

調査の原因　個人住宅新築

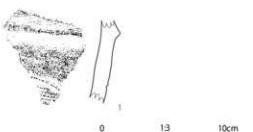
調査の概要　本地区では宅地造成工事に伴い、平成 30 年度に確認調査（1 次調査）を、平成 30 ～ 31 年度に本発掘調査（2 次調査・3 次調査）を実施している（富士市教育委員会 2020『宇東川遺跡 Z 地区』）。

敷地内に 1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

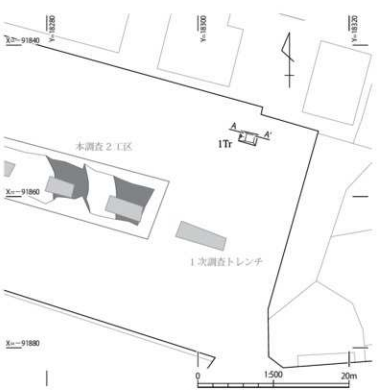
調査の結果　耕作土中から土器の小片の出土があったものの、地表下 1.6m の範囲内では遺構は確認されなかった。道路建設部分で行なった本発掘調査の成果とも整合する土層堆積であり、遺物包含層は地表下約 2.2m（標高 35.8m）付近と想定される。

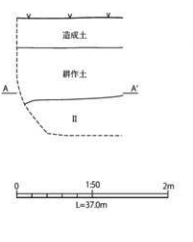
出土遺物から縄文土器片 1 点を図示した（第 122 図 1）。横位の隆帯が巡り、沈線の区画内に縄文が施文されている。加曽利 E4 式の土器である。

第 121 図　宇東川遺跡 Z 地区　位置図



第 122 図　宇東川遺跡 Z 地区　出土遺物実測図





II　褐色礫層　(7.5YR4/3)　しまりなし、粘性なし。溶岩の角礫などを含む。（松原川の氾濫に起源か）

第 123 図　宇東川遺跡 Z 地区　トレンチ配置図、セクション図

第 11 表　宇東川遺跡 Z 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	出土 (cm) 口径	底径	器高	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 122 図 1	R0001	PL.13	1Tr	縄文土器	胴部	加曽利 E4	-	-	(6.3)	良好	-	にぶい赤褐（5YR5/3）	にぶい赤褐（5YR5/3）

49　天間沢遺跡　第 60 地区 1 次調査

所在地　天間 1069-2

調査面積　4.781 ㎡（対象面積 198.34 ㎡）

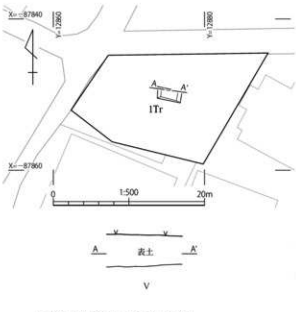
調査期間　令和元年 12 月 16 日～ 12 月 17 日

調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　対象地は削平されており、遺物を包含する土層は残存しなかった。

第 124 図　天間沢遺跡第 60 地区　位置図



第 125 図　天間沢遺跡第 60 地区
トレンチ配置図、セクション図

50　東平遺跡　第 121 地区 1 次調査

所在地　伝法 2502-1

調査面積　10.754 ㎡（対象面積 570.09 ㎡）

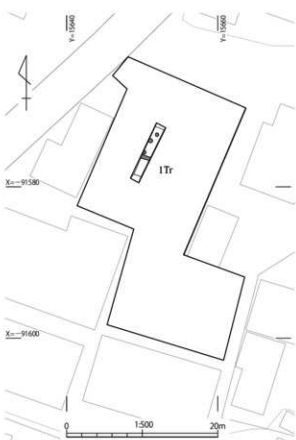
調査期間　令和元年 12 月 23 日

調査の原因　宅地造成

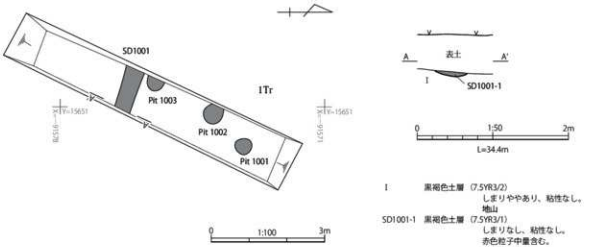
調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　奈良時代と考えられる溝（SD1001）とピット 3 基（Pit1001 ～ 1003）を検出した。図化には至らなかったが同時期の土器も出土し、調査地内には埋蔵文化財が残存することが確認された。

第 126 図　東平遺跡第 121 地区　位置図



第 127 図　東平遺跡第 121 地区　トレンチ配置図



第 128 図　東平遺跡第 121 地区　トレンチ平面図、セクション図

51　祢宜ノ前遺跡　第 6 地区 1 次調査

所在地　比奈 1592-2　外

調査面積　8,898 ㎡（対象面積 300 ㎡）

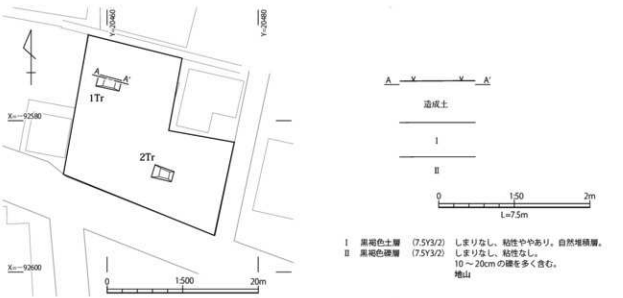
調査期間　令和 2 年 1 月 14 日～ 1 月 15 日

調査の原因　宅地造成

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は認められなかった。調査地内には埋蔵文化財が存在しないと結論づけられる。

第 129 図　祢宜ノ前遺跡第 6 地区　位置図



第 130 図　祢宜ノ前遺跡第 6 地区　トレンチ配置図、セクション図

52　東平遺跡　第 122 地区 1 次調査

所在地　伝法 2839-5

調査面積　5.769 ㎡（対象面積 26.54 ㎡）

調査期間　令和 2 年 1 月 16 日

調査の原因　住宅離れ新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下 0.7m にて基盤層である暗褐色土層が検出された。その上面において遺構は検出されなかったものの、土器の小片が出土した。

すでに近代以降の掘削が基盤層まで及んでいるものと判断されるが、対象地内には同層上面に僅かな遺構や遺物が残存する可能性がある。

出土した土器は図化には至らなかった。

第 131 図　東平遺跡第 122 地区　位置図

第 132 図　東平遺跡第 122 地区
トレンチ配置図、セクション図

53　東平遺跡　第 123 地区 1 次調査

所在地　伝法 2663-1、2663-2、2663-3 の各一部

調査面積　10.081 ㎡（対象面積 380.41 ㎡）

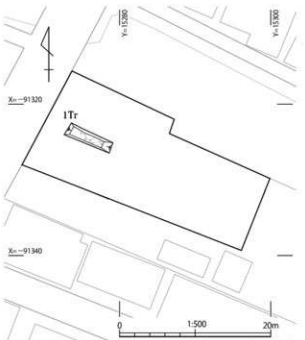
調査期間　令和 2 年 1 月 24 日

調査の原因　集合住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　近世以降と考えられる掘り込みを検出したものの、それ以外に遺構・遺物は検出されなかった。調査地内には埋蔵文化財は残存しないと結論付けられる。

第 133 図　東平遺跡第 123 地区　位置図



第 134 図　東平遺跡第 123 地区　トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

54　東平遺跡　第 124 地区 1 次調査

所在地　伝法 3048

調査面積　10,590 ㎡（対象面積 340 ㎡）

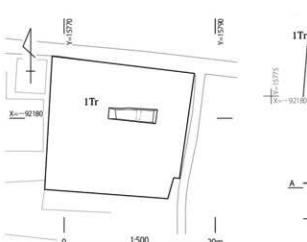
調査期間　令和 2 年 1 月 28 日～1 月 29 日

調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　1 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　土地全体が大規模な削平を受けており、遺構・遺物は検出されなかった。敷地内には埋蔵文化財は残存しないと結論づけられる。

第 135 図　東平遺跡第 124 地区　位置図



第 136 図　東平遺跡第 124 地区　トレンチ配置図、トレンチ平面図、セクション図

55　包蔵地外 出口遺跡隣接地（Ⅶ地区 1 次調査）

所在地　伝法 277-1　外

調査面積　167.760 ㎡（対象面積 3,816.16 ㎡）

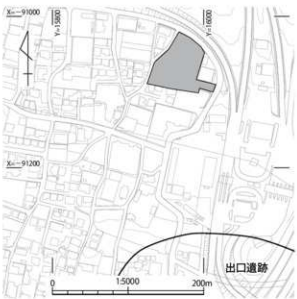
調査期間　令和 2 年 2 月 3 日～ 2 月 5 日

調査の原因　不動産売買

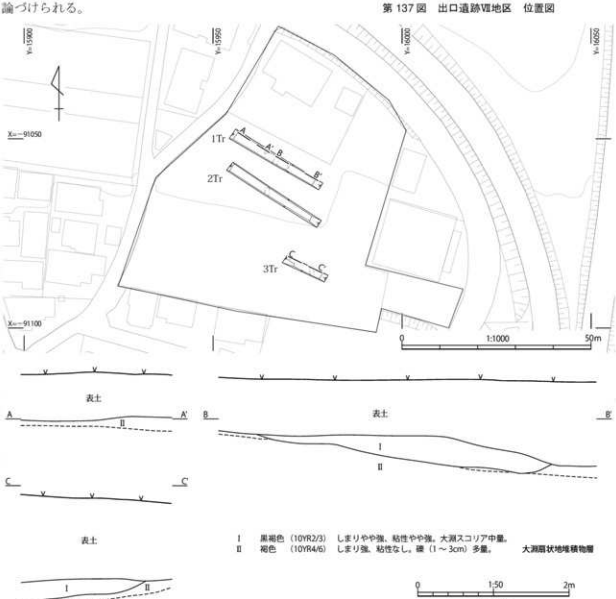
調査の概要　3 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査地内の東側には南北方向に伸びる浅い谷が存在し、古代以前の自然堆積土も遺存していた為、その周辺を中心に精査を行った。

調査の結果　近世以降と考えられる掘り込みが検出されたものの、そのほかに遺構・遺物は確認されなかった。調査地内には埋蔵文化財は残存しないと結論づけられる。



第 137 図　出口遺跡Ⅶ地区　位置図



第 138 図　出口遺跡Ⅶ地区　トレンチ配置図、セクション図

56　沢東A遺跡　第23次調査地点1次調査

所在地　久沢8-1

調査面積　34.466㎡（対象面積937.72㎡）

調査期間　令和2年2月12日

調査の原因　住宅展示場建設

調査の概要　2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　地表下3.0m前後まで掘削したものの、遺構や遺物はみられなかった。

調査地内では、南側を流れる潤井川の氾濫に伴う堆積土が顕著に確認されることから、古代の居住域から外れていたものと判断される。

第139図　沢東A遺跡第23次調査地点　位置図

I　灰黄褐色粘質土層　(10YR6/2)　しまりやや弱、粘性強。炭化物混入。
II　黒褐色砂層　(10YR3/2)　しまり弱、粘性なし。赤色硬質スコリア（3～5mm）多量。0.4m×0.1mの範囲に黄色鉄分を極多量含む。
III　黒褐色砂礫層　(10YR3/2)　しまりやや弱、粘性弱。赤色硬質スコリアを含む。

潤井川扇状地堆積物

第140図　沢東A遺跡第23次調査地点　トレンチ配置図、セクション図

57　船津 8 古墳群　第 2 地区 1 次調査

所在地　船津 755-1

調査面積　20.002 ㎡（対象面積 203 ㎡）

調査期間　令和 2 年 2 月 19 日～2 月 20 日

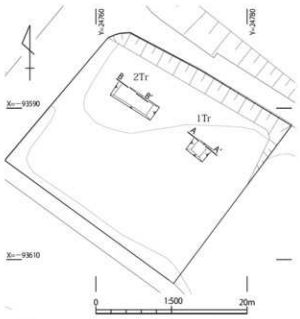
調査の原因　荒廃農地再生事業

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

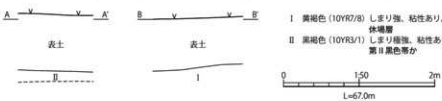
調査の結果　遺構・遺物は検出されなかった。

調査地内では、基盤層である休場層やその下部の黒色帯層まで近代の削平が及んでいることが明らかであり、古墳は存在しないと結論づけられる。

第 141 図　船津 8 古墳群第 2 地区　位置図



第 142 図　船津 8 古墳群第 2 地区　トレンチ配置図



I　黄褐色（10YR7/8）しまり強、粘性あり。橙色スコリア（1～5mm）中量。
II　黒褐色（10YR3/1）しまり極強、粘性あり。赤褐色スコリア（5～10mm）中量。

第 143 図　船津 8 古墳群第 2 地区　セクション図

58　木の宮遺跡　第 3 地区 1 次調査

所在地　三ッ沢 219-1　外

調査面積　20.523 ㎡（対象面積約 5,000 ㎡）

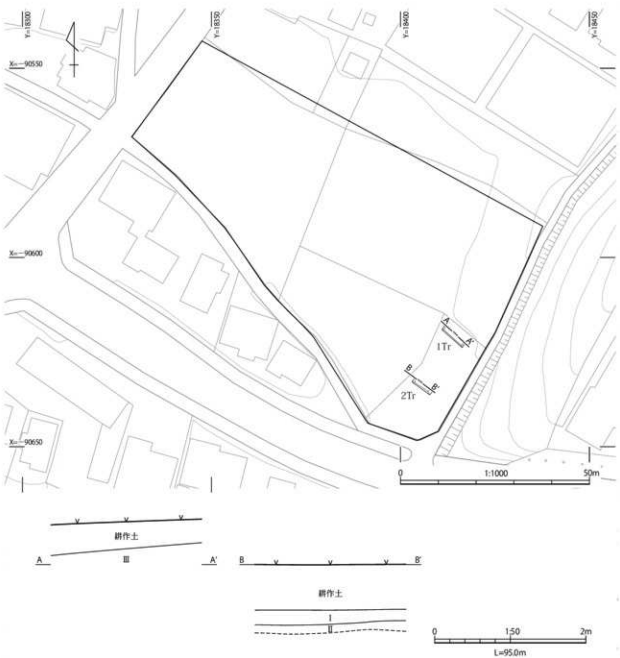
調査期間　令和 2 年 2 月 26 日～2 月 27 日

調査の原因　宅地造成

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果　遺構・遺物は検出されなかった。今回の調査により、対象地の東側には埋蔵文化財は残存しないと結論づけられるが、中央部分や西側については断定できない。

第 144 図　木の宮遺跡第 3 地区　位置図



第 145 図　木の宮遺跡第 3 地区　トレンチ配置図、セクション図

59　東平遺跡　第 125 地区 1 次調査

所在地　伝法 2806-5、-6

調査面積　27.520 ㎡（対象面積 522.87 ㎡）

調査期間　令和 2 年 3 月 5 日

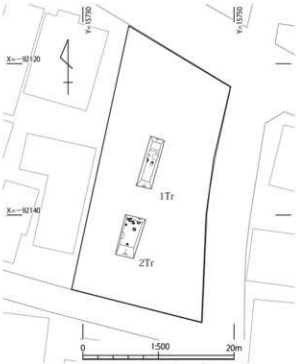
調査の原因　個人住宅新築

調査の概要　2 箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

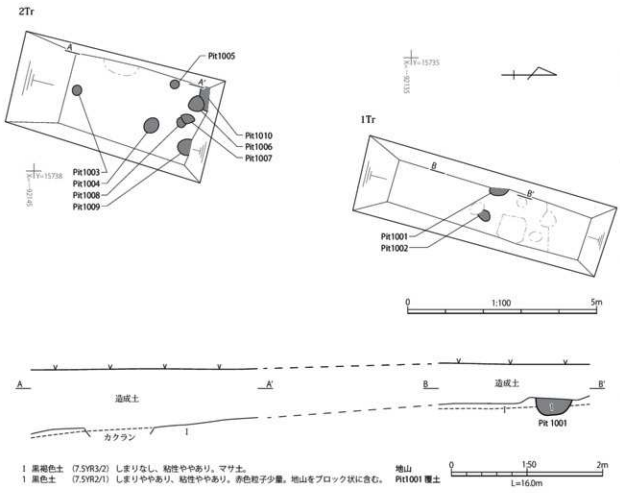
調査の結果　古代の掘り込みと考えられるピット 10 基（Pit1001 ～ 1010）が検出された。

土器の出土はないものの、敷地内には埋蔵文化財が残存していると結論づけられる。

第 146 図　東平遺跡第 125 地区　位置図



第 147 図　東平遺跡第 125 地区　トレンチ配置図



第 148 図　東平遺跡第 125 地区　トレンチ平面図、セクション図

第2章　東平遺跡の調査

第1節　第113地区の調査成果

1　調査の概要

(1) 調査に至る経緯

株式会社ハウシード（以下、事業者）は富士市伝法2520-5（408.39㎡）において、本社・店舗ビルの建設を計画した。

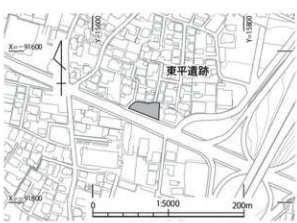
当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「東平遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成30年2月15日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」と「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長(以下、市教育長)宛に提出された。

その後、既存建物の解体が決定したため、文化振興課は令和元年5月13日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県知事(以下、県知事）宛に提出し（富市文発第163号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

(2) 確認調査（1次調査）

確認調査は令和元年5月15日に行った。既存建物を避けて、南北方向のトレンチを1本設定し(1Tr、5.004㎡)、アスファルトカット後、重機による掘削を行い遺構・遺物の発見につとめた。その結果、地表下50cmほどの深さで、奈良時代とみられるピット2基（Pit1001～1002）を検出した。



第149図　東平遺跡第113地区　位置図

第150図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図

遺物は奈良時代の土器片が出土し、5月20日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第182号）を、県知事宛に「出土品保管証」（富市文発第182-2号）を提出し、県知事により埋蔵文化財の認定を受けている（6月11日付け文財第613号）。

令和元年5月20日、事業者ならびに県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第184号）を提出した。事業者には既存建物解体後に再調査が必要である旨を伝え、埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。

（3）本発掘調査（2次調査）

確認調査の結果を受け、事業者から提出されていた文化財保護法第93条に基づく届け出に対して、令和元年6月27日、県知事から建物建設部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された（文財第743号の2）。7月8日、文化振興課は文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県知事宛に提出し（富市文発第402号）、文化振興課職員による本発掘調査を行うこととなった。

令和元年7月8日、事業者と富士市、市教育委員会の三者間で、東平遺跡第113地区における文化財調査に関する協定が締結された。また同日、事業者（委託者）と富士市長（受託者）の二者間で東平遺跡発掘作業に関わる業務委託契約も締結した。

本発掘調査は新規建物建設範囲を調査区（181.428㎡）とし、令和元年7月8日から7月31日にかけて行った。調査の結果、奈良・平安時代のものとみられる溝や柱穴、土坑を完掘し、記録保存を行った。

遺物は少量の土器片が出土し、8月5日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第470号）を、県知事宛に「出土品保管証」（富市文発第470-2号）を提出した。これは県知事により埋蔵文化財の認定を受けている（令和元年8月15日付け文財第1007号）。

令和元年8月1日、事業者に本発掘調査の完了について報告し（富市文発第464号）、8月9日、事業者ならびに県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第483号）を提出した。

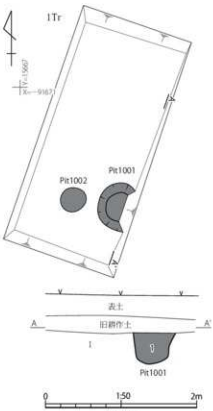
その後、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

2　調査の成果

（1）確認調査

既存建物を避けて対象地中央付近に南北方向に設定した1トレンチで、地表面下50cmの深さでピット2基（Pit1001 ～ 1002）を検出した。Pit1001は径64cm、深さ40cmを測り、断面形はU字形を呈する。

少量の遺物が出土し、1点を図化した（第152図1）。8世紀から9世紀に位置づけられる土師器甕の頸部片である。



第151図　確認調査トレンチ　平面図、セクション図

第152図　出土遺物実測図

第12表　東平遺跡第113地区　出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代
第152図1	R0001	PL.19	1Tr	土師器	甕	8～9C

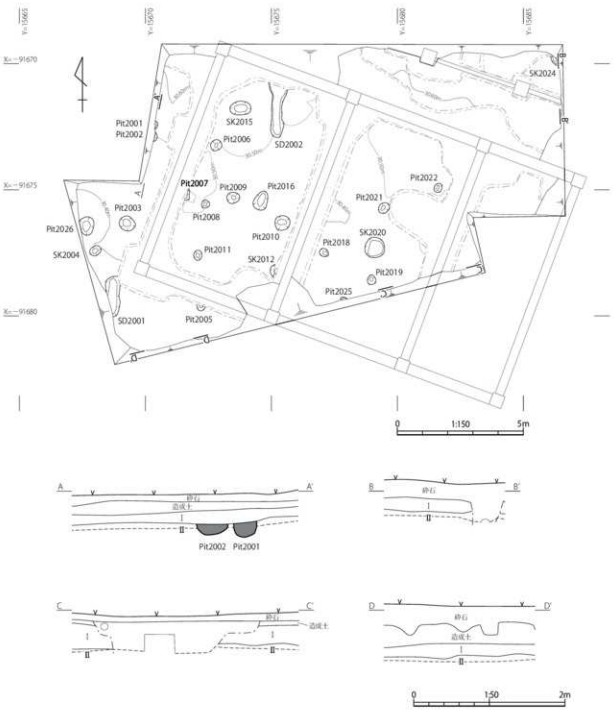
法量（cm）			成	残存率	内面色調	外面色調
口径	底径	器高				
-	-	（2.6）	良好	-	にぶい赤褐（2.5YR5/4）	明赤褐（2.5YR5/6）

(2) 本発掘調査

本調査では、建設される建物の範囲を調査区として調査を行った。その結果、奈良・平安時代に位置づけられる溝2条（SD2001～2002）、柱穴・土坑22基（Pit2001～2026、欠番あり）を完掘し、記録保存を行った。

柱穴は掘立柱建物跡や柵列の一部であった可能性がある。溝・柱穴・土坑の規模等の詳細は第13・14表に示す。

遺物は少量の土器片が出土したが、図化には至らなかった。



I　に ぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）　しまり強、粘性ややあり。3～5mmの橙色発泡スコリア（obs）少量、5～10mmの礫少量含む。
II　褐色砂質土　（10YR4/6）　しまりやや強、粘性なし。5～20mmの礫多量含む。

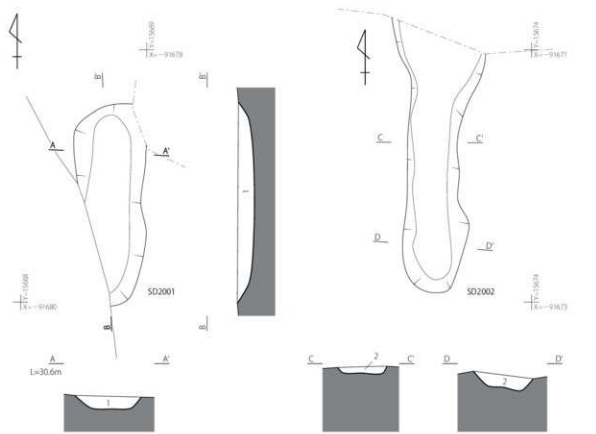
第153図　本調査区　遺構配置図、セクション図

第 13 表　溝状遺構　一覧表

遺構番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物
2001	SD	161	57	11	逆台形	—
2002	SD	219	75	6 ～ 13	逆台形	—

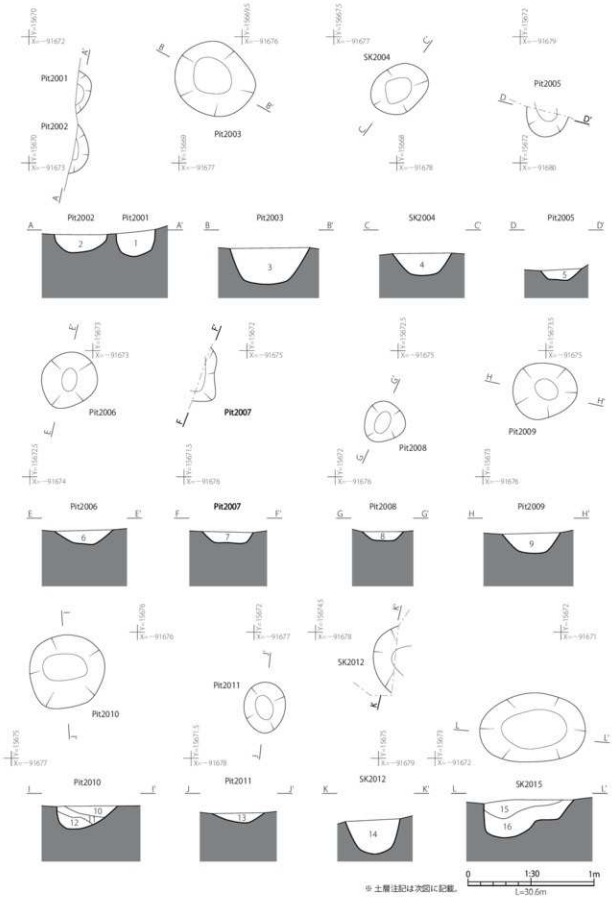
第 14 表　土坑・ピット　一覧表

遺構番号	種別	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物
2001	Pit	30	(14)	20	U 字形	—
2002	Pit	32	(14)	18	U 字形	—
2003	Pit	60	50	30	逆台形	—
2004	SK	44	34	16	U 字形	—
2005	Pit	30	(20)	17	U 字形	—
2006	Pit	40	40	12	皿形	—
2007	Pit	38	(18)	10	逆台形	—
2008	Pit	30	27	9	逆台形	—
2009	Pit	45	40	19	逆台形	—
2010	Pit	56	54	25	逆台形	—
2011	Pit	37	26	8	皿形	—
2012	SK	50	(35)	28	逆台形	—
2013	欠番					
2014	欠番					
2015	SK	73	44	32	逆台形	—
2016	Pit	73	48	26	逆台形	R0002
2017	欠番					
2018	Pit	34	26	22	逆台形	—
2019	Pit	36	29	26	逆台形	—
2020	SK	56	30	20	U 字形	—
2021	Pit	45	35	20	逆台形	—
2022	Pit	33	28	11	U 字形	—
2023	欠番					
2024	SK	50	(16)	18	U 字形	—
2025	Pit	22	(16)	19	U 字形	—
2026	Pit	77	55	27	逆台形	—

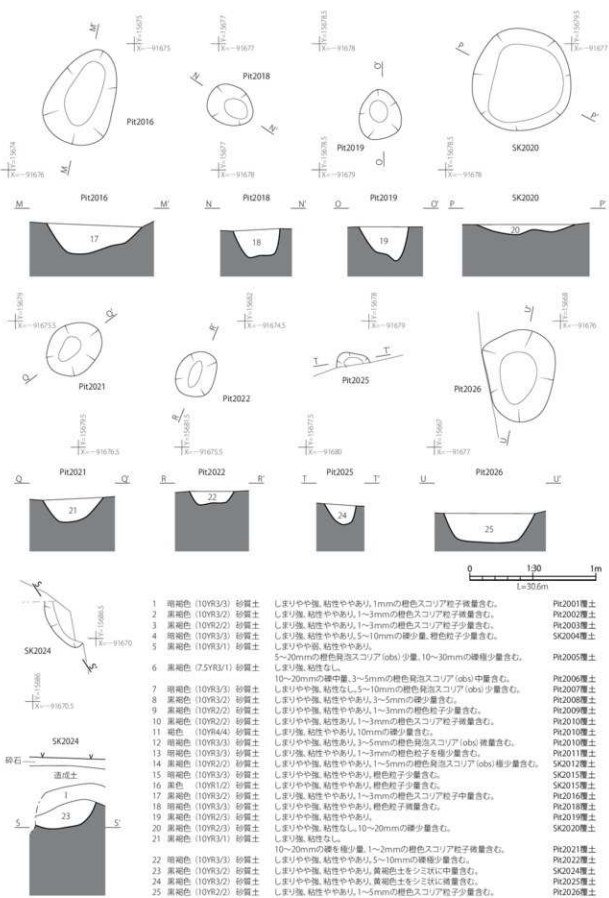


1　黒褐色（10YR2/2）　砂質土　　しまりやや強，粘性ややあり，1～5mmの橙色スコリア粒子極少量含む。　　SD2001覆土
2　黒褐色（10YR2/3）　砂質土　　しまり強，粘性なし，1～5mmの橙色スコリア粒子中量含む。　　SD2002覆土

第 154 図　溝状遺構　平面図、セクション図



第 155 図　土坑・ピット　平面図、セクション図 1



1	明褐色（10YR3/3）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、1mmの橙色スコリア粒子微量含む。	Pit2001覆土
2	黒褐色（10YR3/2）砂質土	しまり強、粘性ややあり、1～3mmの橙色スコリア粒子微量含む。	Pit2002覆土
3	黒褐色（10YR2/2）砂質土	しまり強、粘性ややあり、1～3mmの橙色粒子少量含む。	Pit2003覆土
4	明褐色（10YR3/3）砂質土	しまり強、粘性ややあり、5～10mmの礫少量、橙色粒子少量含む。	SK2004覆土
5	黒褐色（10YR3/1）砂質土	しまりやや弱、粘性ややあり、 5～20mmの橙色発泡スコリア（obs）少量、10～30mmの礫極少量含む。	Pit2005覆土
6	黒褐色（7.5YR3/1）砂質土	しまり強、粘性なし、 10～20mmの礫中量、3～5mmの橙色発泡スコリア（obs）中量含む。	Pit2006覆土
7	明褐色（10YR3/3）砂質土	しまりやや強、粘性なし、5～10mmの橙色発泡スコリア（obs）少量含む。	Pit2007覆土
8	黒褐色（10YR3/2）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、3～5mmの礫少量含む。	Pit2008覆土
9	黒褐色（10YR2/2）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、1～3mmの橙色粒子少量含む。	Pit2009覆土
10	黒褐色（10YR2/2）砂質土	しまりやや強、粘性ありあり、1～3mmの橙色スコリア粒子微量含む。	Pit2010覆土
11	褐色　（10YR4/4）砂質土	しまり強、粘性ややあり、10mmの礫少量含む。	Pit2010覆土
12	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまりやや強、粘性ありあり、3～5mmの橙色発泡スコリア（obs）微量含む。	Pit2010覆土
13	明褐色（10YR3/3）砂質土	しまり強、粘性ややあり、1～3mmの橙色粒子を極少量含む。	Pit2011覆土
14	黒褐色（10YR2/2）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、1～5mmの橙色発泡スコリア（obs）極少量含む。	SK2012覆土
15	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、橙色粒子少量含む。	SK2015覆土
16	黒色　（10YR1/2）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、橙色粒子少量含む。	SK2015覆土
17	黒褐色（10YR3/2）砂質土	しまり強、粘性ややあり、1～3mmの橙色スコリア粒子中量含む。	Pit2016覆土
18	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、橙色粒子微量含む。	Pit2018覆土
19	黒褐色（10YR2/3）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、	Pit2019覆土
20	黒褐色（10YR2/3）砂質土	しまりやや強、粘性なし、10～20mmの礫少量含む。	SK2020覆土
21	黒褐色（10YR3/1）砂質土	しまり強、粘性なし、 10～20mmの礫を極少量、1～2mmの橙色スコリア粒子微量含む。	Pit2021覆土
22	暗褐色（10YR3/3）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、5～10mmの礫極少量含む。	Pit2022覆土
23	黒褐色（10YR3/2）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、黄褐色土をシミ状に中量含む。	SK2024覆土
24	黒褐色（10YR3/2）砂質土	しまりやや強、粘性ややあり、黄褐色土をシミ状に微量含む。	Pit2025覆土
25	黒褐色（10YR2/2）砂質土	しまり強、粘性ややあり、1～5mmの橙色スコリア粒子少量含む。	Pit2026覆土

第156図　土坑・ピット　平面図、セクション図2

第2節　第117地区の調査成果

1　調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者（個人）は富士市伝法3014-11（111.47㎡）において、個人住宅の新築を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「東平遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

令和元年7月4日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」と「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

文化振興課は、令和元年8月26日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県知事（以下、県知事）宛に提出し（富市文発第524号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

(2) 確認調査（1次調査）

確認調査は令和元年9月2日に行った。東西方向のトレンチを1本設定し（1Tr、8.298㎡）、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

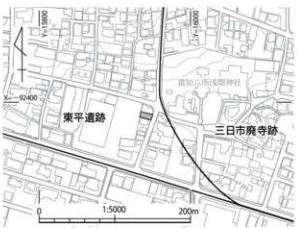
その結果、遺物は出土しなかったものの、地表下95cmほどの深さで、古代の遺構とみられるピット2基（Pit1001～1002）を検出した。

令和元年9月12日、事業者ならびに県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第588号）を提出し、事業者と、埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。

(3) 本発掘調査（2次調査）

確認調査の結果を受け、事業者から提出されていた文化財保護法第93条に基づく届け出に対して、令和元年9月17日、県知事から遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された（文財第1222号の2）。

9月27日、文化振興課は文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県知事宛に提出し（富市文発第644号）、国庫補助金を使用して、本発掘調査を行うこととなった。



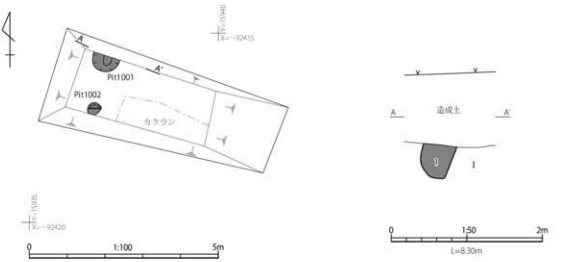
第157図　東平遺跡第117地区　位置図

第158図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図

本発掘調査は、令和元年9月30日から10月2日にかけて行った。敷地内に本調査区（28.185㎡）を設定し、重機により掘削を行い、遺構の検出後、人力により掘削、記録保存を行った。

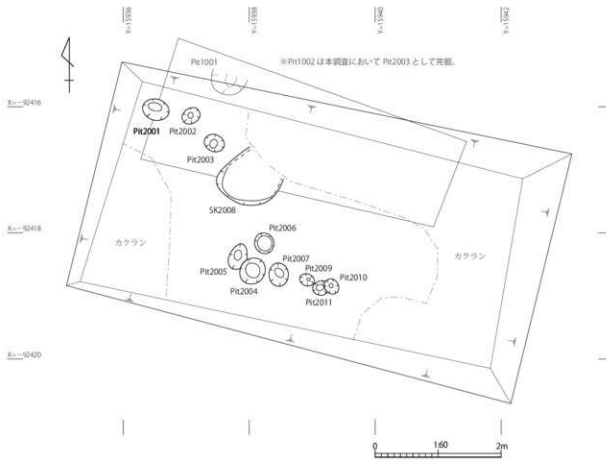
調査の結果、敷地の大部分が後世の撹乱を受けていたが、奈良・平安時代の土坑・ピットを11基（Pit2001～2011）検出した。遺物は少量の土器片と金属製品が出土し、10月4日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第654号）を、県知事宛に「出土品保管証」（富市文発第654-2号）を提出した。これは県知事により埋蔵文化財の認定を受けている（令和元年11月1日付け文財第1507号）。

令和元年10月7日、事業者ならびに県知事宛「発掘調査結果概要」（富市文発第667号）を提出した。



1　褐色　(7.5YR4/6)　しまり強、粘性なし。1～2cm 大の礫を多量に含む。
1　黒褐色　(7.5YR2/1)　しまりなし、粘性なし。2～3cm 大の小石を多く含む。土壌が酸化している。時代不明。　Pit1001 覆土

第 159 図　確認調査トレンチ　平面図、セクション図



第 160 図　本調査区　遺構配置図

2 調査の成果

(1) 確認調査

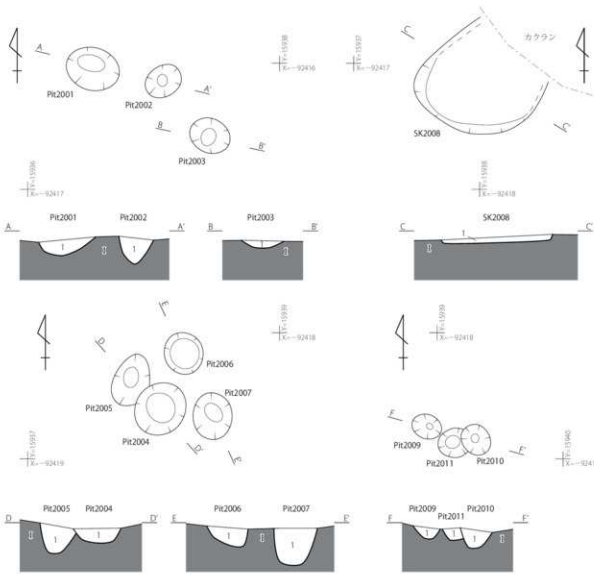
敷地中央に東西方向に設定した1トレンチにおいて、地表面下95cmの深さでピット2基（Pit1001～1002）を検出した。Pit1001は径72cm、深さ45cmを測り、断面形はU字形を呈する。

遺物は出土しなかった。

(2) 本発掘調査

本調査では、敷地の中央に調査区を設定して調査を行った。その結果、奈良・平安時代に位置づけられる土坑・ピット11基（Pit2001～2011）を完掘し、記録保存を行った。このうち、Pit2003は確認調査で検出されたPit1002を完掘したものである。土坑・ピットの規模等の詳細は第15表に示す。

遺物は少量の土器片が出土し、土師器坏の底部片1点を図化した（第162図1）。外面に糸切り痕が残る。10世紀から11世紀のものである。



1　褐色　(7.5YR4/6)　しまり強、粘性なし。1～2cm大の礫を多量に含む。
1　黒褐色　(7.5YR2/1)　しまりなし、粘性なし。2～3cm大の小石を多く含む。土壌が酸化している。　ピット・土坑覆土

第161図　土坑・ピット　平面図、セクション図

第 15 表　土坑・ピット　一覧表

遺構番号	種別	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物	切り合い (古→新)	備考
2001	Pit	45	38	11	浅いU字形	—	—	
2002	Pit	30	29	20	U字形	—	—	
2003	Pit	29	27	7	浅いU字形	—	—	1次調査のPit1002と同一遺構
2004	Pit	41	38	10	浅いU字形	—	Pit2005→Pit2004	
2005	Pit	34	(18)	21	U字形	R0001	Pit2005→Pit2004	
2006	Pit	33	29	14	U字形	—	—	
2007	Pit	35	33	31	U字形	R0002	—	
2008	SK	90	(70)	5	浅いU字形	R0003	北側を撹乱に切られる	
2009	Pit	22	18	9	U字形	—	—	
2010	Pit	25	24	15	U字形	—	Pit2011→Pit2010	
2011	Pit	23	(20)	11	U字形	—	Pit2011→Pit2010	

第 162 図　出土遺物実測図

第 16 表　東平遺跡第 117 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量 (cm) 口径	底径	器高	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 162 図 1	R0002	PL.22	Pit2007	土師器	坏	10 ～ 11C	-	-	(0.8)	良好	-	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)

第3章　滝下遺跡の調査

第1節　滝下遺跡の概要

滝下遺跡は、富士山南麓に広がる大淵扇状地の南端部、標高約30mに位置する集落遺跡である。これまでの調査では主に奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されており、過去には縄文時代の打製石斧も採取された。当初はA地区を中心に南北約350m、東西約250mを測る遺跡であるとされていたが、D～F・H～K地区に遺跡が存在しないと判明したため、遺跡範囲の北側と東側が縮小された。また、G・N地区で遺構が検出されたことで南側に遺跡範囲が広がり、結果として、当初に定めていたものより小規模で、より東平遺跡に近接する今の範囲に改められた。

滝下遺跡の西側には大規模集落である東平遺跡が所在する。滝下遺跡は郡家である東平遺跡と関連する集落であると考えられ、周辺遺跡の歴史的な変遷を辿ることで、滝下遺跡の性格を窺い知ることができる。

大淵扇状地に集落が出現したのは古墳時代前期であった。沢東A遺跡、川窪遺跡からは僅かながらも遺構・遺物が検出されており、潤井川沿いで人々が活動していたことが確認できる。

5世紀後半になると沢東A遺跡にて本格的な集落が形成され、その後中心的な居住地として発展していく。その隆盛と共に古墳が築造されるようになり、この時期を契機に大淵扇状地には伝法古墳群が形成されていった。7世紀前半には沢東A遺跡が最盛期を迎えるが、その後7世紀後半には縮小傾向を見せ始める。同時期に東平遺跡が規模を拡大し、その範囲を東へと伸ばしていった。

8世紀になると東平遺跡は急速に発展し、遺跡内には富士郡家が成立したと考えられている。また、周辺遺跡では衰退の傾向が見られるようになり、東平遺跡内への人口流入があったことが窺える。

こうした中で東平集落は居住地を拡大していき、その結果、滝下遺跡の範囲内に集落が形成されたと考えられる。

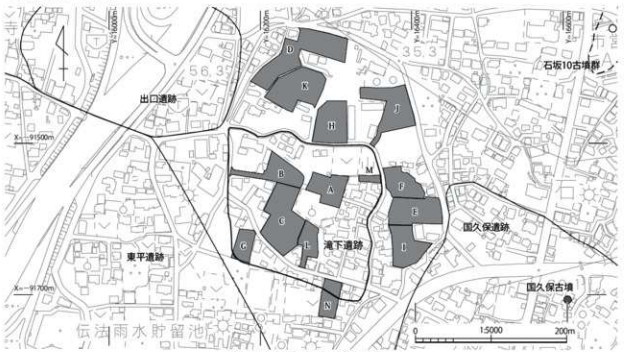
滝下遺跡は、大規模集落に隣接するものの集落の痕跡が希薄であり、明確な住居跡が検出されたのはB地区・G地区の2ヶ所のみである。いずれも奈良時代前期に相当し、須恵器や土師器の他に、B地区では銅製の鉸尾が出土した。奈良時代以前の遺構は検出されておらず、また、集落が継続して営まれていないことから、東平遺跡の盛期に際して短期的に集落が形成されたと考えられる。

第163図　滝下遺跡の位置

参考文献

富士市教育委員会　1991「滝下遺跡発掘調査報告」『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書　第2集』

富士市教育委員会　2019「第3章　東平遺跡の調査」『富士市内遺跡発掘報告書　－平成30年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第67集



第164図　滝下遺跡　調査履歴図

第17表　滝下遺跡　調査履歴一覧表

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査機間	遺構	遺物	報告書
A地区 B地区	1	S63	試掘	伝法字東平1946-1外	共同住宅	19880711～19880723	竪穴住居跡	土師器・須恵器	A
B地区	**2**	**S63**	**本調査**	**伝法字東平1946-1外**	**共同住宅**	**19880801～19880825**	**竪穴住居跡・ピット・土坑・溝状遺構**	**土師器・須恵器・鉄滓金具（鉸尾）**	**A**
C地区	1	H01	試掘	伝法字東平2342外	貸倉庫	19891202～19891206	円形土坑	土師器・須恵器・瓦	-
D地区	**1**	**H05**	**試掘**	**石脇字西ノ側131外**	**宅地**	**19940309～19940316**	**なし**	**なし**	**-**
E地区	1	H07	試掘	伝法字滝下1958-4外	宅地	19950711～19950718	なし	なし	-
F地区	**1**	**H07**	**試掘**	**伝法字滝下1961-1外**	**農地改良**	**19950713～19950719**	**なし**	**なし**	**-**
G地区	1	H14	試掘	伝法字東平2355-1	共同住宅建設	20020909～20020913	竪穴住居跡3軒	土師器・須恵器	C
H地区	**1**	**H18**	**試掘**	**伝法字滝下1939-1**	**共同住宅建設**	**20060502**	**なし**	**なし**	**B**
I地区	1	H23	試掘	伝法字滝下1957-1	調査依頼	20110519～20110520	なし	土師器	D
J地区	**1**	**H23**	**試掘**	**伝法字滝下1964-1外**	**調査依頼**	**20110705～20110707**	**なし**	**なし**	**D**
K地区	1	H25	確認	伝法字滝下1928番2外	宅地分譲地造成	20131015～20131017	なし	なし	E
L地区	**1**	**H25**	**確認**	**伝法字滝下2341-1外**	**アパート新築工事**	**20131118**	**なし**	**なし**	**E**
M地区	1	H26	確認	伝法字滝下1962番地	不動産売買	20140508	なし	なし	F
N地区	**1**	**H31**	**試掘**	**伝法2316-1**	**宅地分譲**	**20190904～20190906**	**ピット**	**土器**	**本書**
N地区	2	H31	本発掘	伝法2316-1	宅地分譲	20191112～20191126	ピット	土器	本書

【報告書】

A　『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書　第2集』「滝下遺跡」（1991）

B　『平成17・18年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』（2008）

C　『平成14・20年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』（2010）

D　『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成22・23年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第54集（2013）

E　『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成24・25年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第57集（2015）

F　『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成26・27年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第60集（2017）

第2節　N地区の調査成果

1　調査の概要

(1) 調査に至る経緯

株式会社朝日鉄建（以下、事業者）は、富士市伝法2316-1（面積1200㎡）において、宅地分譲を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「滝下遺跡」に隣接することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市役所市民部文化振興課（以下、文化振興課）と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

令和元年8月5日、事業者から富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて文化振興課は、令和元年8月29日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」（富市文発第536号）を静岡県知事（以下、県知事）に提出し、文化振興課職員による確認調査を実施する事となった。

(2) 確認調査（1次調査）

確認調査は令和元年9月4日から9月6日にかけて行なった。調査では敷地内に2ヶ所のトレンチを設定し、重機による表土除去後、人力による遺構精査を行ない、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、敷地内の北側において奈良・平安時代のものと思われるピットと土器を確認した。

令和元年9月10日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第577号）、県知事宛に「出土品保管証」（富市文発第577-2号）を提出した。令和元年9月12日、事業者ならびに県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第589号）を提出し、事業者との間で埋蔵文化財の保護に対する対応について協議を開始した。

また、敷地内で遺跡が確認された為、滝下遺跡の包蔵地範囲を追加することとし、令和元年10月10日、県知事宛に「埋蔵文化財包蔵地内容変更について」（富市文発第695号）を提出した。令和元年10月15日、県知事より内容変更についての通知がなされ、包蔵地範囲の変更が完了した。

(3) 本調査（2次調査）

令和元年11月1日、事業者と富士市長、市教育長の三者間で文化財調査に関する協定が締結される。これに基づき、「発掘作業に関わる業務委託契約」を事業者と富士市長の二者間で締結し、本発掘調査を実施するに至った。また、本調査は、確認調査に引き続き市教育委員会の補助機関である文化振興課が担当した。

本調査（2次調査）は、令和元年11月12日から令和元年11月26日にかけて実施された。

まず、調査対象範囲の東側に調査工区を設定し、調査を開始した。バックホーによる調査範囲の表土除去と、人力精査による遺構検出を行ない、その結果、土坑とピットが確認された。検出後、遺構の掘削と、写真や測量などの記録作業を行ない調査を終了した。

令和元年11月28日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第820号）、県知事宛に「出土品保管証」（富市文発第820-2号）を提出した。令和元年11月26日、業者に対して、2次調査における業務の完了報告を行ない（富市文発第817号）、令和元年11月29日、事業者ならびに県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第824号）を提出した。その後、業務委託金の変更契約と精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

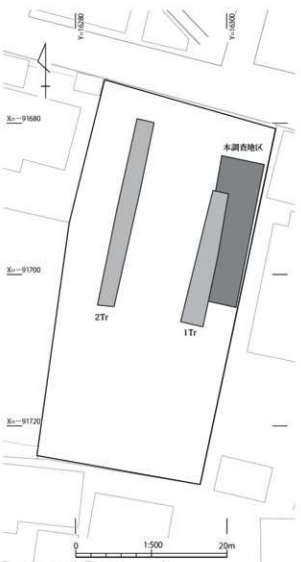
第165図　滝下遺跡N地区　位置図

(4) 調査体制

滝下遺跡 N 地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会　教育長　森田　嘉幸
[担当機関] 富士市役所市民部　部　長　高野　浩一
文化振興課　課　長　久保田伸彦
文化財担当　総括主幹　植松　良夫
主　幹　石川　武男
調査担当　主　査　佐藤　祐樹
調査員　小島　利史
若林　美希
志崎江莉子
臨時職員　石川都久子
渡辺美規子

発掘作業員　社団法人富士市シルバー人材センター



第 166 図　確認調査トレンチ配置図および本調査区位置図

2　調査の成果

(1) 確認調査 (1 次調査)

1 次調査では、南北方向に 2 ヶ所のトレンチを設定し、調査を行った。

調査の結果、トレンチの北側から土坑とピットが確認され、また、ピット内からは遺物を検出した。敷地の南側は旧地形が高くなっており、遺構は検出されなかった。

(2) 本調査 (2 次調査)

2 次調査は、包蔵地内における道路建設部分として、1 次調査の 1 トレンチに一部重なるような形で調査区を設定した。

遺構は、土坑が 7 基、ピットが 24 基確認された。遺構から出土した遺物は多くはなく、また、土坑とピットの分布状況に規則性はみられなかった。

遺構は調査区の北側で集中して検出された。1 次調査で確認された状態と同様に、調査区は南側に向かって旧地形が高くなっており、地形が高くなるにつれて遺構が見られなくなることが分かった。

本遺跡は、南西に位置する東平遺跡の集落との関連が指摘されているが、今回の調査によって東平遺跡と滝下遺跡の間に遺構空白地が存在することが明らかとなった。

(3) 出土遺物

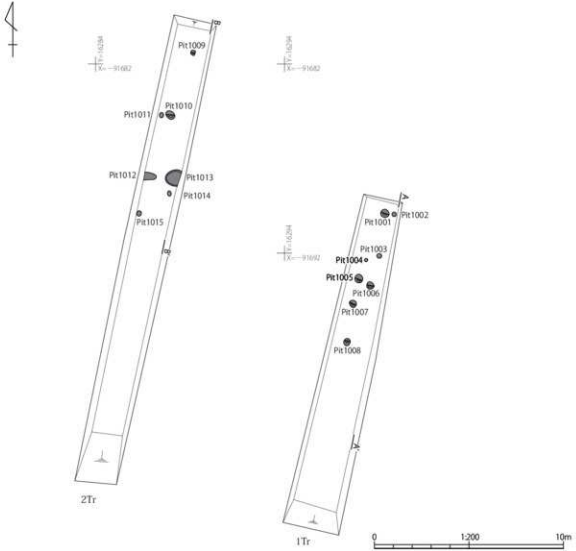
確認調査及び本調査において出土した遺物から、4 点の遺物を図示した (第 168 図)。

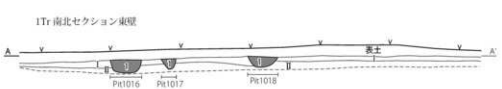
1 は 8 世紀の須恵器の坏である。Pit2019 と、掘削した表土の中から出土した。底部回転糸切り後未調整の底部である。

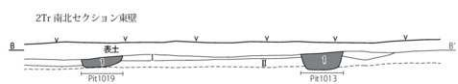
2 は、8 世紀の土師器の甕の口縁部である。内面にヨコハケが見られ、外面にもタテハケと思われる痕が認められる。折り返し口縁である。

3 は中世の甕の一部である。SK2002 内から検出された。内外面共にナデ調整が確認できる。

4 は時期不明の土錘であるが、中世以降のものと推定される。





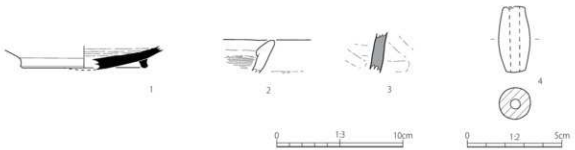


Ⅰ 黒褐色土層 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし、赤色粒子少量含む。 旧表土
Ⅱ 黒褐色土層 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし、5~10cmの礫を多く含む。 地山

1 黒褐色土層 (7.5Y3/1) しまりなし、粘性なし、赤色粒子少量含む。 覆土

0 1:100 4m
L=25.4m

第 167 図　確認調査　トレンチ平面図・セクション図

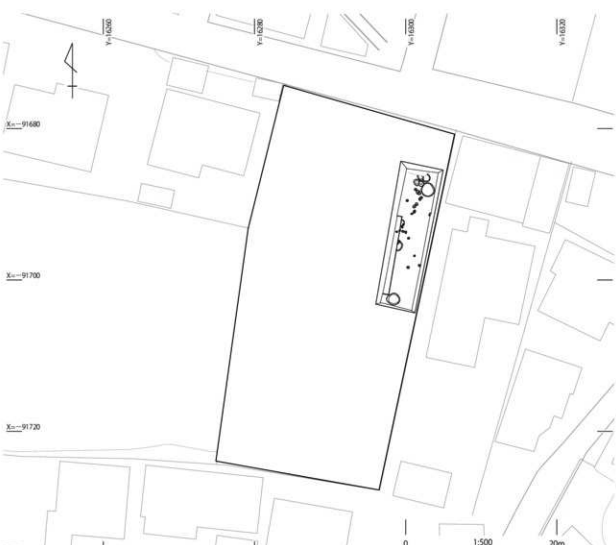


第 168 図　出土遺物実測図

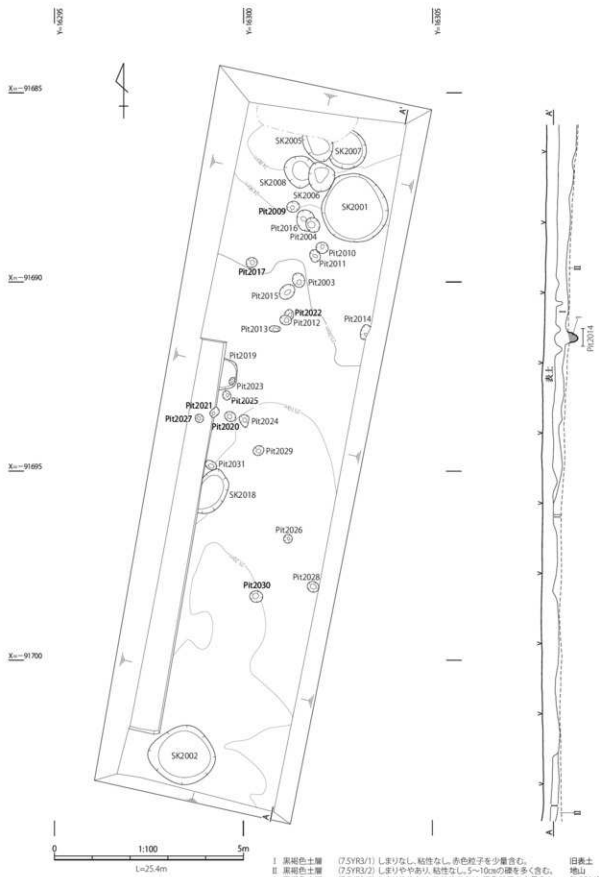
第 18 表　滝下遺跡 N 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）			焼成	残存率	内面色調	外面色調
							口径	底径	器高				
第 168 図 1	R0004 R0011	PL.25	表土中 Pit2019	須恵器	坏	8C	-	[9.7]	(1.9)	良好	-	褐灰（10YR6/1）	褐灰（10YR6/1）
第 168 図 2	**R0004**	**PL.25**	**表土中**	**土師器**	**甕**	**8C**	**-**	**-**	**(2.6)**	**良好**	**-**	**黒褐（5YR3/1）**	**にぶい赤褐（2.5YR4/4）**
第 168 図 3	R0015	PL.25	SK2002	陶器	甕	中世	-	-	(3.1)	良好	-	にぶい赤褐（5YR5/3）	にぶい赤褐（5YR5/3）

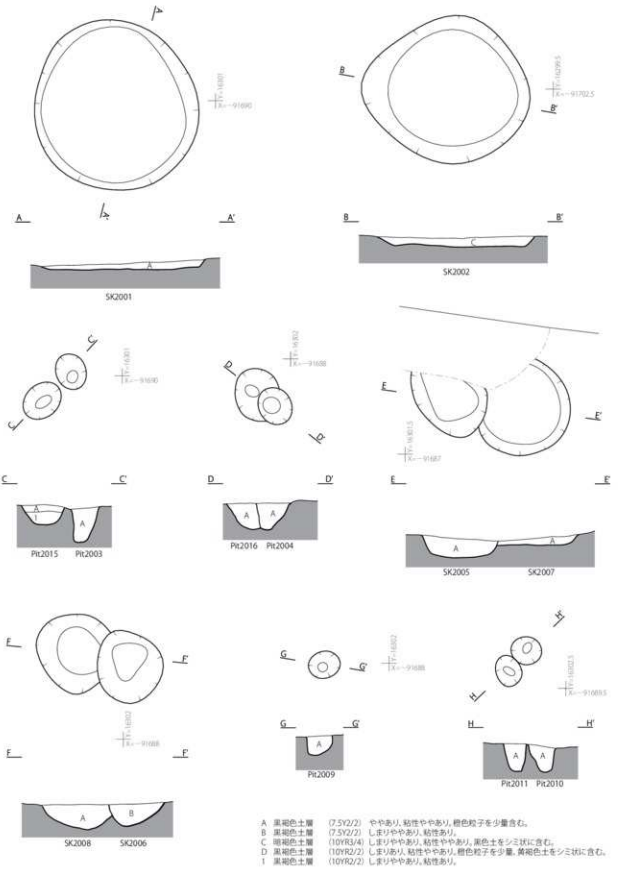
挿図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）				焼成	残存率	内面色調	外面色調
							長さ	幅	孔径					
第 168 図 4	R0004	PL.25	表土中	土製品	土錘	不明（中世？）	3.4	1.7	0.5 ～ 0.55		良好	99%	灰赤（2.5YR4/2）	灰赤（2.5YR4/2）



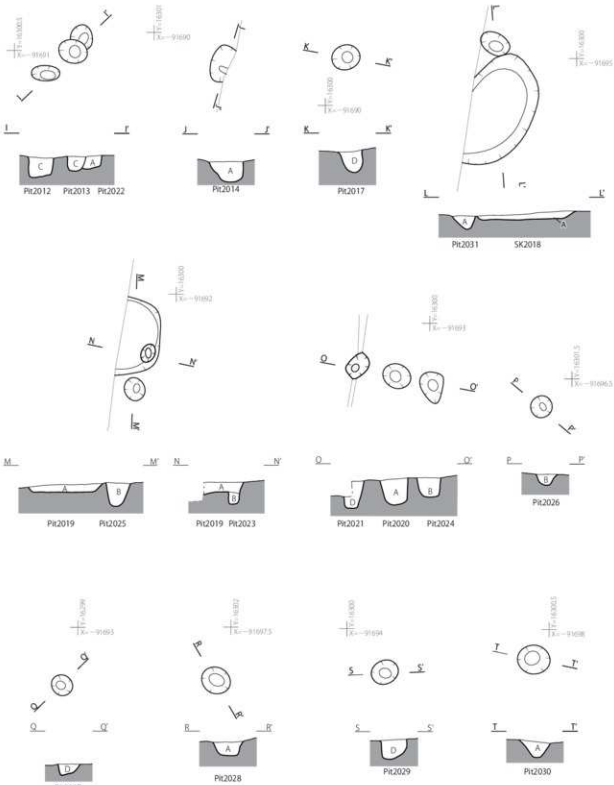
第 169 図　本調査区平面図



第170図 土坑・ピット平面図



第 171 図　土坑・ピット　個別平面図、セクション図 1



第172図 土坑・ピット 個別平面図、セクション図2

第19表　土坑・ピット　一覧表

遺構番号	遺構種別	規模（cm）			断面形	出土遺物	切り合い（古→新）
		長軸	短軸	深さ			
2001	SK	180	175	11	浅い逆台形	R0006	-
2002	**SK**	**170**	**155**	**10**	**浅い逆台形**	**R0007 R0013 R0014 R0015（3）**	**-**
2003	Pit	38	32	40	U字形	-	-
2004	**Pit**	**39**	**(34)**	**32**	**U字形**	**-**	**Pit2016→Pit2004**
2005	SK	89	(55)	25	浅いU字形	-	SK2007→SK2005
2006	**SK**	**70**	**78**	**34**	**U字形**	**-**	**SK2008→SK2006**
2007	SK	100	(85)	20	浅い逆台形	R0009	SK2007→SK2005
2008	**SK**	**80**	**77**	**40**	**U字形**	**-**	**SK2008→SK2006**
2009	Pit	30	28	30	U字形	-	-
2010	**Pit**	**30**	**28**	**27**	**U字形**	**-**	**-**
2011	Pit	30	26	32	U字形	-	-
2012	**Pit**	**26**	**(20)**	**16**	**U字形**	**-**	**Pit2022→Pit2012**
2013	Pit	30	24	22	U字形	-	-
2014	**Pit**	**36**	**(20)**	**24**	**U字形**	**-**	**-**
2015	Pit	48	34	22	U字形	-	-
2016	**Pit**	**46**	**(35)**	**26**	**U字形**	**R0016**	**Pit2016→Pit2004**
2017	Pit	28	24	25	U字形	-	-
2018	**SK**	**120**	**(70)**	**14**	**浅い逆台形**	**R0012**	**-**
2019	Pit	74	(43)	7	浅い逆台形	R0011（1）	Pit2023→Pit2019
2020	**Pit**	**31**	**25**	**28**	**U字形**	**-**	**-**
2021	Pit	27	25	28	U字形	-	-
2022	**Pit**	**20**	**(20)**	**19**	**U字形**	**-**	**Pit2022→Pit2012**
2023	Pit	20	(15)	15	U字形	-	Pit2023→Pit2019
2024	**Pit**	**31**	**24**	**23**	**U字形**	**-**	**-**
2025	Pit	24	20	27	U字形	-	-
2026	**Pit**	**24**	**26**	**17**	**U字形**	**-**	**-**
2027	Pit	25	20	13	U字形	-	-
2028	**Pit**	**34**	**30**	**18**	**U字形**	**-**	**-**
2029	Pit	31	28	23	U字形	-	-
2030	**Pit**	**30**	**28**	**20**	**U字形**	**-**	**-**
2031	Pit	25	23	14	U字形	-	-

第4章　三新田遺跡の調査

第1節　三新田遺跡の概要

三新田遺跡は、富士市西南の田子浦砂丘に位置する集落遺跡である。標高4m～6mの低平な土地に所在し、北に浮島ヶ原湿地、南に駿河湾を臨む。

本遺跡は、昭和55年に実施された三新田土地区画整理事業に伴う踏査によって発見された。過去の調査では弥生土器も採取されているが、本格的な集落は古墳時代、奈良・平安時代に形成されており、特にA・B・D地区からは大規模な集落跡が検出されている。

遺跡の東側には、同じく砂丘上に位置する柏原遺跡が存在する。三新田遺跡と同様に奈良・平安時代の集落跡が確認されており、その土層堆積から田子浦砂丘の過去の環境を推測することができる。

堆積状況からは、古墳時代の災害の様子が確認された。堆積状況を概略すると、古墳時代前期の層からは高潮（または津波）の痕跡が確認され、古墳時代中期後半の層からは富士山の噴火による大淵スコリアの堆積が認められた。

このように、古墳時代の田子浦砂丘は度々災害に見舞われたが、続く奈良・平安時代においても人々の生活が営まれる。遺跡周辺は『三代実録』貞観6年（864）12月10日条に記載のある「柏原駅」の比定地として認識されており、三新田遺跡および柏原遺跡内の集落は、田子浦砂丘を通る主要街道に沿って所在していた可能性が考えられる。

過去の調査では、そうした状況を示唆するような調査結果が出ている。三新田遺跡のD地区では東西に延びる複数の溝状遺構が5.5 m～6mの間隔をもって平行に位置しており、古代東海道に関連した道路遺構の可能性がある。更に、三新田遺跡と柏原遺跡では溝状遺構から馬歯が出土しており、馬歯そのものの時期が未確定のため断定はできないものの、「柏原駅」との関連が想定される。

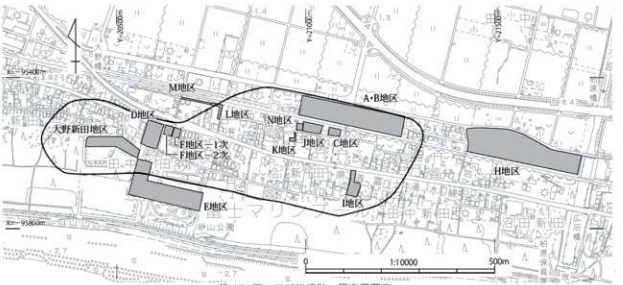
また、柏原遺跡の範囲内には庚申塚古墳（前方後円墳）と、山の神古墳（双方中方墳）が築かれている。このような状況からも、三新田遺跡が所在する田子浦砂丘一帯が、古墳時代から奈良・平安時代にかけて重要な意味を持つ場所であったと窺える。

参考文献

富士市教育委員会　2002『三新田（D地区）発掘調査報告書』富士市埋蔵文化財調査報告書

富士市教育委員会　2013「柏原遺跡の調査」『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成22・23年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第54集

第173図　三新田遺跡の位置



第 174 図　三新田遺跡　調査履歴図

第 20 表　三新田遺跡　調査履歴一覧表

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査期間	遺構	遺物	報告
大野新田地区	1	S55	本調査	田中新田字堤外 大久保上 275-35 外	19800624 ～ 19800630	溝状遺構・土坑・ 竪穴住居？	土師器・須恵器・緑釉陶器・鉄滓	1
A 地区 B 地区	**1**	**S56**	**本調査**	**桧新田 147-1 外**	**19811001 ～ 19810131**	**竪穴住居跡・井戸址・ 掘立柱建物跡**	**土師器・須恵器・鉄滓・緑釉陶器**	**1・2**
C 地区	1	H01	試掘	桧新田字居村下 158	19890410 ～ 19890412	なし	土師器・須恵器	3
-	-	**H05**	**工事立会**	**三新田 11 地先**	**19931213**	**なし**	**なし**	-
D 地区	1	H05	試掘	田中新田 262-4 外	19930715 ～ 19930731	竪穴住居跡・溝状遺構・ 土坑	土師器	4
D 地区	**2**	**H05**	**本調査**	**田中新田 262-4 外**	**19931004 ～ 19940131**	**竪穴住居跡・溝状遺構・ 土坑**	**土師器・灰釉陶器・刀子**	**4**
D 地区	3	H06	本調査	田中新田 262-4 外	19940714 ～ 19940914	なし	土師器・須恵器・灰釉陶器	4
D 地区	**4**	**H06**	**本調査**	**田中新田 262-4 外**	**19940916 ～ 19941125**	**なし**	**土師器・須恵器・灰釉陶器・馬歯**	**4**
E 地区	1	H05	試掘	田中新田 275-10 外	19940214 ～ 19940322	なし	土師器	-
F 地区	**1**	**H07**	**試掘**	**田中新田 262-9 外**	**19951004 ～ 19951006**	**なし**	**なし**	-
F 地区	2	H07	試掘	田中新田 262-6 外	19951117	なし	なし	-
G 地区	**1**	**H05**	**試掘**	**桧新田・田中新田地先**	**19930506 ～ 19930514**	**井戸址**	**土師器・須恵器・土錘**	-
H 地区	1	H06	試掘	柏原 280-1-1 外	19941111 ～ 19941125	なし	土師器・須恵器	-
I 地区	**1**	**H10**	**試掘**	**田中新田字上 177-2 外**	**19981109 ～ 19981111**	**なし**	**なし**	-
J 地区	1	H11	試掘	桧新田字居村下 190-1	19990405 ～ 19990408	溝状遺構	なし	5
K 地区	**1**	**H22**	**試掘**	**桧新田 203-1　外**	**20101027**	**なし**	**なし**	**6**
L 地区	1	H25	確認	桧新田 264-1 外	20130918 ～ 201309019	なし	なし	7
M 地区	**1**	**H26**	**試掘**	**田中新田 23 番 1 外**	**201409024**	**なし**	**なし**	**8**
N 地区	1	H31	確認	桧新田 189-1	20191018 ～ 20191023	溝状遺構	土器（古墳時代）・金属製品（奈良時代）	本書
N 地区	**2**	**H31**	**本発掘**	**桧新田 189-1 ほか**	**20191128 ～ 20191227**	**溝**	**土器**	**本書**

【報告書】

1.『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』「大野新田遺跡」（1983）

2.『三新田遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』（1982）

3.『平成元年度発掘調査概報』「三新田遺跡 C 地区確認調査概報」（1989）

4.『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書　三新田遺跡（D 地区）発掘調査報告書』

5.『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成 11・12 年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第 53 集（2012）

6.『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成 22・23 年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集（2013）

7.『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成 24・25 年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第 57 集（2015）

8.『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成 26・27 年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第 60 集（2017）

第2節　N地区の調査成果

1　調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者（個人）は、富士市桧新田 189-1（面積 271.64 ㎡）において、個人住宅の建設を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「三新田遺跡」の範囲内に位置することから、事業者は、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市役所市民部文化振興課（以下、文化振興課）と埋蔵文化財の対応についての協議を行った。

その結果、令和元年 10 月 7 日、「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」が、富士市教育委員会教育長宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、文化財保護法第 99 条に基づく書類である「発掘調査について」（富市文発第 721 号）を静岡県知事（以下、県知事）宛に提出し、文化振興課職員による確認調査を実施する事となった。

(2) 確認調査（1 次調査）

確認調査（1 次調査）は令和元年 10 月 18 日から 10 月 23 日にかけて行なわれた。

調査では敷地内にトレンチを 1 ヶ所設定し、重機による表土除去後、人力による遺構精査を行ない、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、遺構としては溝状遺構を検出し、遺物としては古墳時代の土器、奈良時代の金属製品を確認した。

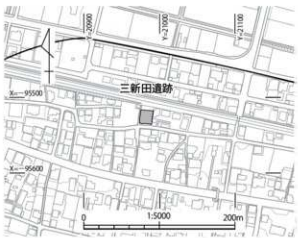
令和元年 10 月 25 日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第 729 号）を提出し、県知事宛に「出土品保管証」（富市文発第 729-2 号）を提出した。

令和元年 10 月 30 日、事業者ならびに県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第 738 号）を提出し、また、事業者から提出された文化財保護法第 93 条に基づく「埋蔵文化財の届出書」を県知事に進達した。その結果、遺跡の保護が図れないことから、県知事より本発掘調査を行うように指示があった。

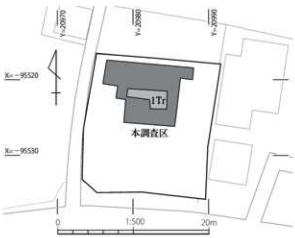
(3) 本調査（2 次調査）

本発掘調査の指示を受け、事業者から市教育委員会宛に「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」が提出される。文化振興課は、文化財保護法第 99 条に基づく書類である「発掘調査について」（富市文発第 818 号）を静岡県知事宛に提出し、文化振興課職員による本発掘調査を実施する事となった。

本発掘調査は、令和元年 11 月 28 日から 12 月 27 日にかけて実施された。調査では、まず調査対象範囲に調査工区を設定し、重機による調査範囲の表土除去を行なった。その後人力による遺構の検出、掘削を行なった。調査の結果、確認調査で検出した溝状遺構の続きが確認され、遺物としては古墳時代の土器が出土したが、確認調査で出土した金属製品に



第 175 図　三新田遺跡 N 地区　位置図



第 176 図　確認調査トレンチおよび本調査区位置図

伴う遺物は確認されなかった。

検出・掘削の後、写真や測量などの記録作業を行ない調査を終了した。

令和元年12月25日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第911号）、県知事宛に「出土品保管証」（富市文発第911-2号）を提出した。

令和2年1月31日、事業者ならびに県知事宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第1001号）を提出した。

【発掘調査体制】

三新田遺跡N地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体] 富士市教育委員会　教育長　森田　嘉幸
[担当期間] 富士市役所市民部　部　長　高野　浩一
文化振興課　課　長　久保田伸彦
文化財担当　統括主幹　植松　良夫
主　幹　石川　武男
調査担当者　主　査　佐藤　祐樹
調査員　志崎江莉子
渡井　義彦
発掘作業員　社団法人富士市シルバー人材センター

2　調査成果

(1) 確認調査（1次調査）

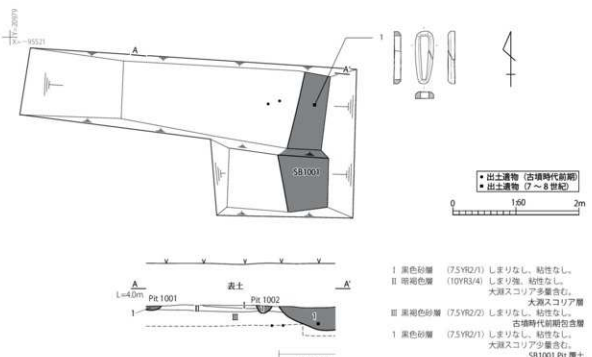
対象地区の中央に東西方向のトレンチを1ヶ所設定した。調査の結果、竪穴建物跡1基（SB1001）を検出し、断面観察によりピット2基（Pit1001～1002）を確認した。竪穴建物跡からは遺物が出土している。また、ピット2基は、2次調査において平面的に検出することが出来なかった。

1次調査で検出した竪穴建物跡（SB1001）は、後の2次調査により溝状遺構であることが判明したため、名前をSD2001と改めている。遺構の詳細については SD2001 の項にて記載する。

(2) 本調査（2次調査）

対象地区の北側に調査区を設定した。全体的に北に向かって傾斜しており、砂質土が堆積している。調査全体を通して確認できた遺構は SD2001 と SD2002 の2ヶ所のみである。

遺物の出土量は全体的に少なく、また、出土した遺物のほとんどが古墳時代のものであった。Ⅴ層以下はテストピットにて掘削を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。



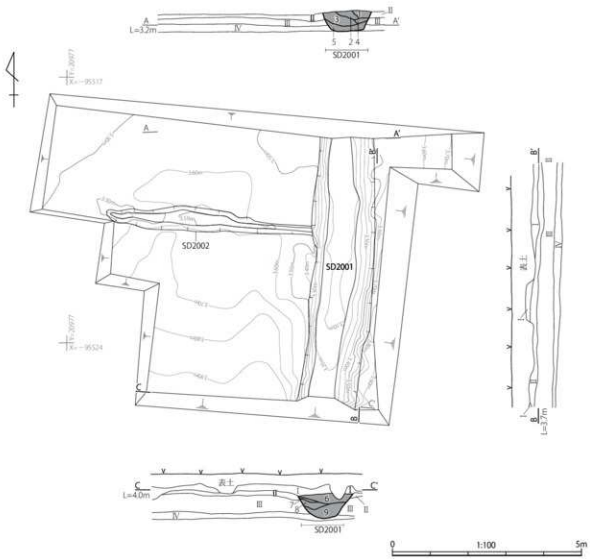
第177図　確認調査トレンチ　平面図、セクション図

SD2001

奈良時代に該当すると思われる溝状遺構である。1次調査では竪穴建物跡（SB1001）として検出したが、2次調査で溝状遺構と判明したため、SD2001として名前を改めた。

遺構幅は150～160cm、深さは70cm程度を測り、断面は浅く、U字形を呈す。南北方向に延び、北側に向かって底面が低くなる。

SD2001は大淵スコリア降下後に掘り込まれており、1次調査で出土した刀装具から7～8世紀の遺構であると推測される。刀装具以外には古墳時代前期～後期の土器が出土しているが、これらは混入した遺物と考えられる。



I	黒褐色砂層	(10YR3/1)	しまりあり、粘性なし。大淵スコリア少量含む。	
II	暗褐色砂層	(10YR3/4)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア極多量含む。	
III	暗褐色砂層	(10YR3/3)	しまりなし、粘性なし。	
IV	黒褐色砂層	(10YR3/2)	しまりなし、粘性なし。	
1	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア多量含む。	SD2001 覆土
2	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア中量含む。	SD2001 覆土
3	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア少量含む。	SD2001 覆土
4	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア少量含む。	SD2001 覆土
5	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア多量含む。	SD2001 覆土
6	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア少量含む。	SD2001 覆土
7	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア少量含む。	SD2001 覆土
8	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア中量含む。	SD2001 覆土
9	黒褐色砂質土層	(10YR3/2)	しまりなし、粘性なし。大淵スコリア多量含む。	SD2001 覆土

第178図　本調査区遺構検出状況　平面図、セクション図

SD2001 出土遺物

SD2001 からは、出土位置が明確な物だけで 23 点の遺物を検出した。内訳は金属製品が 1 点、土器が 22 点である。土器の内訳は、古墳時代前期の物が 12 点、古墳時代中期～後期の物が 10 点であった。遺物の出土状況は第 181 図に示した。

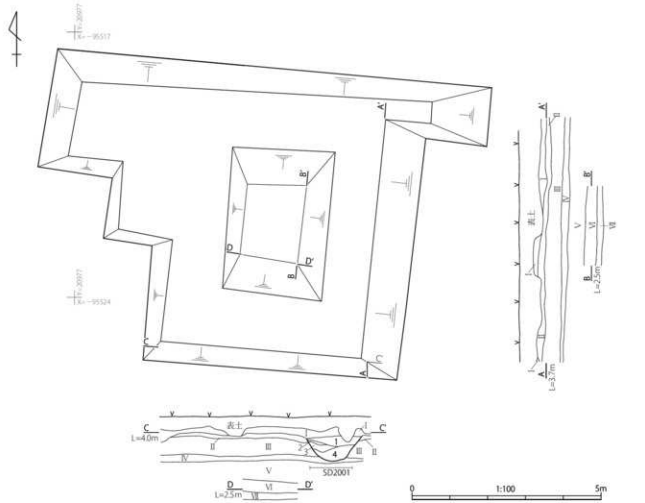
出土した遺物の中から、金属製品 1 点と土器 4 点を図示した（第 182 図）。

1 は銅製の縁金具である。棒状の銅を巻き込んで鍛接してあり、幅広の器形から、装着されていた刀類は 7 世紀末から 8 世紀初頭の無区の蕨手刀か共鉄造方頭横刀であったと考えられる。

2・3 は古墳時代前期の S 字甕である。

2 は口縁部で、外面にナナメハケとヨコハケを有す。内面には指頭圧痕が認められた。3 は頸部と体部が残存しており、外面にはナナメハケ、内面にはナデ調整が認められる。口縁部の一部が残っており、屈曲部の様子から口縁部の外傾は弱いと推測される。

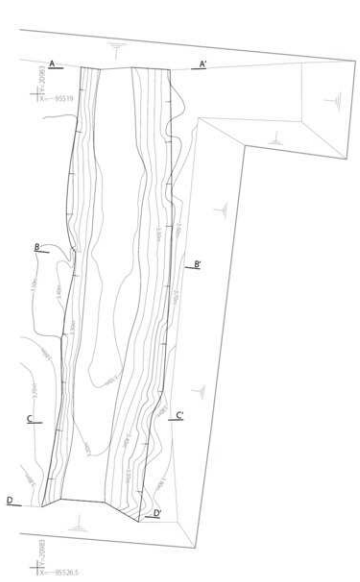
4・5 は古墳時代前期の土師器の壺の口縁部である。4 は折り返し口縁で、口唇部は面を呈す。内面にナナメハケとヨコハケが認められ、外面の首部にはハケメが認められた。5 は折り返し口縁で、口唇部が面を呈し、刻み目が施されている。内面にヨコハケが認められた。



I 黒褐色砂層 (10YR3/1) しまりあり、粘性なし。大洲スコリア少量含む。
II 暗褐色砂層 (10YR3/4) しまりなし、粘性なし。大洲スコリア極多量含む。
III 暗褐色砂層 (10YR3/3) しまりなし、粘性なし。
IV 黒褐色砂層 (10YR3/2) しまりなし、粘性なし。
V 暗褐色砂層 (10YR3/3) しまりなし、粘性なし。
VI 黒褐色砂層 (10YR2/2) しまりあり、粘性なし。橙色粒子少量含む。
VII 黒褐色砂層 (10YR2/3) しまりあり、粘性なし。

1 黒褐色砂質土層 (10YR3/1) しまりなし、粘性なし。大洲スコリア少量含む。SD2001 覆土
2 黒褐色砂質土層 (10YR3/1) しまりなし、粘性なし。大洲スコリア少量含む。SD2001 覆土
3 黒褐色砂質土層 (10YR3/1) しまりなし、粘性なし。大洲スコリア中量含む。SD2001 覆土
4 黒褐色砂質土層 (10YR3/2) しまりなし、粘性なし。大洲スコリア多量含む。SD2001 覆土

第 179 図　本調査区完掘状況　平面図、セクション図



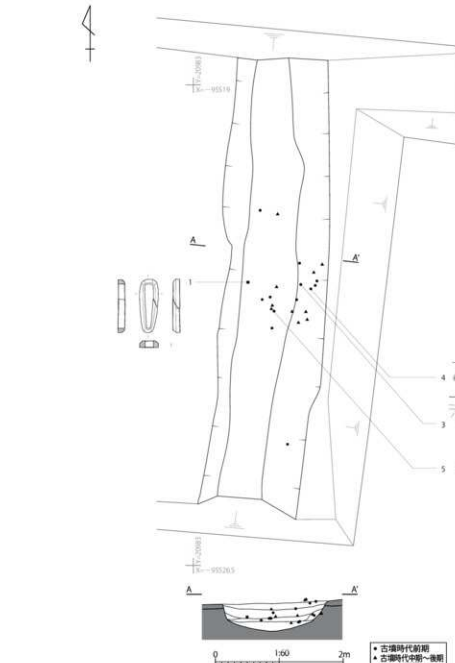
1 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア多量含む。
2 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
3 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
4 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア微量含む。
5 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア多量含む。

6 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
7 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
8 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア中量含む。
9 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
10 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア多量含む。

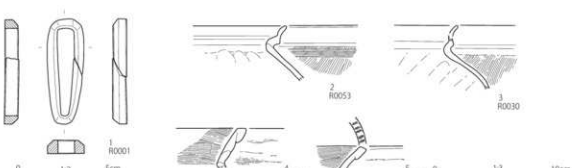
11 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア多量含む。
12 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
13 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
14 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア微量含む。
15 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア多量含む。

16 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
17 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア少量含む。
18 黒褐色砂質土（10YR3/1） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア中量含む。
19 黒褐色砂質土（10YR3/2） しまりなし、粘性なし、大洲スコリア多量含む。

第 180 図　SD2001　平面図、セクション図



第 181 図　SD2001　遺物出土状況



第 182 図　SD2001 出土遺物実測図

SD2002

性格不明の溝状遺構である。幅 50cm、深さ 15cm 程度の比較的小型で浅い溝であった。東西方向に延びており、平面プランが直線的ではなく、幅の増減もある。SD2001 に切られているため、大濁スコリア降下後の古墳時代後期から奈良時代に該当すると思われる。

SD2002 出土遺物

古墳時代前期の壺の破片が 1 点出土したが、図示には至らなかった。

遺構外出土遺物

遺構外出土の遺物は出土位置が明確なものだけで 50 点が確認されており、いずれも Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から出土している。出土状況は第 184･185 図に示した。

Ⅱ層からは 11 点の遺物が出土しており、遺物の年代は全て古墳時代中期である。SD2002 の周辺から集中して検出された。

Ⅲ層からは 30 点の遺物が出土している。古墳時代前期と古墳時代中期のものがほぼ半数ずつ出土しており、主に調査区の東側で確認された。Ⅳ層の出土遺物は 9 点で、古墳時代前期に相当する。

出土した遺物の内、23 点を図示した（第 186･187 図）。6 ～ 9 は古墳時代前期の S 字甕の口縁部である。6 は、外面にナナメハケが、内面には指頭痕がみとめられる。口縁部は屈曲が鋭く、やや強く外反する。7 は、外面にナナメハケが施されており、一部はナデ消されている。内面には指頭圧痕を有す。口縁部の外傾は弱く、やや外反しながら直線的に立ち上がる。8 は外面にナナメハケ、内面に指頭痕が認められる。口縁部の外傾は弱く、やや外反しながら直線的に立ち上がる。9 は器壁が薄く、口縁部の突出部分が鋭い。10 は古墳時代前期の S 字甕の台部である。端部に折り返しが認められる。胎土は灰白色で、雲母を多く含む。

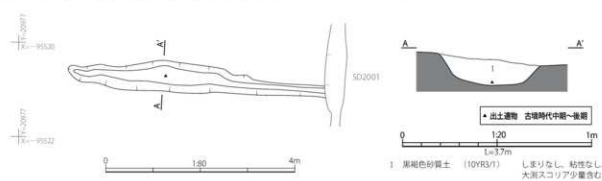
11 ～ 15 は古墳時代前期の土師器の壺である。11 は外面に縦位のヘラミガキが施され、頭部にはハケメが認められた。口縁部内面には縦位のヘラミガキ、体部内面にはナナメハケとヨコハケが施される。底部には凹みがあり、上げ底を呈する。12 は口縁部である。折り返し口縁の端部はハケメが施され、その上から刻み目を入れている。外面はヨコナデとハケメ、内面はヨコハケを有す。

13 は庄内式土器の胴部と考えられる。外面にはヘラケズリが認められる。また、外面の一部にはハケ調整の後、横位・斜位のヘラミガキが施されており、光沢を有す。内面は横位のヘラナデが施されている。14 は胴部の土器片である。外面はナナメハケと、一部にナデ調整が施される。内面はヨコハケが認められた。15 は壺の肩部である。外面は丁寧な横位のヘラミガキがされ、光沢が認められる。内面はヨコナデを施す。

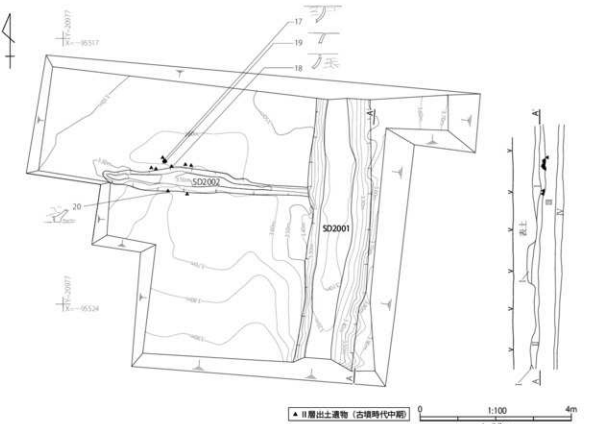
16 ～ 18 は土師器の坏で、いずれも古墳時代中期～後期のものである。

16 は口縁部で、端部が内屈している。外面に横位のヘラミガキ、内面にヨコナデが認められる。

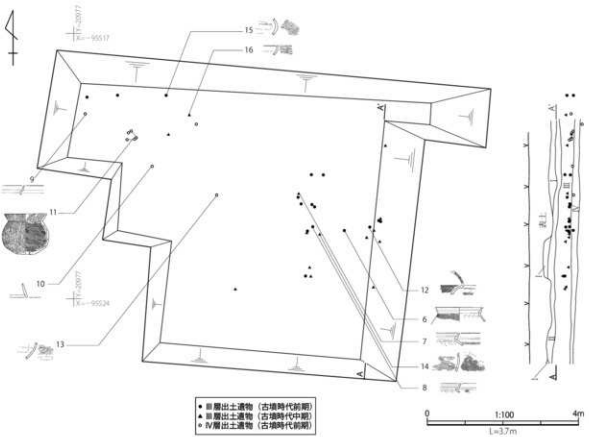
17 と 18 は同個体であると考えられる。17 は口縁部で、緩やかに内湾しながら立ち上がる。器面は磨滅しているため不明瞭だが、内外面共にナデの痕が確認できる。外面には黒斑が認められ、胎土はやや粗い。18 は胴部である。外面はナデ調整が施され、黒斑が認められる。内面は磨滅のため調整等は確認できなかった。胎土はやや粗い。



第 183 図 SD2002 平面図、セクション図



第 184 図　Ⅱ層　遺物出土状況



第 185 図　Ⅲ・Ⅳ層　遺物出土状況

19・20は古墳時代中期～後期の土師器の甕である。19は口縁部である。外反しながら立ち上がり、内外面にはナデ調整が認められる。20は底部で、形はやや内湾しながら立ち上がる。内面にナデ調整が認められた。

21・22は1次調査のトレンチにおいて出土した遺物である。

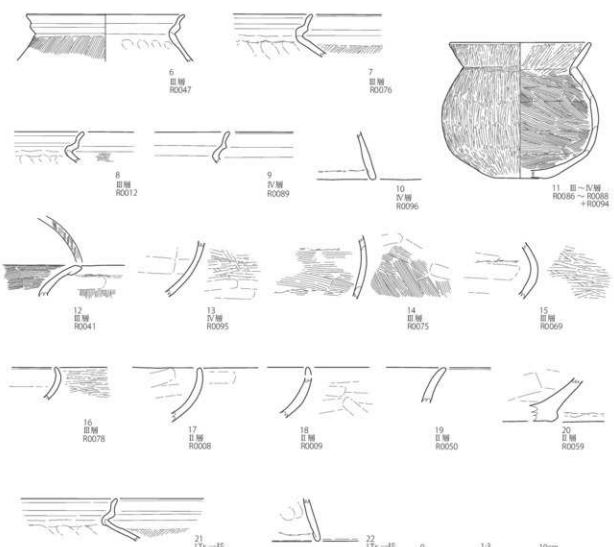
21は古墳時代前期のS字甕である。頸部の屈曲が強く、口縁部の立ち上がりはやや直線的で、端部がつまみだされている。体部外面にはナナメハケとヨコハケが認められる。内面には指頭圧痕を有す。22は古墳時代前期の台付甕台部である。端部が折り返されており、内面に指頭圧痕を有す。

23～28は出土層位不明の遺物である。

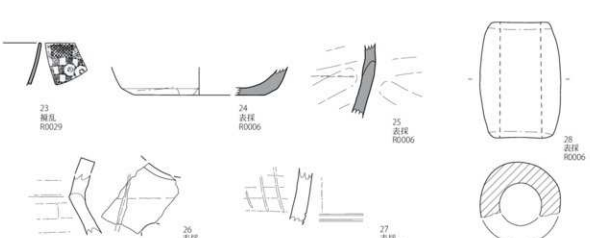
23～27は近世に相当する。23は磁器で、染付の碗の破片である。24・25は陶器である。24は蓋物で、外面に釉薬が施されており底部がやや薄い。25は甕で、外面は施釉され、内面にはナデ調整が認められる。

26・27は器種不明の土器である。26は、外面につまみ出したような縦位の隆帯が施され、内面はヨコヘラナデが確認できる。土器片の割れ口には孔のような部分も認められるが、明確ではない。27は、外面に二条の沈線が施され、内面にはヨコナデが施される。また、内面にはヨコナデの後に縦方向にヘラで磨いたような痕が確認できる。

28は近現代の陶製の土錘である。黒釉が施されており、孔の内側は良好な状態で釉が残存している。



第186図　出土遺物実測図1



第 187 図　出土遺物実測図 2

第 21 表　三新田遺跡 N 地区　出土遺物観察表

掲図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）長さ	幅	重量（g）
第 182 図 1	R0001	PL.11	ITr SB1001（SD2001）	刀装具	銅製縁金具	7C 末～ 8C 初頭	5.55	1.95	27.69

掲図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）口径	底径	器高	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 182 図 2	R0053	PL.11	SD2001	土師器	S 字甕	古墳前期	-	-	(4.4)	良好	-	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）
第 182 図 3	R0030	PL.11	SD2001	土師器	S 字甕	古墳前期	-	-	(4.3)	良好	-	橙（2.5YR6/6）	橙（2.5YR6/6）
第 182 図 4	R0017	PL.11	SD2001	土師器	壺	古墳前期	-	-	(3.2)	良好	-	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）
第 182 図 5	R0024	PL.11	SD2001	土師器	壺	古墳前期	-	-	(2.1)	良好	-	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）
第 186 図 6	R0047	PL.11	掘削	土師器	S 字甕	古墳前期	[12.4]	-	(3.7)	良好	20%	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）
第 186 図 7	R0076	PL.11	掘削	土師器	S 字甕	古墳前期	-	-	(3.4)	良好	-	にぶい黄橙（7.5YR6/4）	にぶい黄橙（7.5YR6/4）
第 186 図 8	R0012	PL.11	掘削	土師器	S 字甕	古墳前期	-	-	(2.5)	良好	-	にぶい橙（5YR6/4）	にぶい橙（5YR6/4）
第 186 図 9	R0089	PL.12	IV層	土師器	S 字甕	古墳前期	-	-	(2.5)	良好	-	橙（7.5YR6/6）	橙（7.5YR6/6）
第 186 図 10	R0096	PL.12	IV層	土師器	台部	古墳前期	-	-	(3.8)	良好	-	にぶい黄橙（10YR7/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）
第 186 図 11	R0086 R0087 R0088 R0094	PL.11	III層＋IV層	土師器	壺	古墳前期	[11.0]	4.1	10.8	良好	55%	にぶい赤褐（2.5YR5/4）	橙（5YR6/6）
第 186 図 12	R0041	PL.12	掘削	土師器	壺	古墳前期	-	-	(2.4)	良好	-	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）
第 186 図 13	R0095	PL.12	IV層	土師器	壺	古墳前期（住内）	-	-	(4.5)	良好	-	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）
第 186 図 14	R0075	PL.12	掘削	土師器	壺	古墳前期	-	-	(5.0)	良好	-	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/8）
第 186 図 15	R0069	PL.12	掘削	土師器	壺	古墳前期	-	-	(4.5)	良好	-	にぶい黄橙（10YR6/4）	橙（5YR7/6）
第 186 図 16	R0078	PL.12	掘削	土師器	坏	古墳中～後期	-	-	(2.8)	良好	-	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）
第 186 図 17	R0008	PL.12	II層	土師器	坏	古墳中～後期	-	-	(4.3)	良好	-	にぶい赤褐（5YR5/4）	にぶい赤褐（5YR5/4）
第 186 図 18	R0059	PL.12	II層	土師器	坏	古墳中～後期	-	-	(3.2)	良好	-	にぶい赤褐（5YR5/4）	にぶい赤褐（5YR5/4）
第 186 図 19	R0050	PL.12	II層	土師器	甕？	古墳中～後期？	-	-	(2.8)	良好	-	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/3）
第 186 図 20	R0059	PL.12	II層	土師器	甕	古墳中～後期	-	-	(3.5)	良好	-	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）
第 186 図 21	R0004	PL.12	ITr	土師器	S 字甕	古墳前期	-	-	(3.3)	良好	-	橙（5YR6/6）	橙（5YR6/6）
第 186 図 22	R0004	PL.12	ITr	土師器	台部	古墳前期	-	-	(3.4)	良好	-	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）
第 187 図 23	R0029	PL.12	掘込 1	磁器	碗	近世	-	-	(3.3)	良好	-	-	-
第 187 図 24	R0006	PL.12	表採	陶器	蓋物	近世	-	[10.4]	(2.2)	良好	10%	浅黄（2.5Y8/3）	黄橙（2.5Y5/4）
第 187 図 25	R0006	PL.12	表採	陶器	甕	近世	-	-	(5.9)	良好	-	にぶい橙（7.5YR6/3）	灰赤（2.5YR4/2）
第 187 図 26	R0007	PL.12	表採	不明	不明	近世	-	-	(4.8)	良好	-	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR5/3）
第 187 図 27	R0007	PL.12	表採	不明	不明	近世	-	-	(4.5)	良好	-	橙（7.5YR6/6）	褐灰（7.5YR4/1）

掲図番号	R 番号	写真図版	出土場所	種別	細別	時代	法量（cm）長さ	最大径	孔径	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 187 図 28	R0006	PL.12	表採	土製品	土錘	近現代	6.1	4.3	2.2	良好	50%	黒（10YR1.7/1）	黒（10YR2/1）

第5章　国指定史跡 浅間古墳における地中探査

第1節　地中探査結果について

1　業務概要

本報告書は、株式会社フジヤマが実施した「令和元年度　国指定史跡　浅間古墳地中探査業務委託」の調査結果をとりまとめたものである。

1.1　一般事項

(1) 委託名：令和元年度
国指定史跡浅間古墳地中探査業務委託

(2) 委託箇所：富士市増川地内

(3) 委託期間：着手　令和元年8月30日
完了　令和2年3月19日

(4) 調査目的：浅間古墳に埋設される棺等の概略位置を把握することを目的とした。

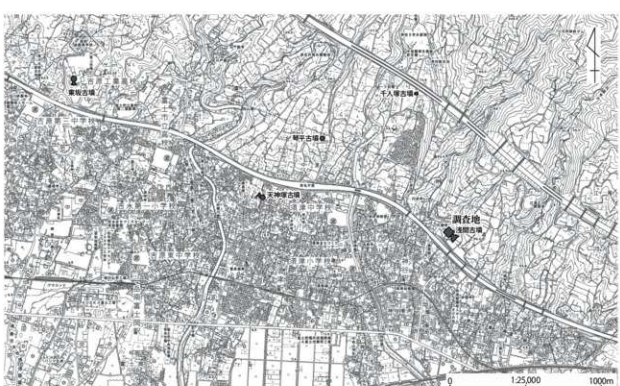
(5) 委託内容：業務工種を下記に示す。
詳細は"1.4　業務内容"に示す。

項　目	工　種	数　量
一般調査業務	現地調査	1式
	地中レーダ探査	1式
解析等調査業務	地中レーダ探査データ解析	1式
測量業務	作業計画	1業務
	現地踏査	1業務
	基準線の設定	76測線

(6) 基準点：委託者が指定した基点をもとに探査測線を決定した。
詳細は"1.3　調査位置平面図"に示す。

1.4　業務内容

地中レーダ探査の実施数量を第23表に示す。探査範囲（エリア）は第194図に示す。



第188図　調査地位置図

2　調査方法

2.1　測量業務

委託者が指定した測線を基に観測を行い、国家座標（X、Y）および標高値を取り付けた。

2.2　地中レーダ探査

地中レーダ探査法は高周波数の電磁波を地中に放射し、比誘電率の異なる媒質からの反射波を測定し、地表浅層の地質状況や埋設物（配管、空洞、基礎杭頂部、廃棄物）、陥没、漏水などを探査する方法である。そのシステムは、送受信アンテナと制御装置（データ集録装置）から構成される。

2.2.1　探査原理

送信アンテナから電磁波パルスを地中に向けて放射すると、地質境界、地下水面、地下空洞、埋設物など、物性の大きく異なる境界面で反射波が発生する。この原理を応用し反射波を受信アンテナで捉え、その波形記録を処理することで、地下構造や埋設物の位置を間接的に推定する。

2.2.2　探査概要

測定は一般的にはプロファイル測定で行う。プロファイル測定とは、送信アンテナと受信アンテナが一体（距離を一定に保った）となったアンテナを測線上に移動して行う測定法である（第 191 図参照）。

地中レーダ探査の記録は測定間隔毎の反射波形記録である。この波形記録を振幅の強弱に合わせてカラー変換し（第 192 図参照）、測線方向に並べることにより地中レーダ画像が得られる。この地中レーダ画像は、横軸が水平距離、縦軸は電磁波の反射時間（往復）の時間断面として表示される。

この地中レーダ画像について、下記に示す地中の電磁波速度と電磁波反射理論に基づくデータ処理を施すことにより、縦軸の時間断面を深度断面へと変換し、地中レーダ探査結果断面図を得ることができる。

2.2.3　地中の電磁波速度

地中の電磁波速度は地中媒質の電気的性質（導電率、誘電率、透磁率）によって定まる。この地中媒質の電気的性質は比誘電率 ε_r（第 22 表参照）が支配的となる。よって、地中の電磁波速度は式 -2.2.1 と示される。

$$V = \frac{C}{\sqrt{\varepsilon_r}} \quad \cdots\cdots \text{式 -2.2.1}$$

V：地中の電磁波速度（m/s）

C：光の速度（2.998　　10 8 m/s）

ε_r：比誘電率（真空の誘電率に対する地中媒質の誘電率の比）

比誘電率は、現場における既知の埋設物深度を用いて記録上で相当する深度になるように設定する。

2.2.4　電磁波の反射

地中の電磁波速度Vがわかると、送信電波が反射波として戻ってくる時間 T（反射時間）から反射体の深度を次式で推定できる。

$$d = \frac{VT}{2} \quad \cdots\cdots \text{式 -2.2.2}$$

d：反射体の（換算）深度（m）

T：反射体からの反射時間（s）

ただし、反射が発生するには 2 種類の異なる比誘電率を持った地中媒体が存在する必要がある（第 193 図参照）。反射波の大きさは、2 層の異なる媒質の比誘導率の比率によって決まり、反射係数（Γ）として式 -2.2.3 で表される。

$$\Gamma = \frac{\sqrt{\varepsilon_1} - \sqrt{\varepsilon_2}}{\sqrt{\varepsilon_1} + \sqrt{\varepsilon_2}} \quad (m/s) \quad \cdots\cdots \text{式 -2.2.3}$$

反射係数は、-1 ≦ Γ ≦ 1 の範囲を示し、下層が金属等の場合には最大値は”-1”を示し、反射体を最も顕著に検出することができる。

第 22 表　2.2.1　比誘電率

区分	空気	氷	コンクリート	アスファルト	土壌		砂岩片岩	水
					堆積物	水分飽和		
比誘電率	1	3.6	4 ～ 11	3 ～ 5	4 ～ 30	20 ～ 40	5 ～ 15	81

3 調査結果

3.1 探査概要

国史跡浅間古墳は、これまで発掘調査例は無く、墳丘の状態や埋葬施設も不明なままの状態であった。そこで、今後の調査及び史跡整備に向けた情報収集の一環として地中レーダ探査法による調査が行われることになった。

地中レーダによる探査法は、地上から非破壊で地中内部の様子を探ることができるという利点があり、発掘することが困難な浅間古墳のような国史跡等の古墳の内部構造（埋葬施設等）を探る有効な調査方法の一つである。

調査では、まず古墳墳頂部全面に幅 1.0m の測線を配置した（第 194 図参照）。調査エリアは後方部（社殿周辺）をエリア 1、前方部をエリア 2 とした。これらの測線は、委託者側が前方後方墳の主軸に合わせ設定した基線を元に設定した。測定間隔は原則 1.0m 間隔とし、異常反応が現れた場所では 0.5m 間隔、または直交する測線上で探査を行った。なお、障害物（大木等）が測線上にある場合は、適宜間隔を調整した。間隔を調整しても測定できない箇所（社殿等）では測定を取りやめた。測定は各測線上を、地中レーダ探査測定機器を走行させる方法により行った。

3.2 地中レーダ探査結果の解釈

地中レーダ探査の探査記録は深度換算、振幅調整等の処理を施し、地中レーダ探査結果断面図（第 201 ～ 215 図）とした。測定記録結果は、横軸に測定距離、縦軸に深度を表す。深度の換算は現地にて取得された画像データより、比誘電率を「20.1」として調整を行った。ただし、場所によっては地盤の構成物質や含水量等の物性に差異があり、地盤中を伝播する電磁波の速度に変化が生じるため、若干の誤差が生じている恐れがある。

地中レーダ探査結果の解釈を以下に示す。

・反射の弱い部分（断面図中は灰色にて表示）
・成層状の縞模様で示される部分
　均質な性状のもので構成されている地盤である。
・縞模様が不自然に途切れている箇所
　開削等の人工的な改変がなされている箇所と考えられる。
・縞模様が著しく乱れている箇所
　自然地盤である場合、礫層や玉石層、崖錐等が疑われる。人工地盤である場合、盛土や埋土の材料が不均質である場合に見られる。開削し、埋め戻した跡にも見受けられる。
・強反射部（濃い黒色及び白色にて表示される部分）
　電磁波の強反射箇所を示しており、周辺地盤と異なる物性の位置を指し示している。当調査地の場合、強反射で示される可能性のある物性は埋設管や地下構造物、コンクリートガラや礫等であると考えられる。埋設管は通常、上に凸型の放物線状を示す。
　この反応が複数の測線に渡って現れた場合、埋設管の位置を指し示す可能性が高いといえる。構造物は直線状の強い反射として現れる可能性が高い。

地中レーダ探査は、電磁波の比誘電率の異なる媒質からの反射波を利用した測定方法である。媒質の比誘電率の差が大きいと反射波が大きくなり検出が容易であり、差が小さいと反射は小さくなり、検出が困難となる。媒質の電気的な差からの反射波であるため、地中レーダ探査の結果のみではその反射が何に由来するものか推測することしかできない。

今回の探査によって得られた反射画像のうち代表的なものを選び、予想される地質状況を第 195 図にまとめた。

3.3 地中レーダ探査結果

各測線の測定データは、地中レーダ探査結果断面図（第 201 ～ 215 図）を作成して、第 195 図に示す解釈を施した。第 196 図と第 197 図は、深度 -1.5m 未満と深度 -1.5m 以深の異常反応場所を示す地中レーダ探査結果平面図である。深度 -1.5m 未満の異常反応は青色、深度 -1.5m 以深の異常反応は茶色（X 軸方向）・暗赤色（Y 軸方向）でそれぞれ示した。

なお、今回の探査では、深度の基準は地表面とし、段差や傾斜面等による高低差は考慮していない。

以下、それぞれの反応について結果を述べる。

古墳全体の反応

地中レーダ探査の結果、概ね深度 -2.0m 以下は反応が全体的に弱くなっている。土壌内に含まれる水分による電磁波の減衰、または、均質な土壌内で特に反射するものが無い地盤が続いている可能性が考えられる。深度 -2.0m 以浅では異常反応による地層の乱れが広範囲で認められる。これらは木の根や瓦礫、後世の改変等の要因によるものと考えられる。

深度 -1.5m 未満の反応

深度 -1.5m 未満の異常反応は、エリア 1 では 9 箇所、エリア 2 では 7 箇所、追加測線では 4 箇所認められた。

エリア 1 の社殿左側（南西側）墳頂部付近では 2 箇所でレーダに異常反応が見られた。これらは隣接しており、合わせると長さ 10m、幅 4m 程の広さがある。反応の深さは深度 -0.5 ～ -0.7m である。位置的には古墳主体部が想定される場所である。しかし、この場所は地表面に瓦の破片等が散乱しており、社殿造営時に掘削された土が 0.3 ～ 0.5m 程盛土された可能性がある。このことから、この反応は古墳主体部等ではなく、社殿改修時に発生した瓦礫や杉の木の根に反応している可能性が高い。エリア 1 の残り 7 箇所も、墳頂部の縁部にあり、異常を示す電磁波も弱く、既存の木の根や廃材、礫に反応している可能性が考えられる。

エリア 2 では 7 箇所で異常反応が認められた。中で注目されたのは、前方部のほぼ中央（第 196 図参照）3m　5m の範囲で確認された異常反応である。深度 -0.6m 付近に強い反応が直線状に確認されていて、石敷や石室等の埋設物が存在する可能性が高い。他の 6 箇所は、範囲も狭く、検出場所も墳頂部縁辺で、異常を示す電磁波も弱いことから、既存の木の根や礫に反応している可能性が高い。

後方部および前方部の周溝部に向けて延長した 2 本の測線上でも異常反応が認められた。当初の予測では周溝跡の埋土と基盤層の違いが異常反応として表れるのではないかと期待したが、確認された異常反応では、溝跡を示す窪地状の反応はみられず、木の根や瓦礫に反応している可能性が高い。

深度 -1.5m 以深の反応

深度 -1.5m 以深の異常反応は、エリア 1（後方部）の社殿南西部で集中して認められた（第 197 図参照）。概ね深度 -2.0 ～深度 -2.5m からの強い異常反応であった。今回のレーダ探査では、深度 -2.0m 以深では全体的に反応が弱くなることから、強い反応を示すこの場所に、古墳埋葬施設等の埋設物が存在した可能性は高いと考えられる。

第 198・199 図は、レーダが異常反応を示した場所を網掛けで表現した図である。異常反応を示した場所は、後方部のほぼ中央部で、古墳主軸線に直交していた。形状は隅丸長方形で、長辺約 9.5m、短辺約 6.8m の範囲である。なお、内部には異常反応を示さない箇所が、同じく隅丸長方形状に長辺約 7.4m、短辺約 2.2m の範囲で認められた。このことからこの場所に、幅 1 ～ 3m 程度の構造物に囲まれた埋設物、竪穴式石室あるいは粘土槨のような埋葬施設が存在した可能性が考えられる。

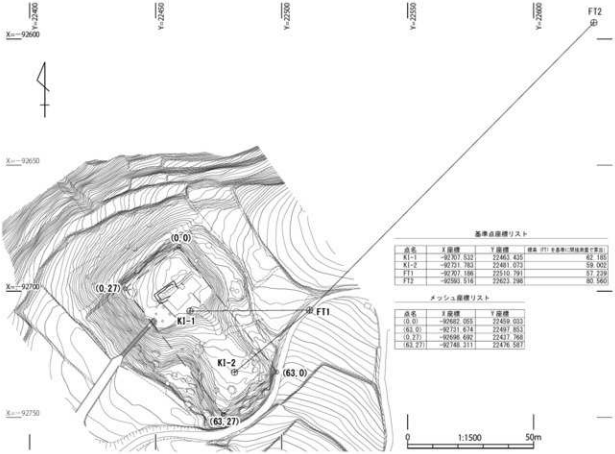
まとめ

今回の測定において、当調査地には複数の異常反応を示す箇所が認められた。第 200 図には古墳埋葬施設等の埋設物が存在する可能性が高い 2 地点を、復元墳丘図上に示した。

後方部の中央やや南西に、古墳主軸に直交するように確認された埋設物は、反応の深さが -2.0m ～ -2.5m と、これまでに確認されている前方後方墳の埋葬施設例と比べて深く、どのような構造の施設か検討が必要であるが、埋葬施設に関連する遺構である可能性が高く注目すべき場所である。

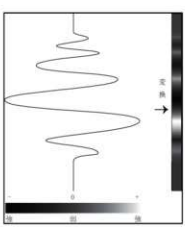
前方部のほぼ中央部でも地表下 -0.6m 付近から強いレーダ反応が直線状に確認された。反応が確認されたのは 3m　5m と狭いが、古墳施設に関連する遺構である可能性が高い。

最後に、今回の調査で異常反応が検出されなかった箇所も含めて、追加調査を実施することが、発掘調査が困難な浅間古墳の解明には有効と考えられる。

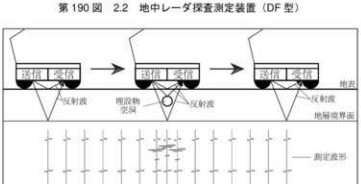


第 189 図　基準点網図

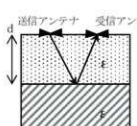
第 190 図　2.2　地中レーダ探査測定装置（DF 型）



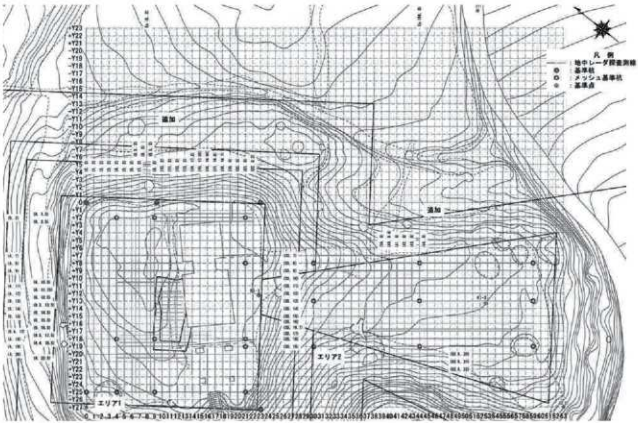
第 192 図　2.2.2　測定波形のカラー変換



第 191 図　2.2.1　地中レーダ探査模式図



第 193 図　2.2.3　地層境界面からの電磁波



第 194 図　1.3　調査位置平面図（S=1:500）

第 23 表　1.4.1　調査実施数量表

エリア	ID	方向 (XorY)	測線名	始点（m）		終点（m）		枝番	測線長 (m)
				X	Y	X	Y		
1	2	Y		0.00	2.00	0.00	24.76	1	22.76
1	3	Y		1.00	2.00	1.00	24.73	1	22.73
1	4	Y		2.00	2.00	2.00	24.95	1	22.95
1	5	Y		3.00	2.00	3.00	25.08	1	23.08
1	6	Y		4.00	2.00	4.00	24.72	1	22.72
1	7	Y		5.00	2.00	5.00	25.15	1	23.15
1	8	Y		6.00	2.00	6.00	25.05	1	23.05
1	9	Y		7.00	2.00	7.00	25.07	1	23.07
1	10	Y		6.50	2.00	6.50	25.07	1	23.07
1	11	Y		8.00	2.00	8.00	25.05	1	23.05
1	12	Y		8.50	2.00	8.50	25.08	1	23.08
1	13	Y		9.00	2.00	9.00	25.04	1	23.04
1	14	Y		10.00	2.00	10.00	25.22	1	23.22
1	15	Y		11.00	2.00	11.00	25.05	1	23.05
1	16	Y		12.00	2.00	12.00	25.00	1	23.00
1	17	Y		13.00	2.00	13.00	2.71	1	0.71
1	18	Y		13.00	8.70	13.00	9.25	2	0.55
1	19	Y		13.00	9.70	13.00	18.61	3	8.91
1	20	Y		13.00	19.70	13.00	25.06	4	5.36
1	21	Y	(21,0)	21.00	0.00	21.00	17.75	1	17.75
1	22	Y		21.00	21.00	21.00	27.11	2	6.11
1	23	Y	(20,0)	20.00	0.00	20.00	17.53	1	17.53
1	24	Y		20.00	21.00	20.00	27.18	2	6.18
1	25	Y	(19,0)	19.00	0.00	19.00	12.46	1	12.46
1	26	Y		19.00	16.70	19.00	18.18	2	1.48
1	27	Y		19.00	20.40	19.00	25.45	3	5.05
1	28	X	(4,7)	4.00	7.00	12.40	7.00	1	8.40
1	29	X	(4,8)	4.00	8.00	12.42	8.00	1	8.42
1	30	X	(4,9)	4.00	9.00	13.69	9.00	1	9.69
1	31	X	(4,10.5)	4.00	10.50	12.34	10.50	1	8.34
1	32	X	(4,11)	4.00	11.00	12.36	11.00	1	8.36
1	33	X	(4,12)	4.00	12.00	12.47	12.00	1	8.47
1	34	X	(9,2)	9.00	2.00	22.03	2.00	1	13.03
1	35	X	(9,1.5)	9.00	1.50	22.06	1.50	1	13.06
1	36	X	(9,2.5)	9.00	2.50	22.16	2.50	1	13.16
1	37	Y	(22,0.2)	22.00	0.20	22.00	17.77	1	17.57

エリア	ID	方向 (XorY)	測線名	始点（m）		終点（m）		枝番	測線長 (m)
				X	Y	X	Y		
1	38	Y	(18,16.7)	18.00	16.70	18.00	18.06	1	1.36
1	39	Y		18.00	19.00	18.00	24.35	2	5.35
1	40	Y	(17,16.8)	17.00	16.80	17.00	18.16	1	1.36
1	41	Y		17.00	19.20	17.00	24.56	2	5.36
1	42	Y	(16,16.95)	16.00	16.95	16.00	18.33	1	1.38
1	43	Y		16.00	19.30	16.00	24.52	2	5.22
1	44	Y	(15,17.05)	15.00	17.05	15.00	18.46	1	1.41
1	45	Y		15.00	20.55	15.00	25.27	2	4.72
1	46	Y	(14,17.2)	14.00	17.20	14.00	18.50	1	1.30
1	47	Y		14.00	19.50	14.00	22.67	2	3.17
1	48	Y		14.00	24.30	14.00	25.23	3	0.93
1	88	X	(9,13)	9.00	13.00	12.74	13.00	1	3.74
1	89	X	(9,12.5)	9.00	12.50	12.67	12.50	1	3.67
1	91	X	(9,11.75)	9.00	11.75	12.48	11.75	1	3.48
1	93	X	(9.3,13.5)	9.30	13.50	12.54	13.50	1	3.24
1	94	X	(9,14)	9.00	14.00	12.77	14.00	1	3.77
1	95	X	(9,14.5)	9.00	14.50	12.75	14.50	1	3.75
1	96	X	(9,15)	9.00	15.00	12.83	15.00	1	3.83
1	97	X	(9,15.5)	9.00	15.50	12.84	15.50	1	3.84
1	98	X	(9,16.5)	9.00	16.50	13.13	16.50	1	4.13
1	78	X	(4,18)	4.00	18.00	21.31	18.00	1	17.31
1	79	X	(4.5,17.5)	4.50	17.50	16.49	17.50	1	11.99
1	80	X	(9.4,17)	9.40	17.00	16.33	17.00	1	6.93
1	81	X	(4.4,18.5)	4.40	18.50	14.54	18.50	1	10.14
1	82	X	(4,19)	4.00	19.00	11.71	19.00	1	7.71
1	86	X	(4,20)	4.00	20.00	13.98	20.00	1	9.98
1	87	X	(4,20.5)	4.00	20.50	13.39	20.50	1	9.39
								50	674.07

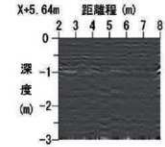
エリア	ID	方向 (XorY)	測線名	始点（m）		終点（m）		枝番	測線長 (m)
				X	Y	X	Y		
2	49	X	(30,7)	30.00	7.00	58.52	7.00	1	28.52
2	50	X	(30,8)	30.00	8.00	58.54	8.00	1	28.54
2	51	X	(30,9)	30.00	9.00	58.70	9.00	1	28.70
2	52	X	(30,10)	30.00	10.00	58.56	10.00	1	28.56
2	53	X	(30,11)	30.00	11.00	58.80	11.00	1	28.80
2	54	X	(30,12)	30.00	12.00	58.89	12.00	1	28.89
2	55	X	(30,13)	30.00	13.00	58.98	13.00	1	28.98
2	56	X	(30,14)	30.00	14.00	58.89	14.00	1	28.89
2	57	X	(30,15)	30.00	15.00	58.89	15.00	1	28.89
2	58	X	(30,16)	30.00	16.00	34.67	16.00	1	4.67
2	59	X		37.00	16.00	58.93	16.00	1	21.93
2	60	X	(30,16.7)	30.00	16.70	34.22	16.70	1	4.22
2	61	X		37.40	16.70	58.74	16.70	2	21.34
2	62	X	(30,17)	30.00	17.00	35.37	17.00	1	5.37
2	63	X		37.00	17.00	58.49	17.00	2	21.49
2	64	X	(30,18)	30.00	18.00	58.38	18.00	1	28.38
2	65	X	(30,19)	30.00	19.00	58.57	19.00	1	28.57
2	66	X	(52.5,20)	52.50	20.00	59.25	20.00	1	6.75
2	67	X	(52.5,21)	52.50	21.00	59.42	21.00	1	6.92
2	68	X	(52.5,22)	52.50	22.00	59.10	22.00	1	6.60
2	69	Y	(44,8)	44.00	8.00	44.00	13.12	1	5.12
2	70	Y	(43,8)	43.00	8.00	43.00	13.03	1	5.03
2	71	Y	(42,8)	42.00	8.00	42.00	13.54	1	5.54
2	72	Y	(41,8)	41.00	8.00	41.00	14.30	1	6.30
2	73	Y	(40.8,4)	40.00	8.40	40.00	13.47	1	5.07
2	74	Y	(39,8)	39.00	8.00	39.00	13.41	1	5.41
								24	447.48

エリア	ID	方向 (XorY)	測線名	始点（m）		終点（m）		枝番	測線長 (m)
				X	Y	X	Y		
追加	75	Y	Ex.（44,8）	44.00	8.00	44.00	-22.2	1	30.21
追加	76	Y	Ex.（8,2）	8.00	2.00	8.00	-22.0	1	24.04
								2	54.25

総測線
76

合計距離
1175.80m

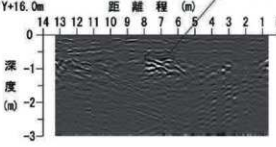
通常地盤



・目立った形状を示す反応は認められない。
・反射するものがあまり無い、均質な地盤であると予想される。

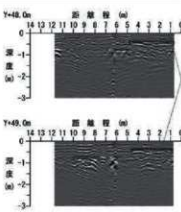
ガラ等

・基本的には不規則な形状の強い反射が現われる。



・建築廃材（ガラ）等の不規則な形状の物が多く埋められていると予想できる。
・水平構造が途切れてこのような反応が現れる場合は、掘削をしてガラ等を埋め戻している可能性がある。また、既存の埋設構造物を崩した跡である可能性も考えられる。

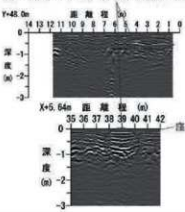
埋設管



・このような反応が複数の測線に渡り現れる場合、埋設管と判断できる。
・一つの測線のみに現れる場合、多くは礫やガラ等であると考えられる。

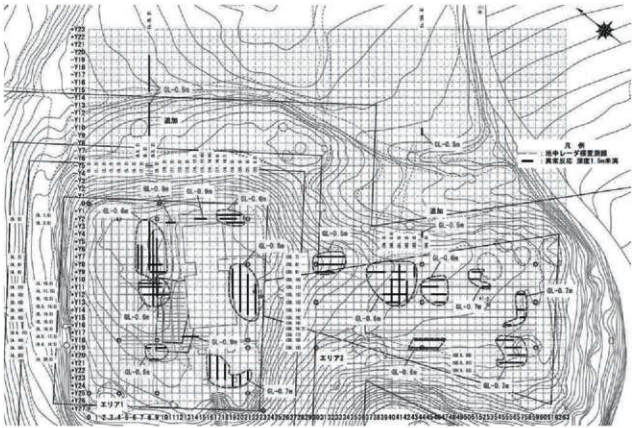
構造物の可能性

・強い反応のうち、形状が直線状を呈する反応。

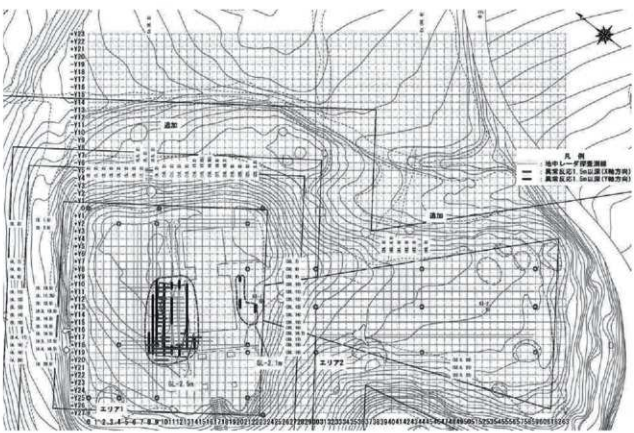


・強い反応として現れるのは周辺地盤と比較して電気的な差が大きい箇所である。考えうるのは異物の混入である。異物とは人工構造物や建築廃材等の他、空洞や隙間が多い箇所も含む。
・反応の形状は概ね対象物の上側形状を示す。
・直線状になるのは人工的な作用である可能性が高い。
・これらの反応が現れた箇所の地表面の様子や平面的な分布、事前情報等を考慮して推測を行う。

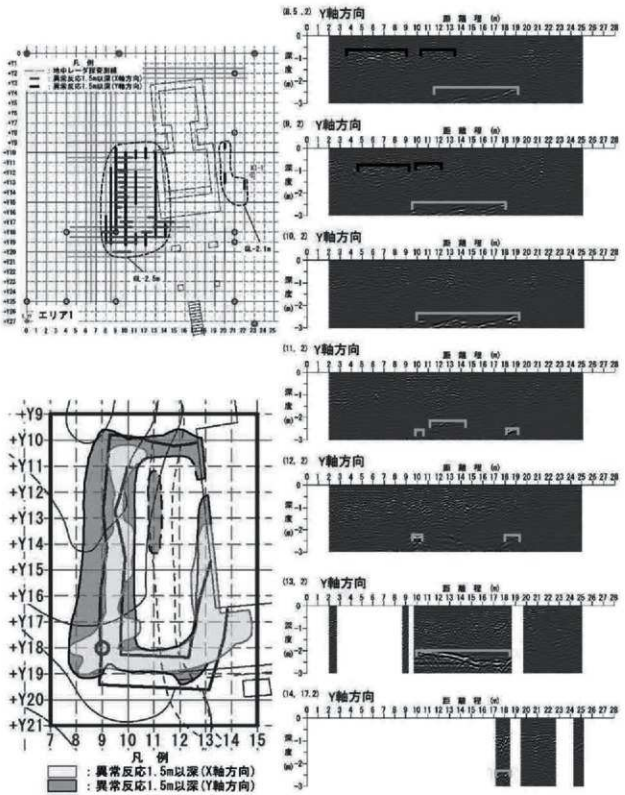
第 195 図　3.2.2　結果断面解釈基準



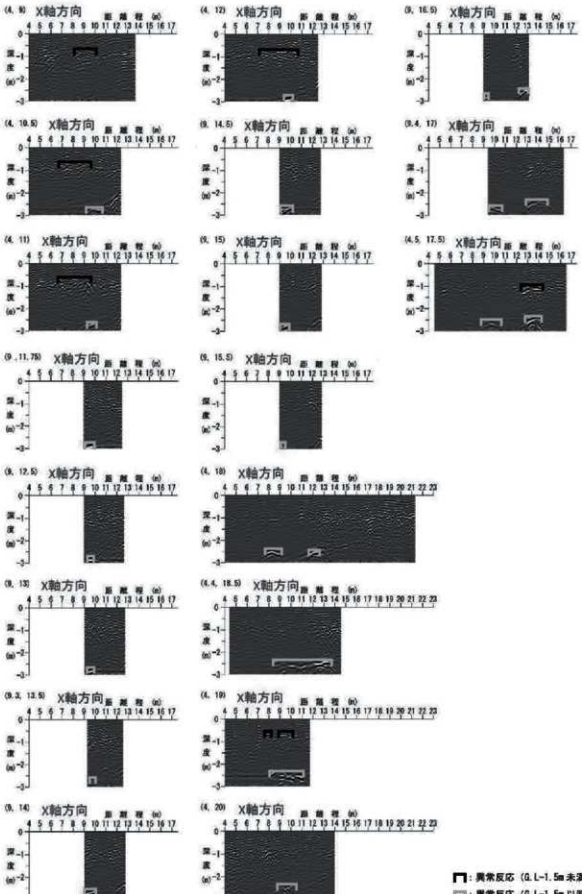
第 196 図　3.3.1　地中レーダ結果平面図（深度 -1.5 m未満）（S=1:500）



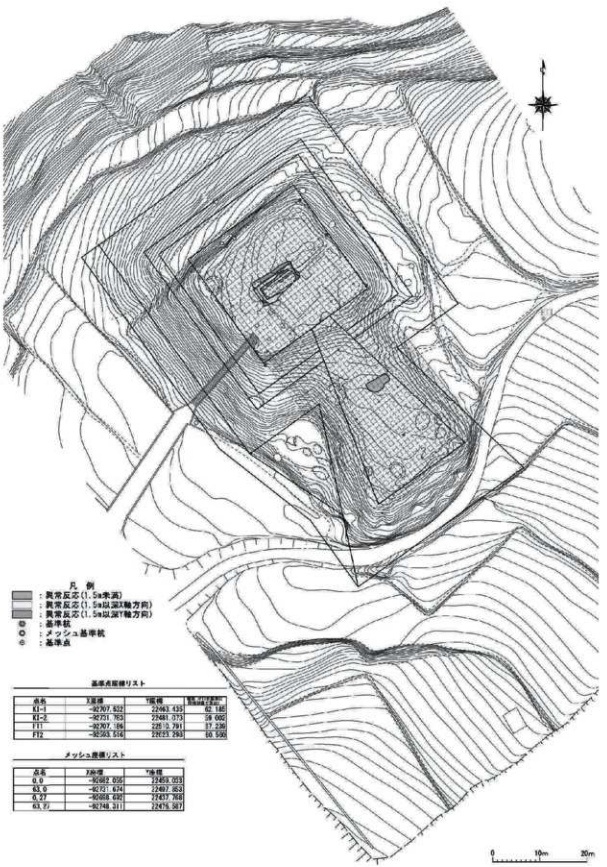
第 197 図　3.3.2　地中レーダ結果平面図（深度 -1.5 m以深）（S=1:500）



第198図　3.3.3　異常反応地点（平面図、Y軸断面図）



第 199 図　3.3.3　異常反応地点（X 軸断面図）



第 200 図　3.3.4　古墳埋葬施設等想定位置図（S=1：800）

第 24 表　異常反応一覧表

1）エリア 1　（深度 -1.5m 未満）

測線名	反応範囲（m）			深度（m）
Y 方向				
(6.5, 2)	5.48	～	8.55	0.59
(7, 2)	5.55	～	9.20	0.52
(8, 2)	2.38	～	8.72	0.63
(8.5, 2)	3.53	～	9.01	0.62
	10.35	～	13.41	0.62
(9, 2)	4.59	～	9.28	0.74
	9.88	～	12.22	0.67
(16, 19.5)	20.04	～	23.02	0.56
(17, 16.8)	20.10	～	23.08	0.80
(18, 16.7)	21.13	～	23.20	0.63
(19, 0)	8.65	～	12.45	0.65
	22.71	～	24.09	0.71
(20, 0)	8.13	～	14.20	0.71
	22.56	～	23.82	0.67
(21, 0)	9.37	～	14.55	0.63
	22.18	～	23.26	0.59
(22, 0.2)	10.67	～	14.46	0.59
X 方向				
(9, 1.5)	16.98	～	20.06	0.53
(9, 2)	14.01	～	15.54	0.77
	17.35	～	19.48	0.61
(9, 2.5)	10.26	～	11.40	0.88
	18.25	～	20.26	0.71
(4, 8)	7.88	～	9.70	0.70
(4, 9)	8.15	～	10.10	0.66
(4, 10.5)	6.71	～	9.61	0.63
(4, 11)	6.66	～	9.62	0.59
(4, 12)	7.13	～	10.64	0.67
(4, 17.5)	12.37	～	14.40	0.92
(4, 19)	7.61	～	8.17	0.56
	8.88	～	10.21	0.55
(4, 20.5)	8.12	～	9.23	0.58

2）エリア 1　（深度 -1.5m 以深）

測線名	反応範囲（m）			深度（m）
Y 方向				
(8, 2)	16.42	～	19.10	2.35
(8.5, 2)	11.54	～	19.18	2.29
(9, 2)	9.54	～	18.06	2.40
(10, 2)	9.97	～	19.31	2.37
(11, 2)	9.83	～	10.56	2.52
	11.19	～	14.43	2.15
	18.16	～	19.19	2.46
(12, 2)	9.55	～	10.54	2.21
	17.99	～	19.36	2.24
(13, 2)	9.99	～	18.53	1.97
(14, 2)	17.22	～	18.47	2.33
(20, 0)	9.09	～	9.57	1.90
	12.08	～	13.08	2.20
(22, 0)	12.82	～	13.64	2.21
X 方向				
(4, 10.5)	9.21	～	10.66	2.38
(4, 11)	9.28	～	10.13	2.58
(9, 11.75)	9.09	～	9.97	2.27
(4, 12)	9.35	～	10.18	2.70
(9, 12.5)	9.30	～	9.84	2.67
(9, 13)	9.32	～	9.86	2.64
(9.3, 13.5)	9.51	～	10.05	2.58
(9, 14)	9.03	～	10.08	2.46
(9, 14.5)	9.07	～	10.20	2.58
(9, 15)	9.02	～	9.89	2.67
(9, 15.5)	9.15	～	9.53	2.71
(9, 16.5)	9.05	～	9.44	2.65
	12.25	～	13.11	2.44
(9.4, 17)	9.49	～	10.66	2.43
	12.88	～	14.87	2.69
(4.5, 17.5)	8.75	～	10.62	2.48
	12.78	～	14.30	2.32
(4, 18)	7.63	～	9.14	2.38
	11.62	～	12.61	2.43
(4.5, 18.5)	8.40	～	13.75	2.35
(4, 19)	8.03	～	11.13	2.33
(4, 20)	8.78	～	10.48	2.67

3）エリア 2　（深度 -1.5m 未満）

測線名	反応範囲（m）			深度（m）
Y 方向				
(40, 8.4)	9.99	～	13.05	0.76
(41, 8)	8.06	～	13.25	0.69
(42, 8)	10.19	～	13.05	0.60
(43, 8)	8.30	～	9.59	0.61
X 方向				
(30, 7)	30.16	～	33.74	0.63
(30, 8)	30.21	～	33.77	0.48
(30, 9)	30.03	～	32.30	0.43
	36.74	～	39.16	0.26
	39.99	～	41.85	0.63
	50.64	～	51.88	0.89
(30, 10)	39.81	～	41.67	0.78
	44.98	～	46.96	0.78
	50.36	～	51.47	0.57
(30, 11)	43.99	～	46.11	0.53
	51.93	～	52.95	0.72
(30, 12)	38.84	～	41.95	0.51
	45.24	～	47.16	0.65
	56.53	～	57.55	0.71
(30, 13)	39.35	～	40.79	0.56
	45.72	～	46.97	0.67
(30, 14)	56.59	～	57.47	0.70
(30, 15)	56.97	～	57.61	0.73
(30, 16)	54.99	～	55.68	0.68
(30, 18)	43.03	～	46.96	0.70
	53.86	～	56.03	0.79
(30, 19)	42.30	～	46.27	0.53
	54.87	～	57.15	0.60
(30, 20)	55.32	～	57.69	0.79
(30, 21)	54.18	～	57.35	0.73

4）エリア 2　（深度 -1.5m 以深）

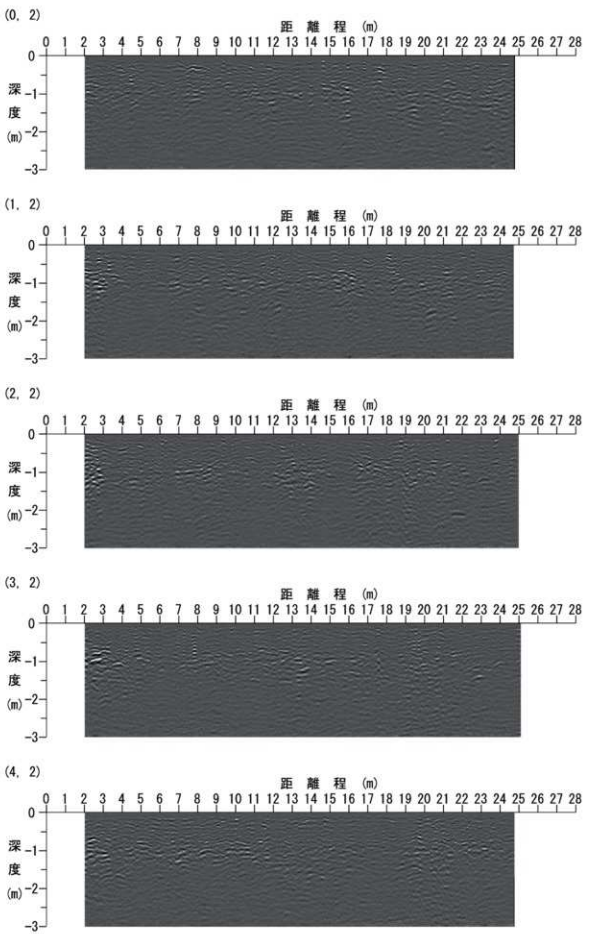
該当なし

5）追加測線　（深度 -1.5m 未満）

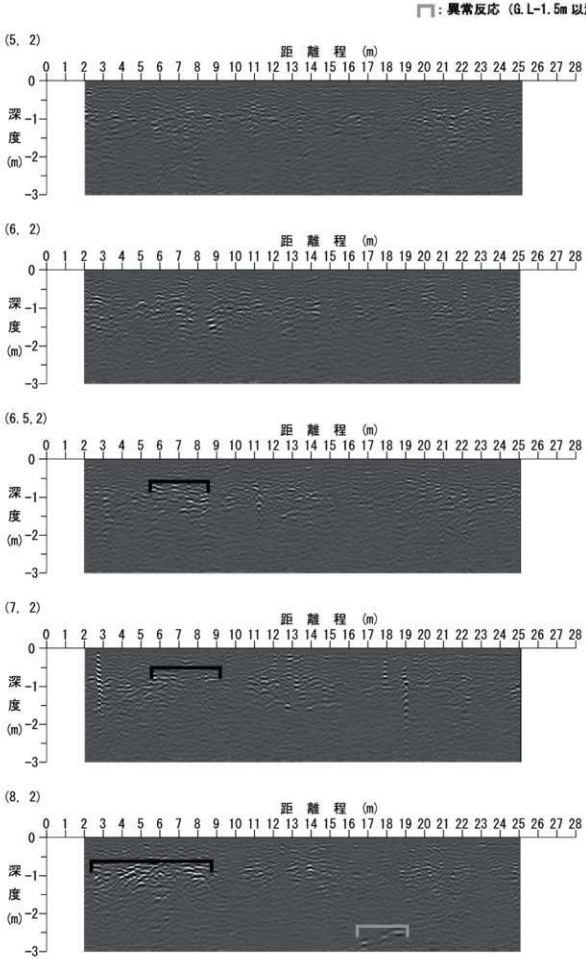
測線名	反応範囲（m）			深度（m）
Ex.（8, 2）	-19.56	～	-14.84	0.52
	-13.27	～	-9.01	0.48
Ex.（44, 8）	-9.94	～	-9.05	0.56
	3.74	～	4.41	0.51

6）追加測線　（深度 -1.5m 以深）

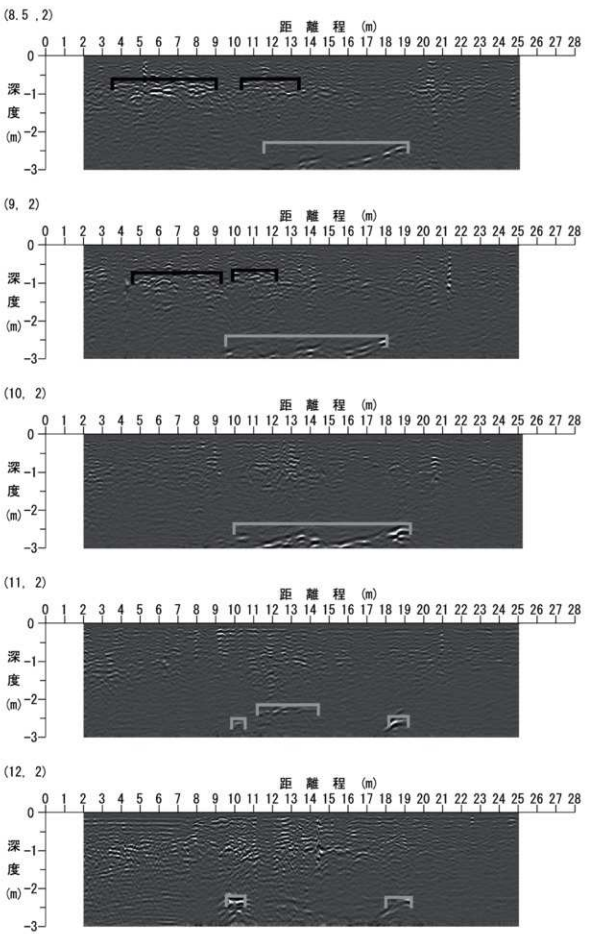
該当なし



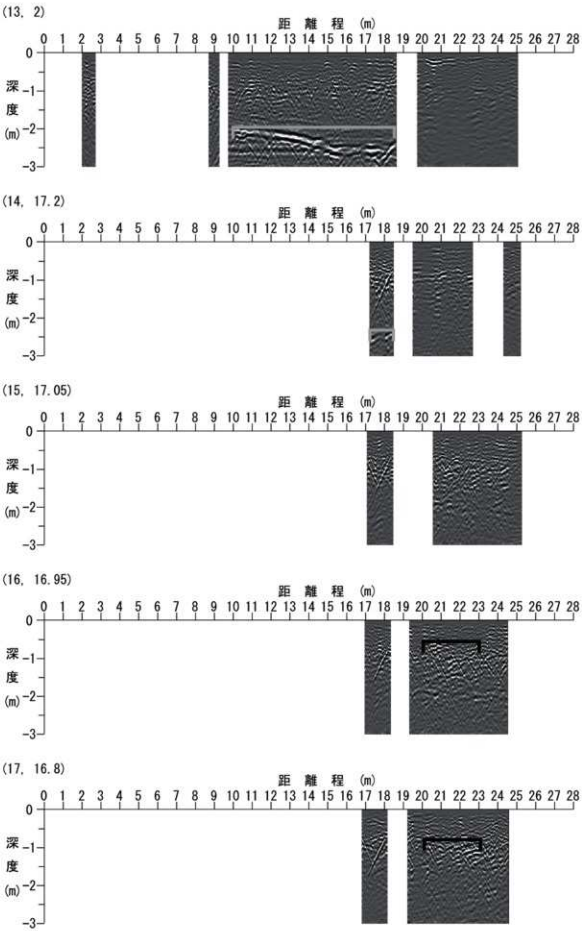
第201図　地中レーダ探査結果断面図　1



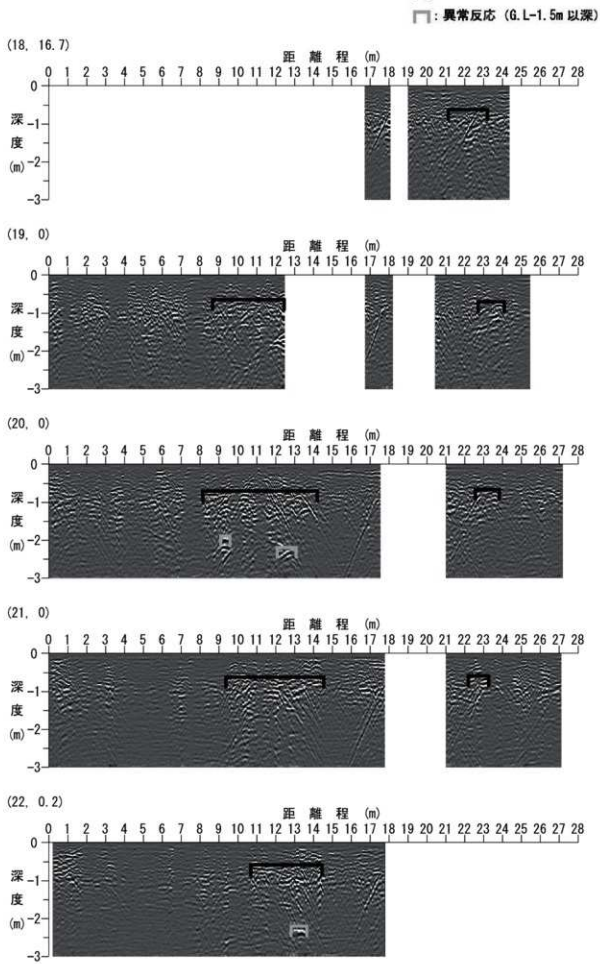
第202図　地中レーダ探査結果断面図　2



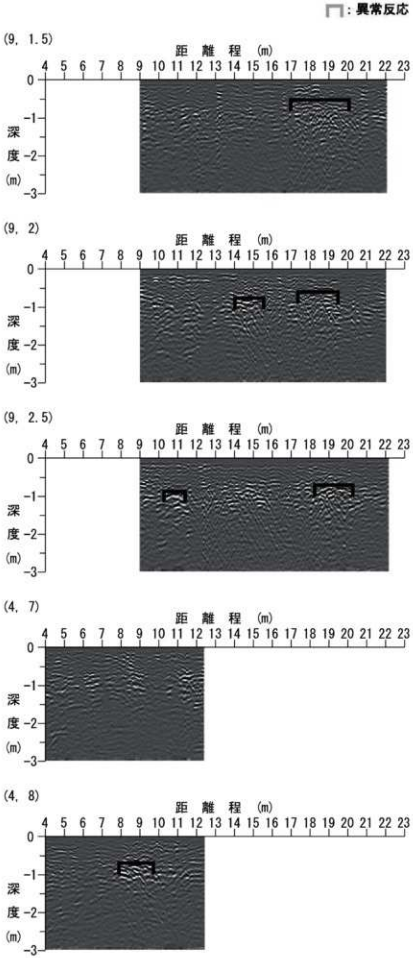
第 203 図　地中レーダ探査結果断面図　3



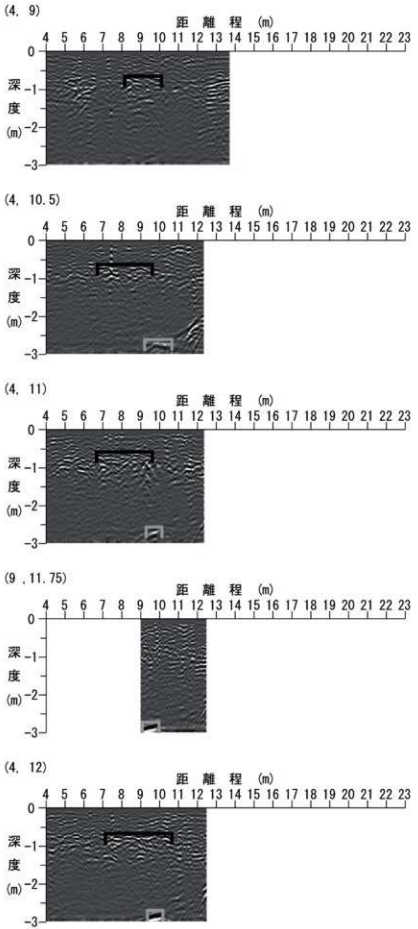
第 204 図　地中レーダ探査結果断面図　4



第205図　地中レーダ探査結果断面図　5

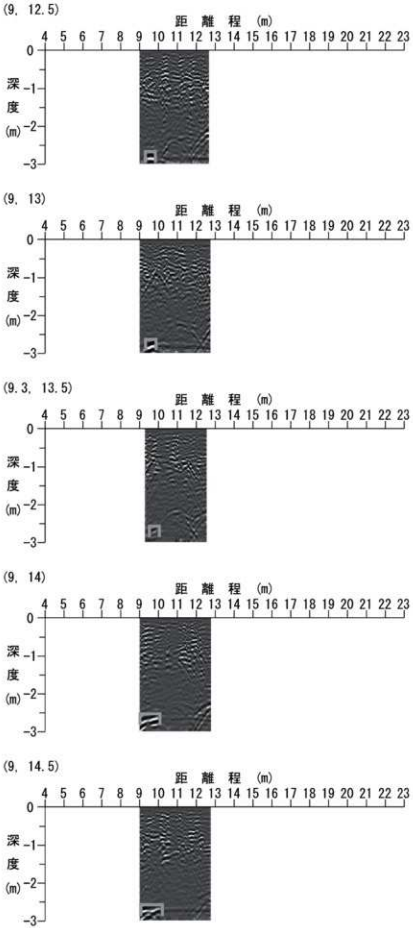


第206図　地中レーダ探査結果断面図　6

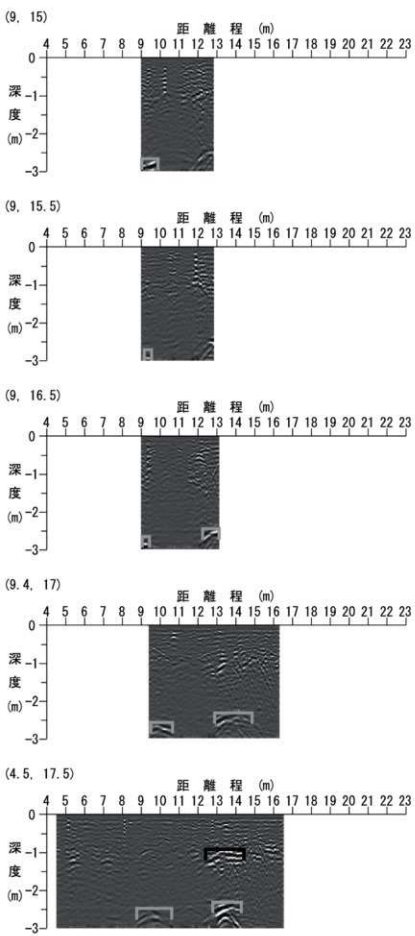


第 207 図　地中レーダ探査結果断面図　7

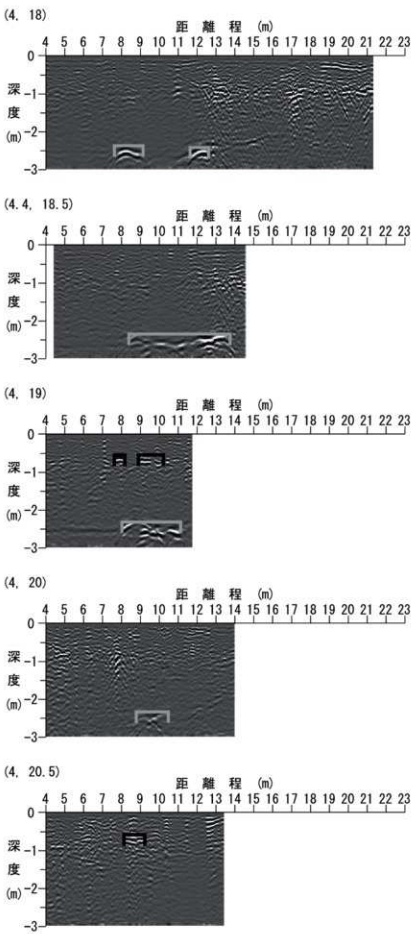
■：異常反応（G.L-1.5m未満）
■：異常反応（G.L-1.5m以深）



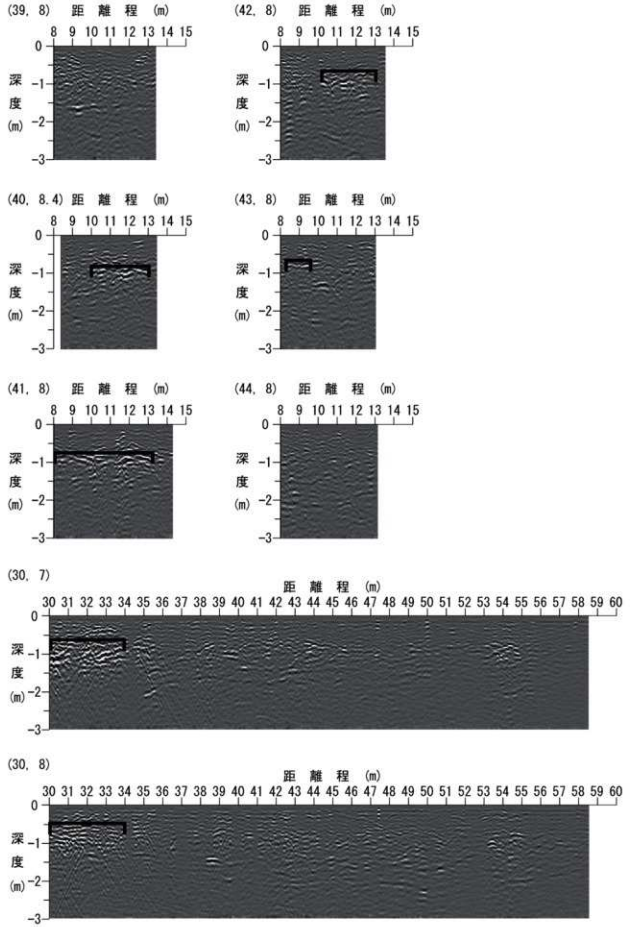
第208図　地中レーダ探査結果断面図　8



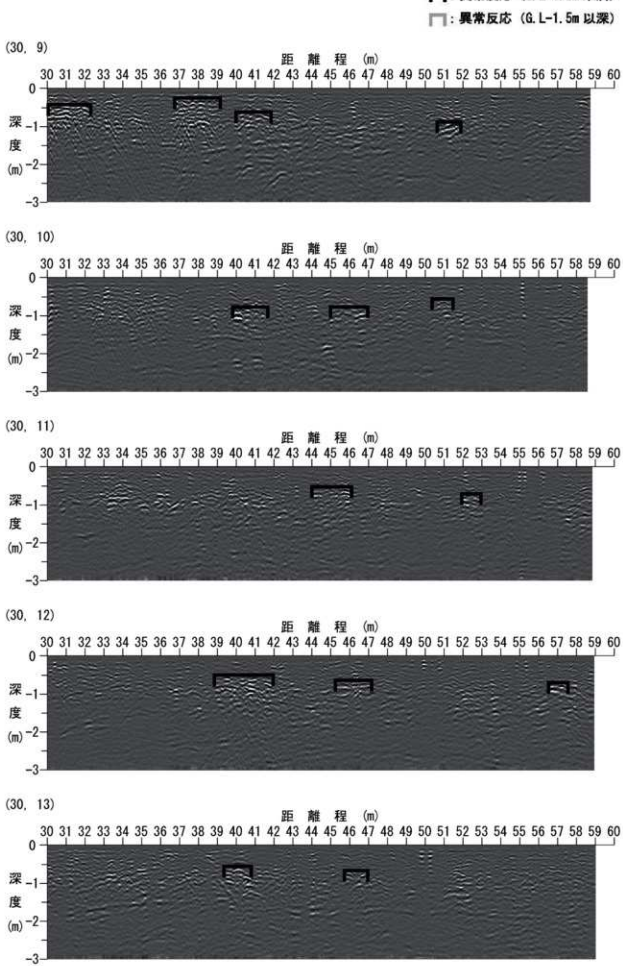
第 209 図　地中レーダ探査結果断面図　9



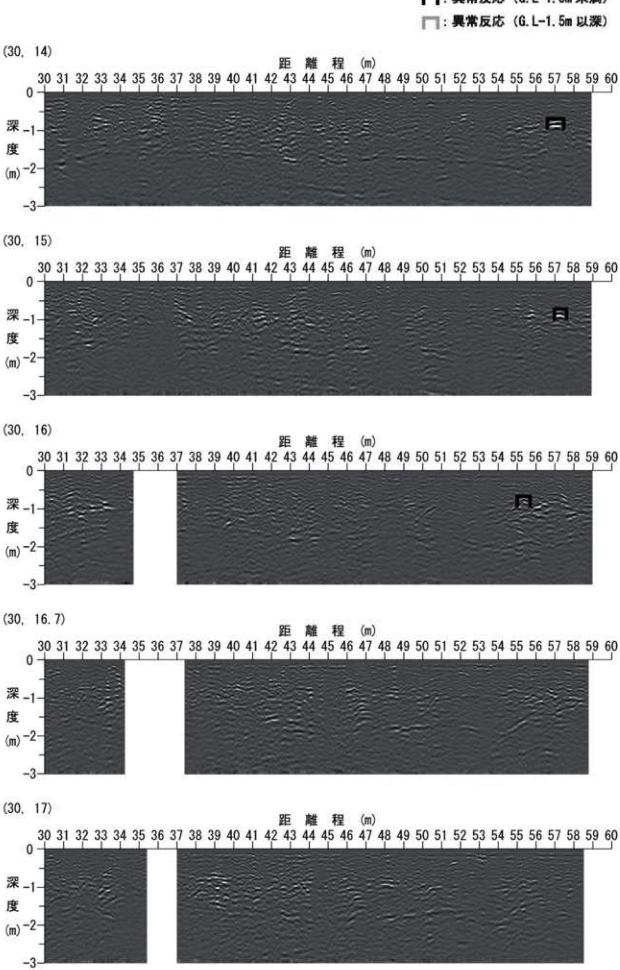
第210図　地中レーダ探査結果断面図　10



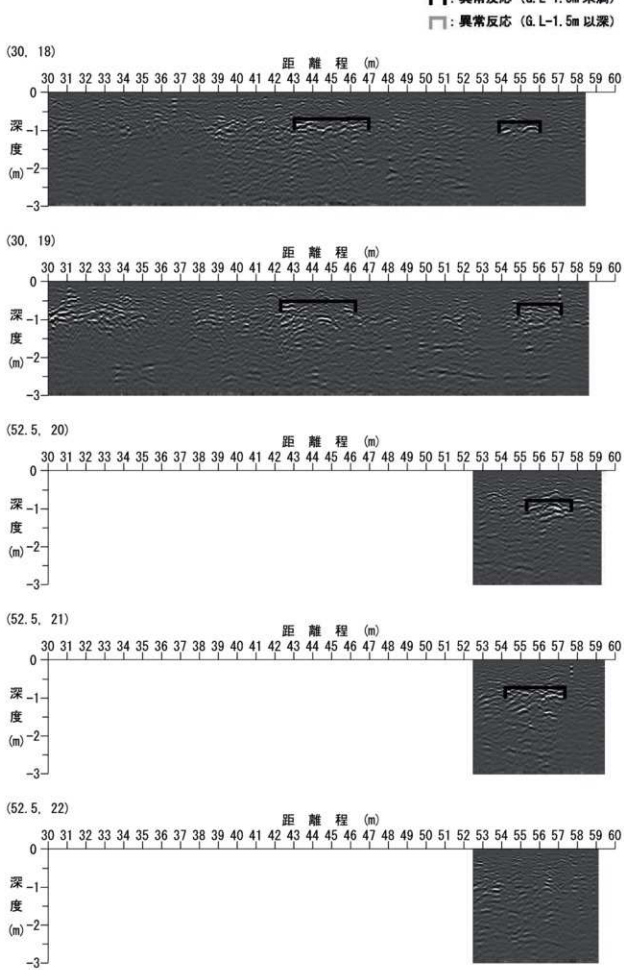
第 211 図　地中レーダ探査結果断面図　11



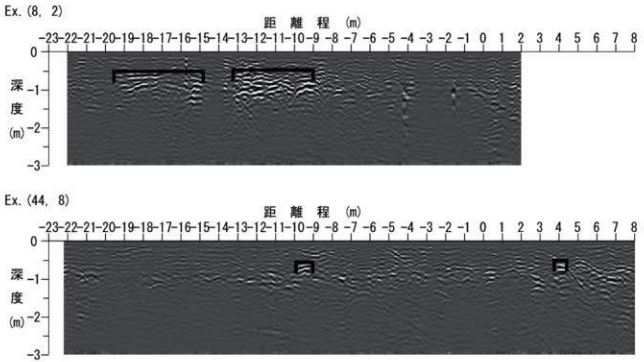
第212図　地中レーダ探査結果断面図　12



第 213 図　地中レーダ探査結果断面図　13



第214図　地中レーダ探査結果断面図　14



第215図　地中レーダ探査結果断面図　15

第2節　地中レーダー探査から想定される浅間古墳の埋葬施設

はじめに

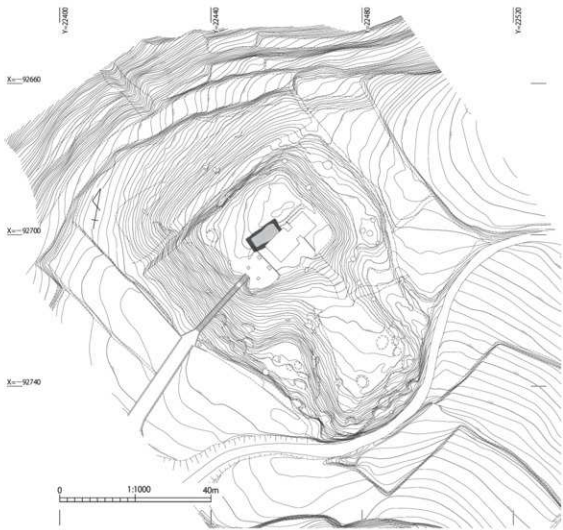
静岡県富士市増川に所在する国指定史跡浅間古墳は、全長 90.8m に復元される東海地方最大級の規模を有する前方後方墳である（佐藤 2018・2019）。これまで、静岡大学による墳丘測量調査が行われたのみで（静岡大学人文学部考古学研究室 1998）、本格的な発掘調査が行われたことがなく、築造時期や墳丘規模、埋葬施設は明らかとなっていない。

そのため、富士市教育委員会では、令和元年度、埋葬施設の有無や位置、形状を把握することを目的に、浅間古墳における地中レーダー探査を実施した。解析結果については前節に譲り、本節では、解析結果からどのような埋葬施設を想定することができるのかについて、まとめておくこととしたい。

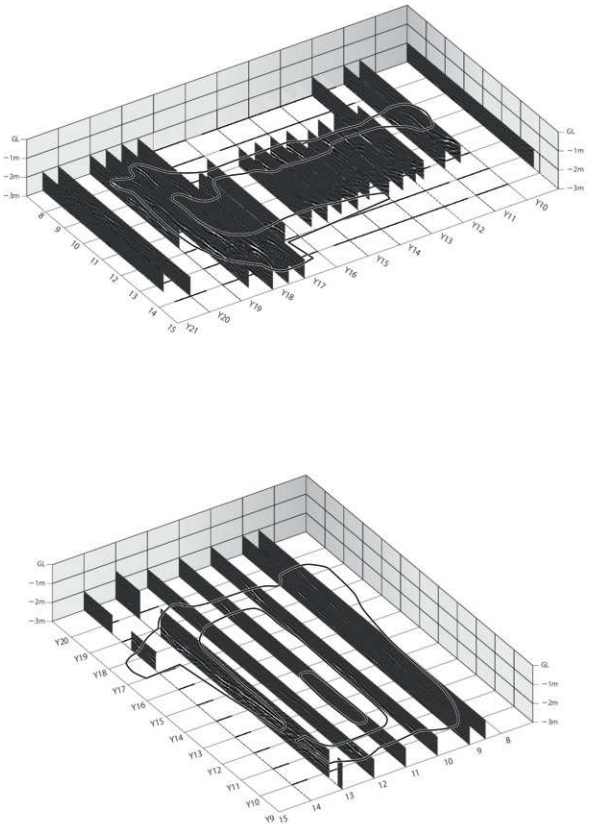
1　地中レーダー探査結果

地中レーダー探査の解析結果からは後方部頂平坦面において、古墳の主軸直交方向において、地表から 2.0 から 2.5m の深さで、長辺約 9.5m、短辺約 6.8m の範囲に隅丸方形状の異常反応が確認された。また、異常反応範囲の内側部分においては全く反応を示さない範囲が長辺約 7.4m、短辺 2.2m の範囲で認められた。また、前方部のほぼ中央においても、地表下 0.6m 付近で、5m　3m の範囲に強い以上反応を示す部分が存在することから、なんらかの遺構の存在が指摘されている。

以上のことから、後方部主軸直交方向において、幅 1 ～ 2m 前後の天井部分が石材などではない（もしくは存在しない）、石材などを含む構造物に囲ま



第 216 図　埋葬施設の推定位置図



第 217 図　地中レーダ探査結果断面合成図

れた竪穴系の埋葬施設（想定される石室内法 長辺約 7.4m、短辺 2.2m）が存在することが想定されよう[注1]。しかし、今回の地中レーダー探査の機器は地表下 3m 以上の深さの探査データを得ることができておらず、構造物の高さなどは完全には判明しておらず、現状では 0.5m から 1m 程度の高さの異常反応が確認されているに過ぎない。

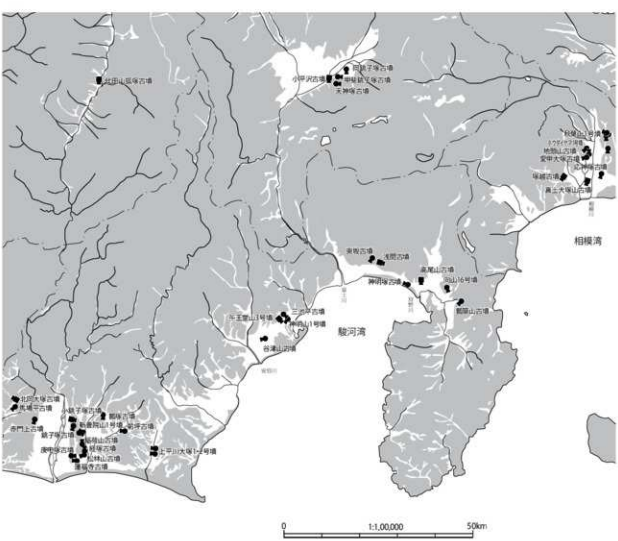
2　静岡県内における前期古墳の埋葬施設

地中レーダー探査の結果から浅間古墳にどのような埋葬施設が想定できるのか、県内の前期古墳の埋葬施設についてみていくこととしたい。

県内の古墳の埋葬施設について体系的にまとめたものとして、静岡県内前方後円墳発掘調査事業の報告において中嶋郁夫のまとめたものがある（中嶋 2001）。中嶋による竪穴系埋葬施設の分類を参考に「竪穴式石室」と「粘土槨・粘土床」、「木棺直葬」の 3 つに大別して整理すると以下のようになろう。

竪穴式石室　竪穴式石室については、石で壁体を構築しその後、天井石を設置するタイプと設置しないタイプに細別できる。天井石を設置する古墳として磐田市松林山古墳（後藤 1939 ほか）や静岡市三池平古墳（庵原村教委 1961 ほか）があげられ、明治時代の盗掘記録から竪穴式石室と想定されている静岡市谷津山古墳もそのタイプの可能性が指摘されている（柏原 1886・大塚 1990・伊藤 2001）。また、近年、発見された三島市向山 16 号墳（三島市教委 2015）もこのタイプに分類することができよう[注2]。

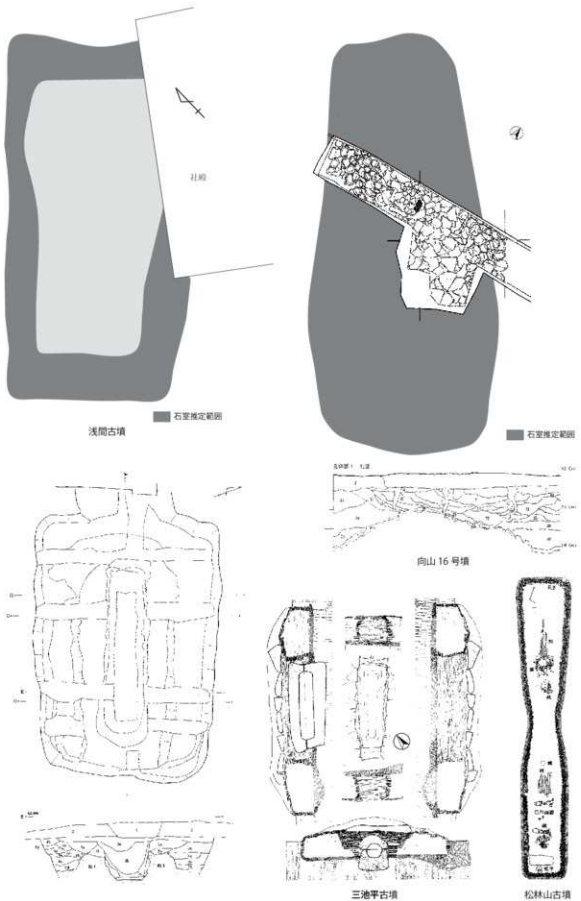
一方、天井石が設置されない古墳として磐田市新豊院山 D2 号墳（磐田市教委 2006）が挙げられる。新豊院山 D2 号墳については、粘土と礫を混ぜた特殊な石室構築方法を採用している。以下、報告書の



第 218 図　駿河および周辺地域における前期古墳位置図

第25表　駿河・遠江において埋葬施設の明らかな前期古墳

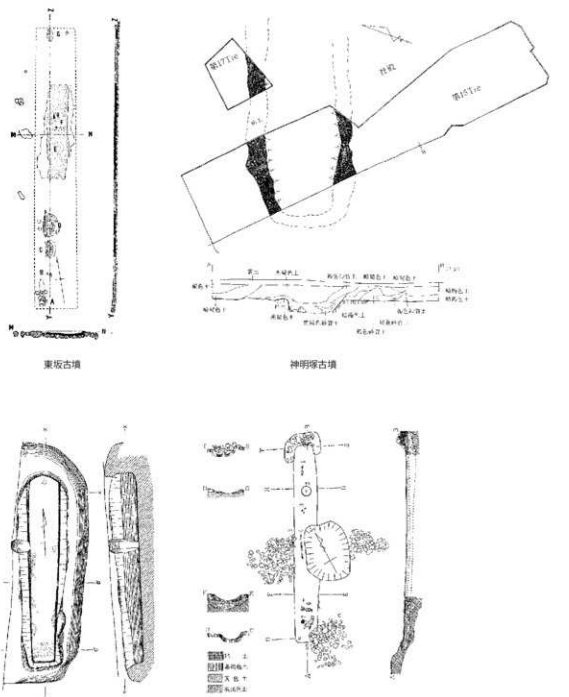
古墳名	和田編年	所在地	墳形	墳丘	埋葬施設	副葬品	外表・外部施設	文献
向山16号墳	三	三島市谷田	前方後円	全長68.2m、後円部径40.7m（推定）	竪穴式石室（槨）	不明（未盗掘の可能性あり）		三島市教育委員会2015『三島市埋蔵文化財発掘調査報告書（補助事業版第1号）』
瓢箪山古墳	四	函南町平井	前方後円	全長86.9m	粘土床？	不明		滝沢　誠2019『伊豆瓢箪山古墳の研究』筑波大学人文社会学研究科歴史・人類学専攻
高尾山古墳	一	沼津市東熊堂	前方後方	全長62.2m、後方部長30.8m、前方部長31.4m	木棺直葬	鏡1面（「斜縁浮彫式獣帯鏡」）ヤリ2、鉄鏃31、ﾔﾘｶﾞﾝﾅ1、勾玉1、棺内に大量の朱		沼津市教育委員会2012『高尾山古墳発掘調査報告書』
神明塚古墳	二	沼津市松長字上ノ段	前方後円	全長約53m、後円部径約37m、前方部長約16m、前方部前端幅約23.5m	粘土槨（床）	不明	埴輪なし 葺石なし	沼津市教育委員会1983『神明塚古墳』 沼津市教育委員会2005『神明塚（第2次）発掘調査報告書』
浅間古墳	三	富士市増川	前方後方	全長約90.8m、前方部長36.3m、後方部高11m、前方部高7m【佐藤2019】	竪穴式石室（槨）もしくは、粘土槨か	不明	埴輪なし 葺石あり	静岡大学人文学部考古学研究室1998「静岡県富士市国指定史跡・浅間古墳測量調査の成果」『静岡県の重要遺跡』静岡県教育委員会 佐藤祐樹2019「国指定史跡　浅間古墳の再検討」『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成29年度－』富士市教育委員会
東坂古墳	四	富士市比奈	前方後円	全長約60m、後円部径30m、前方部幅約13m	粘土床	七連弧紋鏡・四獣形鏡・勾玉・管玉・臼玉・ガラス小玉・琴柱形石製品・石釧・鉄剣・大刀	埴輪なし 葺石なし	吉原市教育委員会1958『吉原市の古墳』 富士市教育委員会1998『富士市の埋蔵文化財（古墳編）』
午王堂山3号墳	二〜三	静岡市清水区庵原町	前方後方	全長77.6m、後方部44.2m、前方部長33.4m、後方部高5.3m、前方部高2.5m	粘土槨（周辺を木炭で被覆）（粘土床か）	三角縁君宜高官獣文帯四神四獣鏡1（トレンチ調査のみ）	埴輪なし 葺石なし （礫敷葺石帯）	清水市教育委員会2001『午王堂山3号墳確認調査報告書』 静岡市教育委員会2020『静岡市内遺跡群発掘調査報告書（平成31年度・令和元年度）』
三池平古墳	四	静岡市清水区原三池	前方後円（二段）	全長67m、後円部径41m、前方部長26m、クビレ部幅28m、前方部幅35m【清水市教委2000】	割石小口積竪穴式石室・割抜式割竹形石棺	【石棺蓋周辺】大刀6、剣1 【棺外北側】変形方格規矩四神鏡1・四獣文鏡1・紡錘車形石製品2・帆立貝形石製品4・筒形銅器2 【棺外南側】鎌2・鉇4・鉄斧6・ヤリガンナ8・鑿2（ﾀｶﾞﾈ1）・鋸1・刀子2・大刀4・剣13・鉄鏃約100 【棺内】ガラス勾玉1・碧玉製管玉63・ガラス小玉187・碧玉製車輪石1・石釧1	底部穿孔壺形埴輪片 葺石	庵原村教育委員会1961『三池平古墳』 清水市教育委員会1983『三池平古墳墳丘発掘調査報告書』 清水市教育委員会2000『三池平古墳墳丘発掘調査報告書（総括編）』
谷津山1号墳	四	静岡市葵区春日町	前方後円（三段）	全長115m、後円部径70m、前方部長45m、後円部高10m以上、前方部高6m	割石小口積竪穴式石室？木棺？	鏡6面、銅鏃30本余、鉄鏃形石製品2本、鉄鏃、鉄剣【以上、明治14年記録】 石製品3（紡錘車形1、石突形1、鉄鏃1）、銅鏃2【東京国立博物館所蔵】	葺石あり	柏原学而1886「静岡清水山にて古物を得たる事」『東京人類学会報告』第3号 伊藤寿夫2001「静岡市谷津山1号墳確認調査報告」『静岡県の前方後円墳－個別報告編－』静岡県教育委員会
上平川大塚古墳	四	菊川市上平川字大塚	前方後円	全長13間（約23.6m）【西郷1921・静岡縣1930】	粘土槨？（礫床か）	鏡3（三角縁「天王日月」銘獣文帯神獣鏡、三角縁「吾作」銘三神五獣鏡、四獣鏡）、勾玉3、管玉6、ガラス小玉数点？	埴輪なし 葺石あり	西郷藤八1921『上平川大塚古墳明細書』（清書・補記　大谷宏治2010『静岡県考古学研究』No.41・42） 後藤守一1922「大塚古墳調査報告」『考古学雑誌』12巻9号 大谷宏治2010「上平川大塚古墳の研究」『静岡県考古学研究』No.41・42
春林院古墳	二〜三	掛川市吉岡	円	直径35m	粘土槨（割竹形木棺）	なし。別の埋葬施設の可能性がある部分より剣1、ヤリガンナ1、針一括（5程度）	葺石あり	内藤　晃編1966『春林院古墳』春林院古墳調査委員会 掛川市教育委員会2010『市内遺跡確認調査報告書』 滝沢誠編2011『春林院古墳の研究』静岡大学人文学部考古学研究室
瓢塚古墳	三	掛川市吉岡字女高	前方後円	全長63m、後円部径38m、後円部高5m、前方部幅25.2m、前方部高3.5m	粘土槨	鏡2（変形獣文鏡2？）、勾玉2、管玉、剣、鉄鏃	壺形埴輪 葺石あり	静岡縣1930『静岡縣史　第1巻』 内藤　晃編1966『春林院古墳』春林院古墳調査委員会 掛川市教育委員会1979『瓢塚古墳測量調査報告書』 滝沢誠編2011『春林院古墳の研究』静岡大学人文学部考古学研究室
新豊院山2号墳（新豊院山D2号墳）	二	磐田市向笠竹之内	前方後円	全長28.0m、後円部径17　16m、後円部高5.7m、前方部長10.6m	竪穴式石室　天井以外を粘土で被覆	鏡2（三角縁「吾作」銘四神四獣鏡、素文鏡）、剣5、大刀1、短刀1、銅鏃28、鉄鏃20、刀子？1	埴輪なし 葺石なし	磐田市教育委員会1982『新豊院山古墳群』 磐田市教育委員会2006『新豊院山古墳群（D地点の発掘調査）』
経塚古墳（連城寺8号墳）	三	磐田市新貝小大間跡	前方後円	全長50間（約91m）、後円部径30間（約55m）【西郷1925】	不明 三貫匁（約11kg）の朱出土【西郷1925】	鏡1（「日月日日」銘三角縁唐草文帯四神四獣鏡）、大刀2		西郷藤八1925「遠江国新貝経塚古墳」『考古学雑誌』16-9 柴田　稔1986「磐田原古墳群の形成について」『古代を考える』41 磐田市教育委員会1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書－磐田原台地東南部における首長墓の調査－』
新貝17号墳（連城寺5号墳）	四	磐田市新貝小大間跡	円	直径30m、高さ4.9m	【第2主体部】木棺直葬 【第1主体部】木棺直葬	【第2主体部】（棺外）剣1、大刀3（棺内）鏡2（変形神獣鏡2）、管玉30、勾玉2、竪櫛、剣3、大刀1、斧5、鎌1、刀子2 【第1主体部】（墓壙上面）土師器高坏4、土師器坩	埴輪なし 葺石なし	磐田市教育委員会1972『磐田市新貝17号墳・18号墳　城之崎丸山古墳　調査概報』 磐田市教育委員会1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書－磐田原台地東南部における首長墓の調査－』
松林山古墳	四	磐田市鎌田	前方後円	全長107m、後円部径（3段）66.5m、高さ10m、前方部長（2段）40.5m、前方部前端幅48m	竪穴式石室（槨）天井を粘土で被覆	鏡4（「吾作」銘三角縁神獣鏡、雲雷紋帯連弧紋鏡、連弧紋鏡、倣製内獣鏡）、勾玉2、管玉79、琴柱形石製品1、石釧2、貝釧3、大刀3〜、剣14〜、鉾13、短甲1、鉄鏃1塊、銅鏃80、ニホサ、巴形銅器3、刀子4、ヤリガンナ6、鎌6、鑿10数、斧17、錐1、砥石2 前方部：鏡1（内獣鏡）	円筒埴輪	後藤守一ほか1939『静岡県磐田郡　松林山古墳発掘調査報告』御厨村郷土教育研究会 静岡県教育委員会1965「松林山古墳」『東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 磐田市教育委員会1992『平成元年度　松林山古墳発掘調査報告書』 磐田市教育委員会1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書－磐田原台地東南部における首長墓の調査－』 鈴木正貴2020「松林山古墳の埴輪と副葬品の編年的位置」『埴輪論叢』第10号
銚子塚古墳	四	磐田市寺谷丁子塚	前方後円	全長112m、後円部径63m、後円部高9.6m、前方部幅25m	礫と粘土を含む（乱掘）	鏡1（三角縁三神三獣鏡）、銅鏃、巴形銅器	埴輪不明 葺石あり	西郷藤八1926「遠江国寺谷銚子塚古墳調査報告」『考古学雑誌』15-10 静岡県1990『県史資料編2　考古二』 磐田市1992『磐田市史　史料編1　考古・古代・中世』 磐田市1993『磐田市史　通史編上巻　原始・古代・中世』
赤門上古墳	三	浜松市北区内野	前方後円	全長56.3m、後円部径36.2m、後円部高4.9m	木棺直葬	鏡1（三角縁四神四獣鏡）、管玉6、剣1、大刀1、鉄鏃11、銅鏃29、刀子1、斧2、鎌1、ヤリガンナ2	埴輪なし 葺石なし	浜北市教育委員会1966『遠江赤門上古墳』 大谷宏治2004「赤門上古墳の実態」『浜北市史』資料編　原始・古代・中世　浜北市
権現平山7号墳	四	浜松市北区内野台	円	直径25m、高さ3.4m	木棺直葬	銅鏃21、鉄鏃8、ヤリ1、鎌1、斧1		浜北市教育委員会1993『浜北市内野古墳群』 大谷宏治2004「赤門上古墳の実態」『浜北市史』資料編　原始・古代・中世　浜北市
馬場平古墳	四	浜松市北区引佐町	前方後円	全長47.5m、後円部径33m、後円部高4.6m、前方部幅15m	粘土槨（床）	鏡2（画文帯神獣鏡、五連弧文鏡）、碧玉製管玉、剣2+、銅鏃5、鉄鏃3、巴形石製品、赤色顔料	埴輪なし 葺石なし	引佐町教育委員会1983『馬場平古墳発掘調査報告書』引佐町の古墳文化Ⅲ 静岡県1990『県史資料編2　考古二』



第 219 図　駿河・遠江における前期古墳の埋葬施設（竪穴式石室）

記載をまとめると以下のようになる。

新豊院山 D2 号墳の石室構築はまず、墓壙底面に粘土を貼り付け、その上面に直径 10cm 程度の円礫を平坦に敷き、さらに礫の上面及び棺設置部分以外の周囲に粘土を貼って粘土床のような構造を作り出す。石室壁体も 5 ～ 10cm 程度の礫を高さ 40cm 程度積み上げ、礫の覆うように粘土を貼り付ける。その後、棺を設置しさらに壁体を構築するが使用する石材は下部より大きく人頭大の礫が積み上げられる。この上部の壁体構築時には粘土の使用は著しく少ない。その後、天井石の設置や上面を粘土で被覆した痕跡は確認されず、木材などの有機質の天井が存在した可能性が指摘されている。石室規模は、長さ約 5.0m、床面幅 0.6m から 0.7m 程度、高さ 0.7m



第 220 図　駿河・遠江における前期古墳の埋葬施設（粘土床）

を測り、断面は上部に行くほど広がっていることから上端幅は 1.0m から 1.2m を測る。

粘土槨・粘土床　棺全体を粘土で被覆する構造（粘土槨）と棺の一部を粘土で被覆する構造（粘土床）に大別され、後者はその範囲の違いにより、「a　床面及び周縁を被覆する構造」、「b　周縁のみを被覆する構造」、「c　小口のみを被覆する構造」、「d　上面のみを被覆する構造」に細分されている（中嶋 2001）。

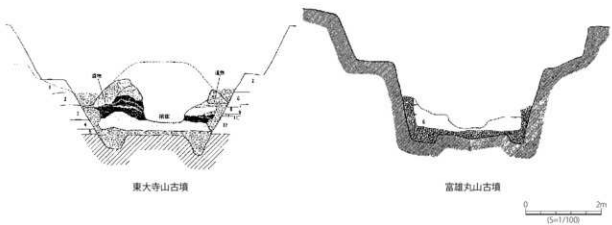
粘土槨とされる浜松市馬場平古墳の埋葬施設について中嶋は粘土床の可能性を指摘しており、県内の前期古墳において確実に棺全体を粘土で被覆する埋葬施設を有する古墳はない。粘土床とされる古墳は沼津市神明塚古墳（沼津市教委 1983・2005）、富士市東坂古墳（吉原市教委 1958）、静岡市午王堂山 1 号墳・3 号墳（清水市教委 2001）、掛川市春林院古墳（内藤編 1966・掛川市教委 2010・滝沢編 2011）、掛川市瓢塚古墳（掛川市教委 1979・滝沢編 2011）などが該当するが、部分的な検出や残存状況がよくない調査例が多い。

木棺直葬　木棺直葬が確定している前期古墳としては沼津市高尾山古墳（沼津市教委 2012）、磐田市新貝 17 号墳（蓬城寺 5 号墳）（磐田市教委 1999）、浜松市赤門上古墳（浜北市教委 1966）、浜松市権現平 7 号墳（浜北市教委 1993）のほか、焼津市藤枝市城の小規模古墳の埋葬施設に多く採用されている。

3　想定される浅間古墳の埋葬施設

浅間古墳でまず想定されるのが竪穴式石室である。ただし、天井に該当する部分について石材の反応が認められないことから、有機質もしくは天井石が持ち去られていることが前提となる。ただし、地中レーダーでは埋葬施設については内法長辺 7.4m、短辺 2.2m が想定されているが、石室幅が 2m を超える竪穴式石室というものは前期古墳の中でも最古級であるホケノ山古墳（石槨内法長さ約 6.7m、幅 2.7 ～ 2.8m）（奈良県立橿原考古学研究所 2008）の礫槨構造を除いて全国的にもほぼ見られない規模であり、同じく礫槨構造の埋葬施設を有する松本市弘法山古墳でも長さ約 5m、幅 1.3m 程度である（松本市教委 1978）。静岡県内でも構造が明らかなものでも静岡市三池平古墳の幅 0.7 ～ 0.8m（庵原村教委 1961）、磐田市松林山古墳の幅 1.05 ～ 1.3m（中央部 0.75m）、また、粘土と礫を混在させる前述の磐田市新豊院山 D2 号墳で幅 0.6 ～ 0.7m である。そのため、現段階で浅間古墳の埋葬施設にホケノ山古墳や弘法山古墳のような礫槨構造か幅の極端に広い構造の竪穴式石室が存在する可能性が指摘されよう。

一方で、今回得られた地中レーダー結果から、駿河・遠江に多い粘土槨や粘土床などの粘土を多用した埋葬施設が想定されないのか検討すると天理市東大寺山古墳の粘土槨の構築手順について考察した高橋克壽の論考が参考になる（高橋 2010）。



第 221 図　粘土槨下部における石材使用（高橋 2010）

「まず、後円部の中央に南北に長い平面台形の墓壙を掘り込む。墓壙上面の規模は南北約 12m、幅は北が約 8m、南が約 6.5m、深さ約 3.7m で、底は地山の標高にほぼ一致している。東西両壁には段を設け、墓壙底面の長さは約 7.9m、幅は中央部で約 2.5m を測る。この墓壙底の四周に狭い溝をめぐらすことで、木棺の下に相当する部分をベッド状に用意するが（この部分を例にならって基台と呼ぶ）、その溝を完全に埋め尽くすのに続いて、基台を覆うように礫を敷き詰める。そうして、いったん平坦な床面を形成した後、あらためて棺床粘土を幅広く用意する。この棺床上に長さ 7m 内外の割竹形などの木棺の身が安置される」とする（高橋 2010）。

以上の考察から、粘土槨の粘土部分については地中レーダーでは異常反応として現れてこないものと想定され、浅間古墳の地中レーダー探査で石材とされる反応はこの粘土槨内部の棺を設置する「基台」を覆うように敷き詰められる礫の可能性も指摘できよう。

おわりに

以上、令和元年度に実施した富士市浅間古墳の地中レーダー探査結果から想定される埋葬施設について現段階での所見をまとめてきた。結論的には、竪穴式石室の可能性が高いものの、粘土槨や粘土床などの可能性も排除できず、確定的なことは言えない状況である。

しかし、これまで、測量以外の考古学的調査が行われてこなかった浅間古墳に対して、非破壊ながら調査のメスが入れられ、埋葬施設の存在や位置を推定できるまでになったことは、大きな成果といえる。しかも、長辺約 9.5m、短辺約 6.8m の範囲に石材の反応が認められ、内法長辺約 7.4m、短辺 2.2m という長大な埋葬施設の存在が明らかとなったことは、駿河はもちろん、東日本において倭王権と地域連合体との関係性を考える際に重要な成果といえよう。

令和 2 年度には、UAV を使用した空中レーザー測量を実施しており、築造規格などや立地、視認性など浅間古墳が持つ様々な要素に対して検討を加えていくこととしたい。

注

(1) 第 216・219 図において図示した浅間古墳の埋葬施設検出位置は、地中レーダー探査実施時に、波形の乱れが現地で確認された場所をトータルステーションで計測したものである。

(2) 向山 16 号墳において実施した地中レーダー探査結果に基づく石室想定範囲（第 219 図）については、三島市教育委員会より提供を頂き図示した。

参考文献

廉原村教育委員会 1961『三池平古墳』

伊藤寿夫 2001「静岡市谷津山 1 号墳確認調査報告」『静岡県の前方後円墳－個別報告編－』静岡県教育委員会

磐田市教育委員会 1999『新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書－磐田原台地東南部における首長墓の調査－』

磐田市教育委員会 2006『新豊院山古墳群　D 地点の発掘調査』

大塚初重 1990「柚木山神古墳（谷津山 1 号墳）」『静岡県史資料編 2 考古二』静岡県

柏原学而 1886「静岡清水山にて古物を得たる事」『東京人類学会報告』第 3 号

掛川市教育委員会 1981『各和金塚古墳測量調査報告書』

佐藤祐樹 2018「駿河・遠江における古墳出現期の様相－浮島ヶ原における首長系譜を中心に－」『東海地方における古墳出現期の様相 2』考古学研究会東海例会

佐藤祐樹 2019「国指定史跡浅間古墳の再検討」『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成 29 年度－』富士市教育委員会

静岡大学人文学部考古学研究室 1998『静岡県富士市　国指定史跡・浅間古墳測量調査の成果』『静岡県の重要遺跡』（静岡県内重要遺跡詳細分布調査報告書）静岡県教育委員会

高橋克壽 2010「東大寺山古墳の粘土槨」『東大寺山古墳の研究－初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究－』金関恕編　東大寺山古墳研究会・天理大学・天理大学付属天理参考館

滝沢　誠編 2011『春林院古墳の研究』静岡大学人文学部考古学研究室

内藤　晃編 1966『春林院古墳』春林院古墳調査委員会

中嶋郁夫 2001「主体部」『静岡県の前方後円墳－総括編－』（静岡県内前方後円墳発掘調査等事業報告書その 1）静岡県教育委員会

奈良県立橿原考古学研究所 2008『ホケノ山古墳の研究』

沼津市教育委員会 1983『神明塚古墳』

沼津市教育委員会 2005『神明塚（第 2 次）発掘調査報告書』

沼津市教育委員会 2012『高尾山古墳発掘調査報告書』

浜北市教育委員会 1966『遠江赤門上古墳』

松本市教育委員会 1978『弘法山古墳』

三島市教育委員会 2015『三島市埋蔵文化財発掘調査報告書（補助事業版第 1 号）』

吉原市教育委員会 1958『吉原市の古墳』

第 6 章　資料報告

第 1 節　沢東 A 遺跡から出土した動物遺体

植月 学

はじめに

本稿では平成 3 年度に行われた富士市沢東 A 遺跡の第 1 次発掘調査において出土した動物遺体について報告する。資料の年代は古墳時代から平安初期に属する。

1　資料と方法

本調査では 5 世紀後半から 9 世紀初頭にかけての竪穴建物跡 27 軒などが検出されている（若林・佐藤 2014）。動物遺体は 5 遺構から出土しており、取り上げの単位は 9 点あった。このうち 7 点が部位の同定可能な標本を含んでいた（第 226 図）。

点数が少ないため、すべての部位を同定対象とした。同定は現生標本との比較によりおこなった。

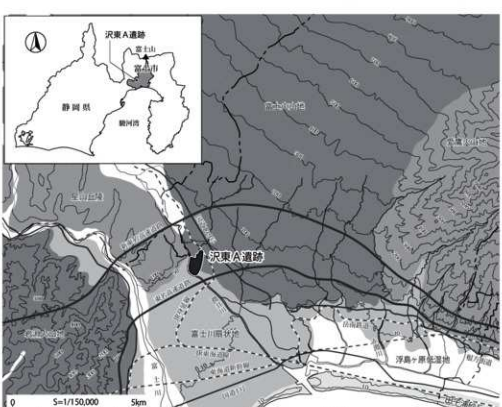
2　分析結果

第 26 表に部位の同定に至らなかった標本も含め、すべての資料の同定結果を示す。同定できた標本の画像は第 226 図に示す。部位不明の標本も質感から哺乳類と推測された。すべての標本は被熱し変色している。

以下の 4 種が同定された。

イノシシ	*Sus scrofa*
ニホンジカ	*Cervus nippon*
ニホンカモシカ	*Capricornis crispus*
ウシ	*Bos taurus*

以下では部位が同定できた標本について遺構ごとに年代順で記載する。出土遺構の位置は第 224 図に示す。No. は動物遺体用に付した整理番号である。今回の調査ではニホンジカとニホンカモシカが含まれていたので、両者を区別した基準について特にや



第 222 図　静岡県富士市 沢東 A 遺跡の位置

や詳しく述べておく。区別のポイントについては第226図にも矢印で示した。

SB27（5 世紀後半）

No.9 ウシ　第 2/3 後臼歯（右）。

前葉の舌側と小窩（歯ロート）の 2 破片である。舌側近心の溝が歯根方向に長く伸びるため第 1 後臼歯ではないと判断した。また近心の舌側への折り返しが強いため第 2 よりも第 3 の可能性が高いと推測される。

部分的な標本ではあるが、Grant（1982）の咬耗ステージに当てはめると小窩が独立しており f 以上に比定できる。

なお、本資料自体には登録番号や層位の情報は付随していなかった。しかし、遺物台帳には以下の記録があったという（藤村翔氏のご教示による）。

番号：371

取り上げ日：H3.8.27

遺構名：SB27

種類：須恵器、土師器、動物骨

SB27 関連遺物には他に骨の記述は見られないとのことなので、本標本が該当する可能性が高い。層位に関する情報はないが、8.18 までには覆土の掘削を開始しており、8.28 から床面の遺物集中箇所を取り上げている。8.27 であれば覆土内でも床面にかなり近づいた位置からの出土とみてよいとのことである。また、本遺構の床面一括資料は 5 世紀後半に属するものの、一部 6 世紀末〜 7 世紀前半頃の混入遺物も含まれるため、下限は 7 世紀前半まで下る可能性も排除できないとのことであった（第 225 図）。

したがって、ウシ歯の年代としては 5 世紀後半の可能性が高いが、7 世紀前半まで下る可能性も残る。

SB01（6 世紀後半〜 7 世紀前半）

No.1 ニホンジカ　中節骨、近位端。掘り方より出土。

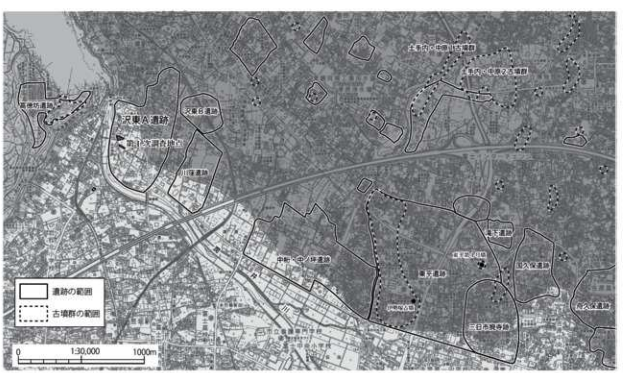
近位端の底側中心が小さく窪む点はニホンジカに特徴的で、ニホンカモシカでは平坦、ないし膨らむ。

SB10（6 世紀後半〜 7 世紀前葉）

No.3 部位不明の哺乳類の焼骨片が少量出土したのみである。カマド灰層出土。

SB05（8 世紀）

No.2 ニホンジカ　基節骨、近位端〜中間。カマドより出土。



第 223 図　沢東 A 遺跡　周辺遺跡分布図

近位端の底側中心に小さな窪みが見られる。また、近位端中心の溝内側は垂直に立ち上がる。以上はニホンジカの特徴で、ニホンカモシカでは窪みはなく、溝内側はより緩やかに立ち上がる。

SB13（7 世紀後半～ 8 世紀前半）

No.4 ニホンジカ　下顎第 3 後臼歯（左）。覆土より出土。

前葉と中葉のエナメル質で、それぞれ頬側、中心、舌側に分離しているが同一標本と推測される。エナメル質の小片を他にも複数伴うが同定できない。

前葉頬側には柱状の小突起があり、舌側の近心下端には弱い襞が見られる。これらは現生ニホンジカ標本には見られたが、ニホンカモシカ標本では確認できなかった。

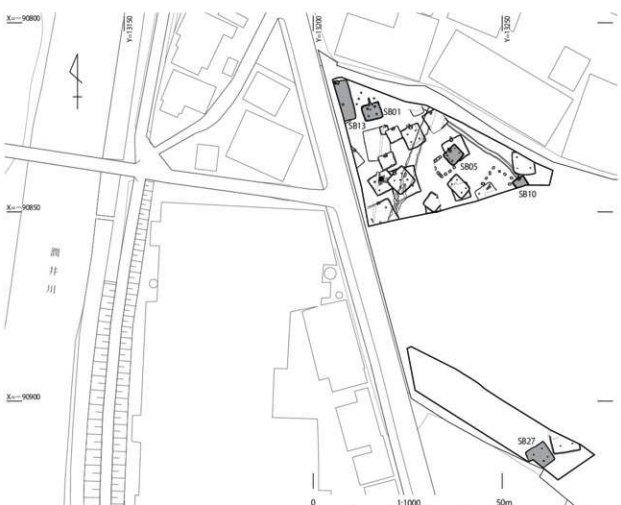
No.5 ニホンカモシカ　橈骨（右）遠位端。覆土より出土。

橈側手根骨との関節面は全体に浅いが（第 226 図①）、前側のみ強く窪む。後面の橈側・中間手根骨との関節面はいずれも深く窪む（②）。中間手根骨との関節面の前側は稜線が強く張り出す（③）。以上はニホンカモシカ標本と一致する。ニホンジカでは①は全体により深くえぐれる一方で、前側の窪みは見られない。②の窪みは顕著でない。③の張り出しもカモシカほど顕著でなく、外側に向かってなだらかに下がっていく。

No.6 部位不明の哺乳類の焼骨片のみ。覆土より出土。

No.7 イノシシ　第 3 手根骨（左）。下端を欠き、縁辺も摩耗する。カマドより出土。

No.8 ニホンジカ / ニホンカモシカ　尺骨（右）近位端。肘突起と滑車切痕部分だが、小片のため種の同定に至らなかった。



第 224 図　沢東 A 遺跡第 1 次調査地点　動物遺体出土遺構位置図

3 考察

出土した動物遺体はすべて白色～灰色に変色した焼骨であった。本遺跡における動物遺体の残存はカマド内に混入、もしくは意図的に燃やされたなどの偶然的要因に左右されたことを想起させる。したがって解釈に当たってはこのようなバイアスを考慮する必要がある。

出土点数はごく少ないが、各時期にわたって出土していることは本遺跡において一貫して動物資源利用が行われていたことを示唆する。同定できたのはいずれも陸獣であり、駿河湾まで10km未満の立地にありながら海産物利用の証拠は捉えられなかった。この点は利用が行われなかったことを直ちに示す訳ではなく、上述のような遺存条件のバイアスに加え、簡別など回収方法のバイアスも考慮する必要がある。たとえば、神奈川県三ツ俣遺跡では古墳時代から平安時代のかまど覆土を集中的にサンプリングし、水洗選別にかけることで、微小な焼魚骨片を多数回収することに成功している（小林ほか1991）。本遺跡の動物遺体はいずれも小片とはいえ、発掘調査時に肉眼で確認できる程度の大きさである。より微細な魚骨片などが元々含まれていなかったのか、含まれていたが回収されなかったのかは判断ができない。

陸獣はウシ1点を除き野生獣であった。シカは同定可能な標本を出土した4遺構中3遺構で確認されており、本遺跡で利用された主要種であった可能性がある。

SB13で確認されたカモシカは山岳地帯や洞窟遺跡での出土が一般的な種であり、本遺跡のような低平な地域での出土は珍しい。鳥居春己の報告（注）によれば明治以前の静岡県域における本種の分布は山梨県境に近い天子山地や身延山地、さらにその奥の赤石山脈に限定される。本遺跡からは最短でも20km以上の距離がある。1点のみの出土だが、当時の生業圏あるいは物流を考える上で興味深い資料である。

他にイノシシ1点が出土した。これら野生獣の用途としては食用の他に、特にシカの場合には皮革や角が様々な加工品の素材として用いられた可能性も考えられる。

本遺跡で特筆すべき点はウシの出土である。1点のみながら、5世紀後半の遺構から出土している。筆者が以前東国の遺跡について集成を行なった際

第225図　沢東A遺跡第1次調査地点 SB27　遺物出土状況図

には、埼玉県城北遺跡の6世紀第2四半期（宮崎1995）や群馬県三ツ寺Ⅰ遺跡の6世紀中頃（宮崎1988）が古い例であった（植月2011）。悉皆的な集成ではなかったため、より古いウシ遺体の存在は否定できないが、本遺跡の成果は駿河におけるウシの導入が東国と比較して早かった可能性を示唆する。ただし、先述のように出土状況が不明なことから7世紀まで下る可能性もあり、年代に関しては決め手を欠く。藤村（2018）によれば本遺跡では本地点を含め5箇所以上で牛骨・牛歯が出土しているとされ、飛鳥Ⅰ期頃までにはウシの利用が普及していたと推測される。この点は隣接する山梨県域でウシの出土が百々遺跡の9世紀の例以前には確認できていない点とは対照的である。生産規模を論じるにはまだ資料が不足しているが、藤村が指摘するように富士山南麓における牧経営の特質を考える上で今後検討すべき課題と言えよう。

おわりに

今回報告した資料は数量としてはわずかであったが、複数の種を含み、遺跡立地にはそぐわないカモシカの出土や、本地域へのウシの導入年代に関する手がかりなど貴重な知見を得ることができた。すべてが焼骨であったことから、動物遺体の残存には強いバイアスが働いていると予測され、動物資源利用の全体像を復元するまでには至らない。しかし、こうした分析事例を着実に積み重ねることで動物資源利用の地域性や変遷の理解につながっていくと期待される。

末筆ながら丹念な資料回収努力を怠らなかった調査担当者の方に敬意を表するとともに、貴重な分析の機会を与えていただいた富士市教育委員会、および種々ご教示いただいた藤村翔氏に深く感謝申し上げる。

注

静岡県（2017）に引用された以下の文献によるが、入手できていない。

鳥居春己　1978「静岡県におけるサル、クマ、イノシシ、ニホンジカ、カモシカの分布と被害の現況」『静岡県林業試験場研究調査資料』21

引用文献

植月 学　2011「動物考古学からさぐる古代の牛」『帝京大学山梨文化財研究所報』53

小林 公治・吉川 純子・樋泉 岳二　1991「三ツ俣遺跡出土の動植物遺体とその考古学的コンテクスト」『神奈川考古』27

静岡県　2017『第二種特定鳥獣管理計画（カモシカ）（第5期）』

藤村 翔　2018「富士山・愛鷹山南麓の古墳群の形成と地域社会の展開」『境界の考古学　日本考古学協会2018年度静岡大会研究発表資料集』　日本考古学協会2018年度静岡大会実行委員会

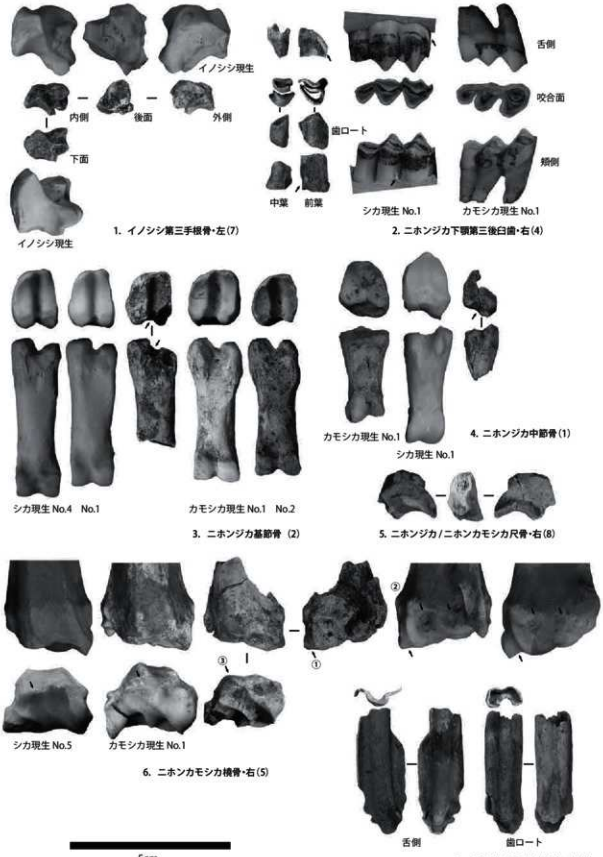
宮崎 重雄　1988「三ツ寺Ⅰ遺跡出土の骸骨類について」『三ツ寺Ⅰ遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団

宮崎 重雄　1995「城北遺跡の骸骨類」『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団

若林 美希（編）・佐藤 祐樹　2014『沢東A遺跡第1次　遊技場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市埋蔵文化財調査報告　第56集　富士市教育委員会

第26表　同定結果一覧

地区	遺構	層位	整理番号	No.	日付	種	部位	左右	位置	数	重量g	備考
Ⅰ	SB01	掘り方	1	-	H3.9.11	ニホンジカ	中節骨	?	近位端	1	0.9	
				-	H3.9.11	哺乳類	?	?	?	1	0.4	
	SB05	カマド	2	R388	-	ニホンジカ	基節骨	?	近位端～中	1	3.0	
	SB10	カマド床中	3	R585	H3.7.25	哺乳類	?	?	?	+	0.6	別に灰サンプルあり
	SB13	覆土	4	R466	H3.9.6	ニホンジカ	下顎第3後臼歯	右	前～中葉	1	1.1	6分割。他に臼歯小片あり。同一標本か不明。
			5	R469	H3.9.9	ニホンカモシカ	橈骨	右	遠位端	1	5.4	
				R469	H3.9.9	哺乳類	?	?	?	+	3.8	
			6	R478	H3.9.9	哺乳類	?	?	?	4	0.5	
		カマド	7	R502	H3.9.12	イノシシ	第3手根骨	左	ほぼ完存	1	0.7	
				R502	H3.9.12	哺乳類	?	?	?	+	0.7	他に軽石1点
		-	8	-	-	ニホンジカ/ニホンカモシカ	尺骨	右	近位端	1	1.6	
Ⅱ	SB27	-	9	-	-	ウシ	下顎第2/3後臼歯	右	舌側、中心エナメル質（歯ロート）	+	3.6	舌側残存高 :39.1mm。



カッコ内は整理番号。比較のために一部現生標本を示した。矢印は同定のポイントを示す。

第 226 図　沢東 A 遺跡第 1 次調査地点出土動物遺体

第2節　富士山かぐや姫ミュージアム所蔵頭椎大刀について

豊島 直博

はじめに

本稿では富士山かぐや姫ミュージアムに収蔵されている頭椎大刀について報告する。頭椎大刀は鉄本体が残存せず、把頭金具（第228図1）、鳩目金具2点（同4・5）、切羽金具（同2）、切羽縁金具（同3）、鍔（同6）、縁（同7）、足金具2点（同8・9）、責金具（同10）、鞘口金具（同11）、鞘尻金具（同12）、把間に巻かれた銀線（第229･230図）がある。これらは同一個体の頭椎大刀を構成する部品として違和感はない。以下、各部品について詳述する。

1　各部品の報告

把頭金具（1）　金銅製で卵形を呈する。長径7.0㎝、残存する短径4.5㎝で、筆者の分類では小型に属する（豊島2019）。天井部と、片面の鳩目穴付近を一部欠損する。半球状の部品を二枚合わせにした痕跡が認められる。把間側には長径3.2㎝、短径2.1㎝の卵形の穴をあけ、切羽と接する部分には平坦面をもたない。片面に3本の畦目をもつ。桜井達彦の分類では堅畝Ⅰ式（桜井1987）、筆者の分類では畦目Ⅱ式に相当する。

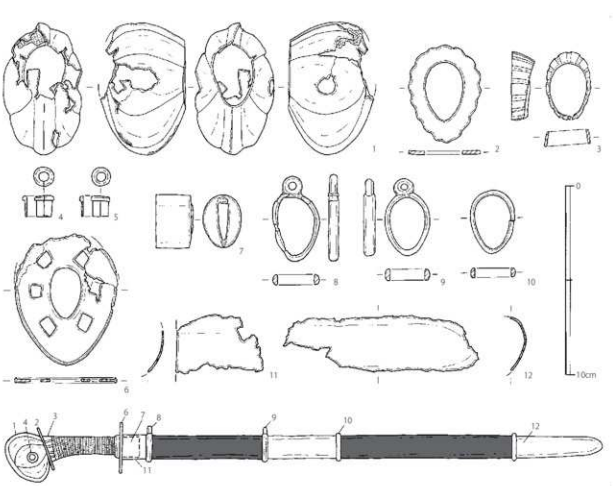
鳩目金具（4・5）　把頭に両側からはめる鳩目金具が2点ある。いずれも筒状品の片側端部を肥厚させて頭部とし、頭部にはわずかに鍍金が残る。4は頭部の直径1.1㎝、全長1.1㎝で、筆者分類の小型短脚式に当たる。側面には銅板を筒状に折り曲げた際の接合線が見える。5は頭部の直径1.0㎝、全長1.1㎝で、小型短脚式に当たる。頭部は筒状部と若干の角度をもって取り付く。脚部の側面に銅板の接合線が見える。

切羽金具（2）　金銅製で、卵形の環状品である。長径5.2㎝、短径3.8㎝、内孔の長径3.1㎝、短径2.0㎝、厚さ0.2㎝である。全体にわずかな反りをもつ。外側を波状に加工する。

切羽縁金具（3）　金銅製で、卵形の石銙状を呈する。長径3.6㎝、短径2.4㎝、最大幅1.2㎝、最小幅0.7㎝である。環の一部が破損して途切れ、左右で段差が生じている。外面には幅0.2～0.3㎝程度の沈線が13本入る。

鍔（6）　金銅製で、卵形を呈する。外縁の一部を欠損し、残存長6.9㎝、残存幅5.4㎝、内孔の長径2.7㎝、短径1.6㎝である。板状部の厚さ0.2㎝、縁の厚さ0.4㎝で、外縁を肥厚させる。肥厚部分が別造りの蝋付けであるか、叩き出し等によるものかは、観察のみでは判別できない。長方形および台形の透孔が6カ所あけられている。

第227図　静岡県富士市の位置



第 228 図　富士山かぐや姫ミュージアム所蔵頭椎大刀装具と復元図

第 229 図　把間の銀線

第 230 図　銀線の細部

鍔（7）　金銅製で、卵形の簡状を呈し、片面を板状部材で塞ぐ。長径 2.8 ㎝、短径 2.0 ㎝、幅 1.8 ㎝である。板状部材には鉄刀の茎を通す切り込みが入り、その長さは 1.9 ㎝、背側の幅は 0.6 ㎝である。また、切り込みの上下付近には刀身の形を反映した凹みがあり、鉄刀本体が両関の刀であったことを示す。

足金具（8・9）　金銅製の単脚足金具が 2 点ある。8 は刀身部分の銹化による変形が認められる。長径 3.6 ㎝、短径 2.5 ㎝、幅 0.5 ㎝の卵形の環に、径 0.8 ～ 1.0 ㎝の小環が付く。小環の位置はわずかに中軸線から偏る。

9 は長径 3.3 ㎝、短径 2.4 ㎝、幅 0.6 ㎝の卵形の環に、

径 0.8 ～ 1.1 ㎝の小環が付く。小環の幅は 0.4 ㎝で、環との間に段差が生じている。小環の位置は、8 よりも斜めに偏る。

責金具（10） 金銅製の責金具が 1 点ある。環の一部が断裂しているが、長径 3.4 ㎝、短径 2.3 ㎝、幅 0.5 ㎝である。断面形は厚さ 0.3 ㎝の蒲鉾形を呈する。

鞘口金具（11） 金銅製の筒状品の一部があり、鞘口金具の破片と考えられる。鞘間金具の可能性もあるが、内面に木質が付着していないことから、鞘口金具と推定する。一方の端部がわずかに残存している。残存長 4.6 ㎝、最大幅 3.1 ㎝である。

鞘尻金具（12） 金銅製の筒状品の一部があり、片側がすぼまる形態から、鞘尻金具と考えられる。蟹目釘を伴う筒状の鞘尻金具ではなく、円頭状に閉じる鞘尻金具であろう。残存長 10.3 ㎝、最大幅 3.0 ㎝である。内面に鞘の木質が付着する。

把間の銀線 以上の部品以外に、把間に巻かれていた銀線の塊がある。幅 0.2 ㎝で、中央に稜線をもち、緊密に刻み目を入れる。稜線を挟む両側の刻み目は間隔が一致しており、先端Ｖ字形の鏨で刻まれたと考えられる（大谷 2012）。

2 資料の評価

最後に、本資料について若干の評価を試みたい。

全体像 本例は、把頭金具の把間側にあけられた穴、切羽金具の内孔、切羽縁金具の内孔の法量がほぼ一致する。また、いずれの部品も頭椎大刀としては小型であり、同一個体の部品とみて違和感はない。不足する部品は鍔の把間側に付く鍔縁金具、鞘間金具、責金具 1 点であろう。把間の銀線巻きについては、短脚畦目Ⅱ式で確認できた例はないが、同時期の短脚無畦目式では茨城県風返稲荷山古墳例（千葉編 2000）、千葉県殿塚古墳例（滝口 1956）で類例があるので、ひとまず同一個体とみておきたい。

なお、鞘飾金具と鞘包金具が 1 点も出土しておらず、本例の鞘は黒漆塗りを基調とする漆素鞘であったと考えられる（滝瀬 1984）。第 228 図の復元図は以上をもとに作成した。

年代と意義 本例は、従来の新納泉の分類と編年によれば最新型式のＶ式に位置づけられ、暦年代は 7 世紀初頭頃となる（新納 1987）。近年の筆者の分類では短脚畦目Ⅱ式に位置づけられ、暦年代は 7 世紀第Ⅰ四半期である。

短脚畦目Ⅱ式の頭椎大刀は、物部守屋の滅亡により、生産体制が蘇我氏に接収された後の段階のものと筆者は理解している。なお、富士市内では愛鷹山南西麓の須津で双龍環頭把頭が出土している。筆者分類の内向Ⅳ式に位置づけられ、年代は本稿で報告した頭椎大刀と一致する。残念ながら頭椎大刀の出土地は明らかではないが、7 世紀前葉に富士地域に蘇我氏が進出したことを示している。

いっぽう、富士市では花川戸 4 号墳（佐藤 2013）、中里大久保 K95 号墳（植松編 1975）、伝法国久保古墳（藤村ほか 2011）で圭頭大刀が出土している。また、東京国立博物館には富士郡出土圭頭大刀把頭があり、圭頭大刀が多い地域といえる。その背景を探るには、圭頭大刀の分類と編年を早急に確立する必要がある。

参考文献

植松 章八編 1975『中里大久保（K 第 95 号）古墳 付載 K 第 97・98・99 号墳の副葬品』富士市教育委員会

大谷 晃二 2012「金銅冠古墳の金銀装大刀はどこで作られたか？」稲葉 昭智編『金鈴塚古墳展―甦る東国古墳文化の至宝―』木更津市郷土博物館金のすず 18 － 23 頁

桜井 達彦 1987「頭椎大刀の編年に関する一考察」増田 精一編『比較考古学試論―筑波大学創立十周年記念考古学論集―』雄山閣出版 171 － 189 頁

佐藤 祐樹 2013「富士岡 1 古墳群の調査」佐藤 祐樹・若林 美希編『富士市内遺跡発掘調査報告書―平成 22・23 年度―』富士市教育委員会

滝口 宏 1956「千葉県芝山古墳群調査速報」『古代』第 19・20 合併号 早稲田大学考古学会 49 － 64 頁

滝瀬 芳之 1984「円頭・圭頭・方頭大刀について」『日本古代文化研究』創刊号 古墳文化研究会 5 － 40 頁

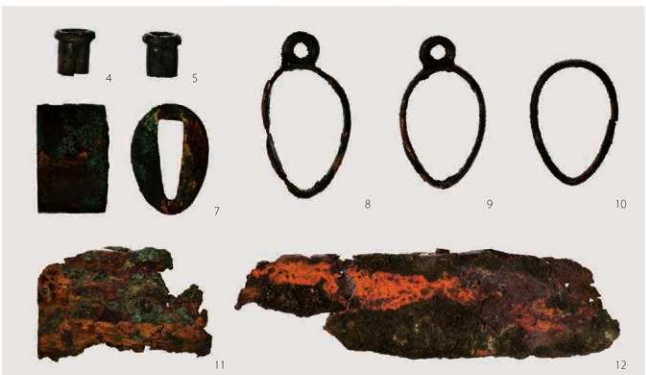
千葉 隆司編 2000『風返稲荷山古墳』霞ヶ浦町教育委員会

豊島 直博 2019「頭椎大刀の生産と流通」『考古学雑誌』第 102 巻第 1 号 日本考古学会 77 － 121 頁

新納 泉 1987「戊辰年銘大刀と装飾付大刀の編年」『考古学研究』第 34 巻第 3 号 考古学研究会 47 － 64 頁

藤村 翔ほか 2011「伝法 国久保古墳の調査」藤村 翔・若林 美希編『平成 13 年度 富士市内遺跡・伝法 国久保古墳 埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市教育委員会

富士山かぐや姫ミュージアム所蔵　頭椎大刀刀装具



富士山かぐや姫ミュージアム所蔵　頭椎大刀刀装具

写真図版

PLATE

1．東平遺跡　第 111 地区 1 次調査

1．1Tr（南西から）

2．花守遺跡　第 7 地区 1 次調査

1．1Tr（南から）

3．天間沢遺跡　第 55 地区 1 次調査

1．4Tr（北から）

2．9Tr（南から）

4．天間代山遺跡　第 5 地区 1 次調査

1．1Tr 北壁（南西から）

2．1Tr（南東から）

5．沢東Ａ遺跡　第 21 次調査地点１次調査

1．1Tr（南西から）

7．東平遺跡　第 112 地区１次調査

1．2Tr 北壁（南から）

8．神谷古墳群　第 11 地区２次調査

1．西工区（北から）

2．西工区北西角土層（南東から）

3．東工区（南西から）

出土遺物

6．国久保遺跡　第９地区１次調査

1．1Tr（南東から）

2．1Tr ピット検出（南から）

10．天間沢遺跡　第 56 地区１次調査

1．1Tr 北壁（南から）

9．善得寺城跡・東泉院跡　第４地区１次調査

1．1Tr（北東から）

出土遺物

11．中里２古墳群　第３地区１次調査

1．3Tr・4Tr（北西から）

2．4Tr　SB1001（南から）

12. 大坂遺跡　第２地区１次調査

1. 1Tr（南西から）

13. 花守遺跡　第８地区１次調査

1. 2Tr（南から）

14. 中島遺跡　第 15 地区１次調査

1. 1Tr（北から）

16. 舟久保遺跡　第 64 地区１次調査

1. 1Tr（南から）

15. 善得寺城跡・東泉院跡　第５地区１次調査

1. 1Tr（南西から）

出土遺物

17. 厚原横道下遺跡　第６地区１次調査

1. 1Tr（北東から）

18. 入山瀬城跡　第２地区１次調査

1. 1Tr（南東から）

19. 舟久保遺跡　第 65 地区１次調査

1. 1Tr（南西から）

20. 東平遺跡　第 114 地区１次調査

1. 1Tr（南東から）

21. 東平遺跡　第 115 地区１次調査

1. 1Tr（南西から）

22. 舟久保遺跡　第 66 地区１次調査

1. 1Tr（南東から）

23. 川坂遺跡　第７地区１次調査

1. 1Tr（東から）

24. 国久保遺跡　第 10 地区１次調査

1. 1Tr（南東から）

2. 5Tr（東から）

25. 沢東B遺跡　第12地区1次調査

1. 1Tr（北西から）

26. 舟久保遺跡　第67地区1次調査

1. 1Tr（北西から）

27. 沢東B遺跡　第13地区1次調査・2次調査

1. 3Tr（南から）

29. 比奈4古墳群　第3地区1次調査

1. 2Tr（東から）

28. 東平遺跡　第116地区1次調査

1. 2Tr北西角（南東から）

2. 3Trピット・土坑（南西から）

30. 天間沢遺跡　第40地区4次調査

1. 1Tr（南東から）

31. 天間沢遺跡　第 57 地区 1 次調査

1. 1Tr（西から）

2. 3Tr（南西から）

3. 5Tr　SB1001（南西から）

4. 6Tr・7Tr・8Tr　SD1004（西から）

5. 8Tr　SD1004（南西から）

6. 調査地全景（北西から）

31. 天間沢遺跡　第 57 地区 1 次調査

出土遺物

32. 厚原遺跡　第 9 地区 1 次調査

1. 1Tr（南西から）

33. 舟久保遺跡　第 68 地区 1 次調査

1. 1Tr（北東から）

35. コーカン畑遺跡　第 4 地区 1 次調査

1. 1Tr（南西から）

37. 沢東 A 遺跡　第 22 次調査地点 1 次調査

1. 2Tr 北壁（南から）

34. 宇東川遺跡　第 28 地区 1 次調査

1. 1Tr（北西から）

36. 天間沢遺跡　第 58 地区 1 次調査

1. 1Tr・2Tr（南東から）

38. 柏原遺跡　第 15 地区 1 次調査

1. 1Tr（北西から）

2

1（内面）　1（外面）

出土遺物

39. 東平遺跡　第 118 地区 1 次調査

1. 1Tr（西から）

1

出土遺物

40. 石坂 8 古墳群　第 2 地区 1 次調査

1. 1Tr（東から）

41. 富士岡 1 古墳群　第 18 地区 1 次調査

1. 1Tr（南西から）

42. 宇東川遺跡　第 29 地区 1 次調査

1. 4Tr（東から）

2. 4Tr 北壁　SB1001 土層（南から）

1

2

3

4

5

4　5（内面）　5（外面）

出土遺物

44. 東平遺跡　第 119 地区 1 次調査

1. 2Tr（北西から）

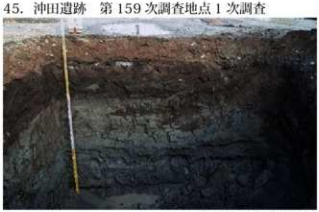
2. 1Tr（北西から）

出土遺物

43. 天間沢遺跡　第 52 地区 2 次調査

1. 2Tr（北東から）

45. 沖田遺跡　第 159 次調査地点 1 次調査



1. 1Tr 北壁（南から）

46. 東平遺跡　第 120 地区 1 次調査

1. 1Tr（南東から）

48. 宇東川遺跡　Z 地区 4 次調査

1. 重機掘削の様子（南西から）

2. 1Tr（南西から）

3. 1Tr 北壁（南から）

出土遺物

47. 天間沢遺跡　第 59 地区 1 次調査

1. 1Tr（西から）

50. 東平遺跡　第 121 地区 1 次調査

1. 1Tr（北西から）

49. 天間沢遺跡　第 60 地区 1 次調査

1. 1Tr（南西から）

2. 1Tr 東壁（西から）

51. 祢宜ノ前遺跡　第6地区1次調査

1. 2Tr（南西から）

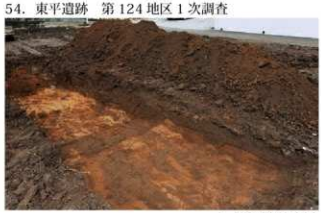
52. 東平遺跡　第122地区1次調査

1. 1Tr（南から）

53. 東平遺跡　第123地区1次調査

1. 1Tr（南東から）

54. 東平遺跡　第124地区1次調査



1. 1Tr（南東から）

55. 出口遺跡　Ⅶ地区1次調査

1. 1Tr（南東から）

2. 2Tr北壁（南西から）

3. 3Tr（南西から）

56. 沢東Ａ遺跡　第 23 次調査地点 1 次調査

1. 2Tr 北壁（南から）

57. 船津 8 古墳群　第 2 地区 1 次調査

1. 重機掘削の様子（南から）

2. 1Tr（南西から）

58. 木の宮遺跡　第 3 地区 1 次調査

1. 2Tr（南東から）

2. 2Tr 北壁（南から）

59. 東平遺跡　第 125 地区 1 次調査

1. 1Tr（南東から）

2. 2Tr（南東から）

東平遺跡　第 113 地区

1. 調査地全景（西から）

東平遺跡　第 113 地区

1. 本調査区西壁 A-A'（北東から）

2. 本調査区南壁 D-D'（北から）

1. 本調査区東側遺構（北から）

2. 本調査区中央部遺構（南から）

東平遺跡　第 113 地区

1．本調査区西側遺構（南から）

2．本調査区遺構検出（西から）

3．確認調査 1Tr 東壁（西から）

出土遺物

1. 調査地全景（東から）

東平遺跡　第 117 地区

1．確認調査 1Tr 全景（東から）

2．確認調査 1Tr 北壁　Pit1001（南から）

3．確認調査 1Tr　Pit1002（北から）

4．本調査区重機掘削の様子（南西から）

5．本調査区北壁（南から）

東平遺跡　第 117 地区

1．本調査区全景（南西から）

2．Pit2004 ～ 2007・2009・2010（南から）

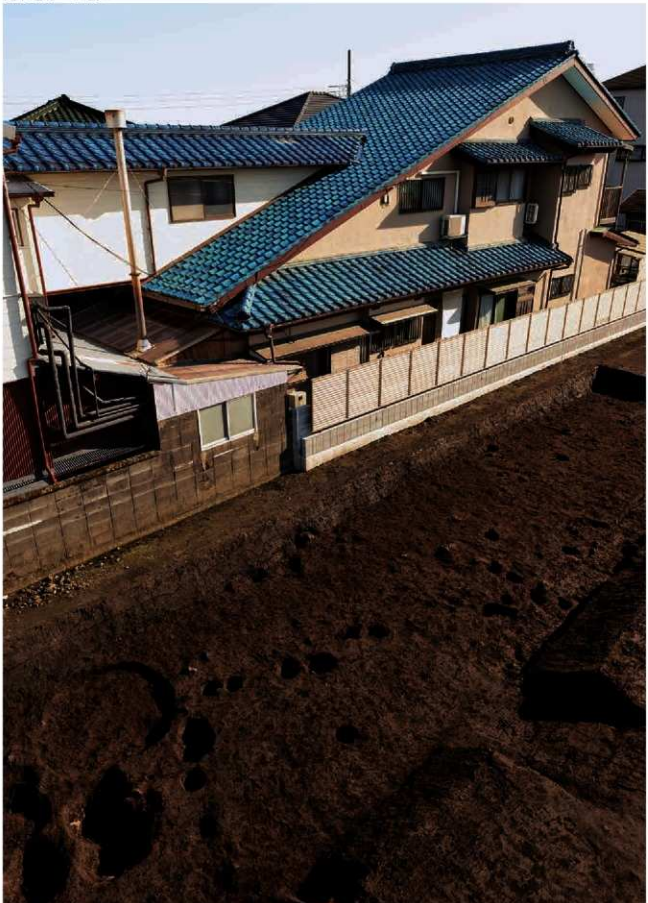
3．Pit2002（南から）

4．Pit2009 ～ 2011（南東から）

1

出土遺物

滝下遺跡　N 地区



1．本調査区全景（北西から）

滝下遺跡　N 地区

1．確認調査 1Tr（南西から）

2．確認調査 2Tr（北西から）

3．本調査区（北西から）

滝下遺跡　N 地区

1．本調査区東壁（西から）

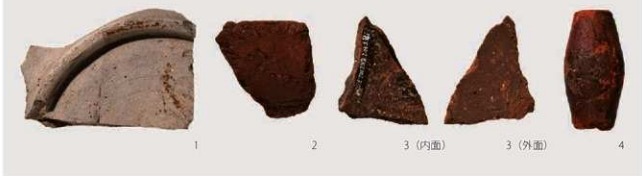
2．本調査区（北西から）

3．本調査区（北西から）

4．本調査区（北西から）

5．重機掘削（南東から）

6．作業風景（北東から）



1　2　3（内面）　3（外面）　4

出土遺物

1．本調査区　遺構完掘全景（南東から）

三新田遺跡　N 地区

1. 本調査区　遺構完掘全景（南東から）

2. 確認調査 1Tr（南西から）

3. 確認調査 1Tr 北壁（南から）

4. 銅製縁金具（1）出土状況（南西から）

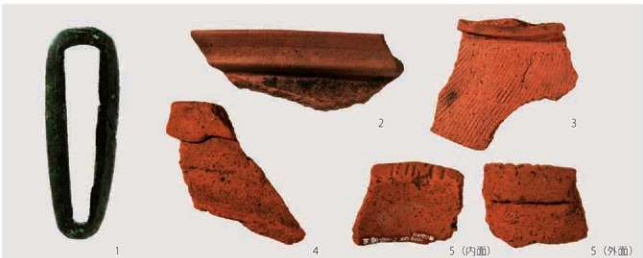
1. SD2001（南西から）

2. SD2001（南から）

3. SD2002（北西から）

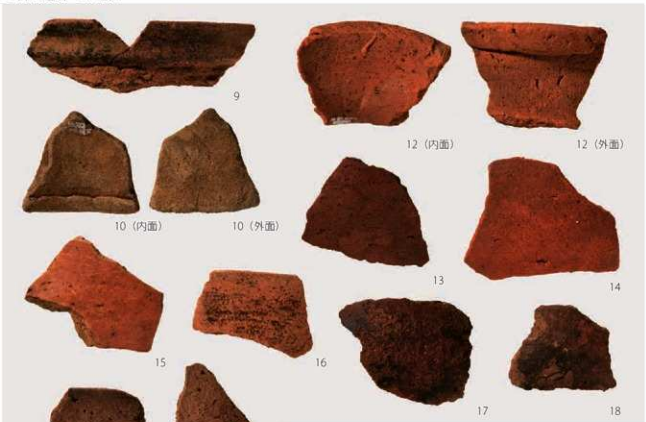
4. 本調査区　完掘全景（北西から）

三新田遺跡　N 地区



SD2001 出土遺物

遺物包含層出土遺物

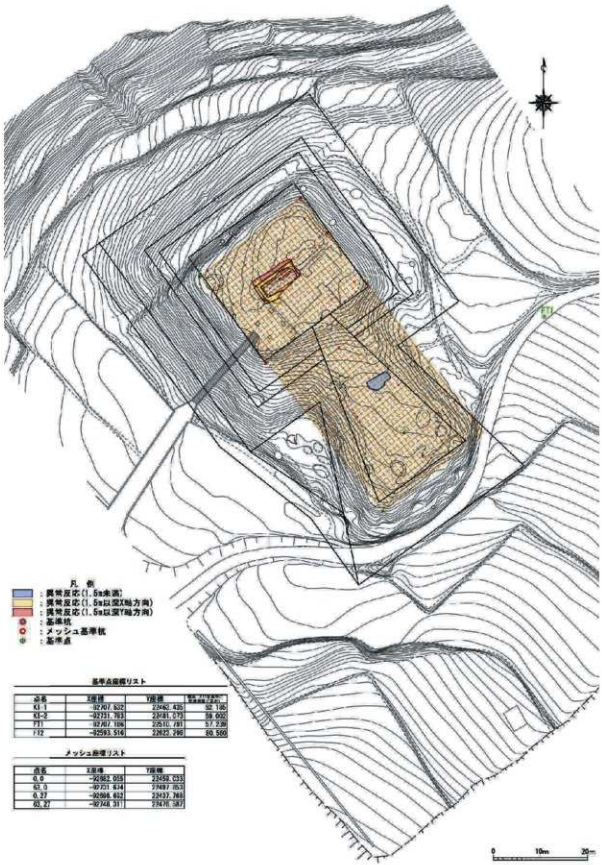


遺物包含層出土遺物

表採・撹乱出土遺物

国指定史跡　浅間古墳

1．埋葬施設等想定範囲（西から）



基準点座標リスト

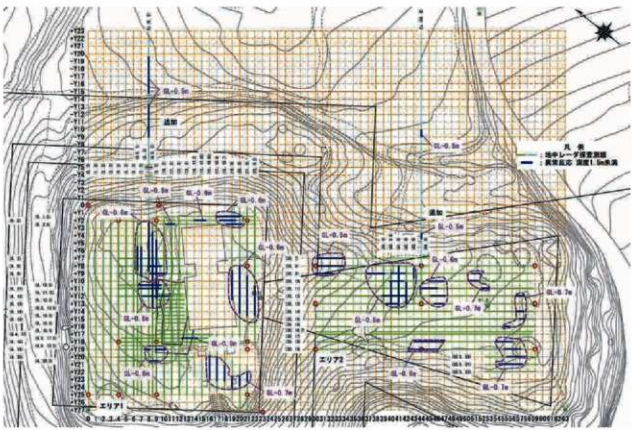
点名	X座標	Y座標	標高(m)
K1-1	-92707.522	23482.435	52.185
K1-2	-92731.783	23481.275	58.002
FT1	-92707.106	23510.781	57.239
T2	-92593.516	23622.299	60.560

メッシュ座標リスト

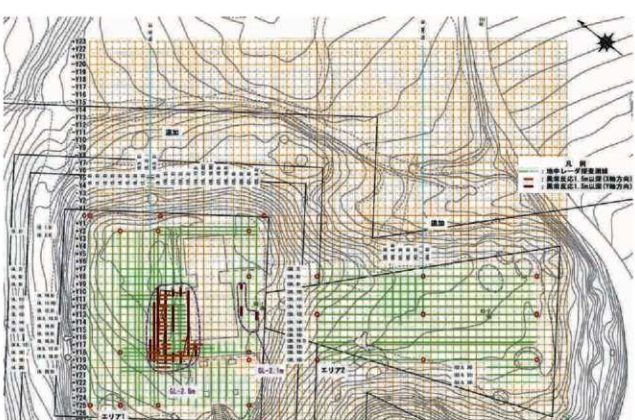
点名	X座標	Y座標
0, 0	-92862.055	23459.033
63, 0	-92721.644	23489.053
0, 27	-92866.852	23437.769
63, 27	-92748.311	23476.187

1．古墳埋葬施設等想定位置図（S=1:800）

国指定史跡　浅間古墳

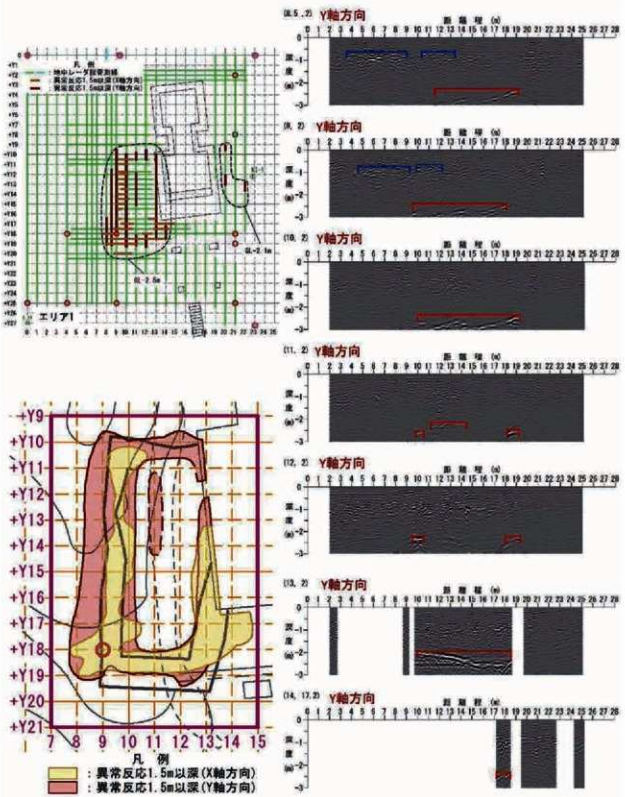


1．地中レーダ結果平面図（深度 -1.5 m未満）（S=1:500）



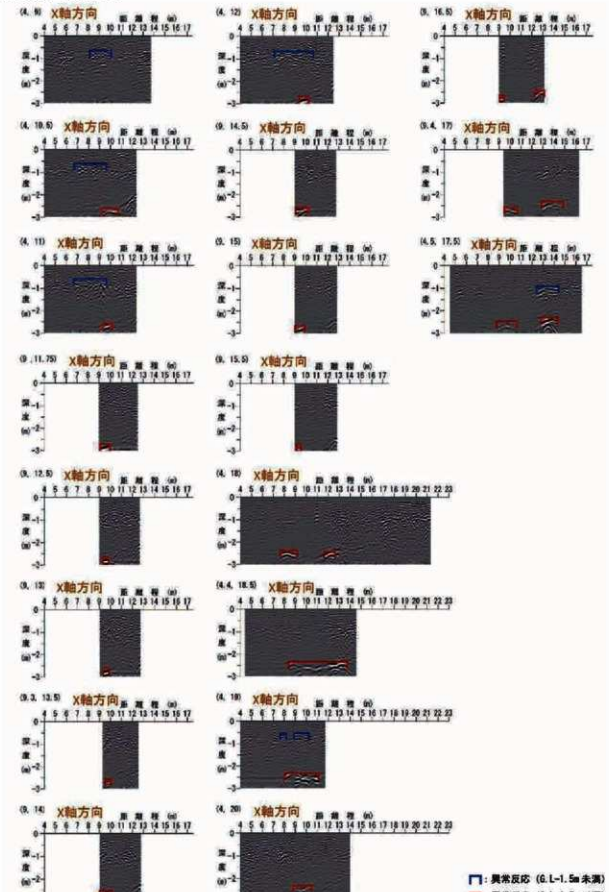
2．地中レーダ結果平面図（深度 -1.5 m以深）（S=1:500）

国指定史跡　浅間古墳



1．異常反応地点（平面図、Y軸断面図）

国指定史跡　浅間古墳



1．異常反応地点（X 軸断面図）

国指定史跡　浅間古墳

1．埋葬施設等想定範囲（南から）

2．埋葬施設等想定範囲（南西から）

3．調査の様子

4．現地説明会の様子

報告書抄録

ふりがな	ふじしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	富士市内遺跡発掘調査報告書
副書名	令和元年度
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 70 集
編著者名	佐藤 祐樹・若林 美希（編著）　植月 学・志﨑 江莉子・豊島 直博（著）
編集機関	富士市教育委員会　（担当課：市民部 文化振興課）
所在地	〒 417-8601　静岡県富士市永田町 1 丁目 100 番地　　℡　0545-55-2875
市町村コード	22210
発行年月日	令和 3 年 3 月 31 日

調査番号	所収番号	所収遺跡名 地区名 調査面積　発掘原因	所在地 北緯　東経 調査期間	種別 主な時代 市遺跡番号	遺構 遺物 特記事項
H31-102	第 2 章	東（ひがし）平（たいら）遺跡 第 113 地区 2 次調査 181.428 ㎡　記録保存調査	伝出（でんだし） 2520-5 35　10′　24.68″　138　40′　19.37″ 20190708 ～ 20190731	亀裂跡 奈良・平安 42	溝・柱穴・土坑 土器
H31-103	第 2 章	東（ひがし）平（たいら）遺跡 第 117 地区 2 次調査 28.185 ㎡　記録保存調査	伝出（でんだし） 3014-11 35　10′　00.59″　138　40′　30.07″ 20190930 ～ 20191002	亀裂跡 奈良・平安 42	土坑・ピット 土器・金属製品
H31-104	第 3 章	蓮下（はすした）遺跡 N 地区 2 次調査 106.097 ㎡　記録保存調査	伝出（でんだし） 2316-1 35　10′　23.84″　138　40′　43.79″ 20191112 ～ 20191126	亀裂跡 奈良・平安 44	ピット 土器
H31-105	第 4 章	三新田（さんしんでん）遺跡 N 地区 2 次調査 69.095 ㎡　記録保存調査	伝（でん）新田（しんでん） 189-1　外 35　08′　19.43″　138　43′　48.96″ 20191128 ～ 20191227	亀裂跡 古墳・奈良・平安 96	溝 土器
H31-01	第 1 章 第 2 節 1	東（ひがし）平（たいら）遺跡 第 111 地区 1 次調査 4.639 ㎡　確認調査	伝出（でんだし） 2400-2 35　10′　28.46″　138　40′　35.74″ 20190409 ～ 20190411	亀裂跡 42	なし なし
H31-02	第 1 章 第 2 節 2	花宇（かう）遺跡 第 7 地区 1 次調査 17.351 ㎡　確認調査	富士岡（ふじおか） 307-1 35　09′　30.59″　138　43′　52.60″ 20190415 ～ 20190416	散布地 66	なし なし
H31-03	第 1 章 第 2 節 3	大間沢（おおまざわ）遺跡 第 55 地区 1 次調査 91.819 ㎡　確認調査	大間（おおま） 1075-1　外 35　12′　26.78″　138　38′　32.55″ 20190417 ～ 20190418	亀裂跡 7	なし なし
H31-04	第 1 章 第 2 節 4	大間代山（おおまだいやま）遺跡 第 5 地区 1 次調査 33.492 ㎡　確認調査	大間（おおま） 1433-11,　-1 35　12′　02.50″　138　38′　36.98″ 20190423 ～ 20190424	亀裂跡 古墳・奈良 8	なし 土器
H31-05	第 1 章 第 2 節 5	沢東 A（さわひがしえー）遺跡 第 21 次調査地点 1 次調査 20.007 ㎡　確認調査	久沢（ひさざわ） 83-4 35　10′　47.48″　138　38′　56.61″ 20190425	亀裂跡 33	なし なし
H31-06	第 1 章 第 2 節 6	国久保（くにくぼ）遺跡 第 9 地区 1 次調査 10.098 ㎡　確認調査	伝出（でんだし） 2001-6 35　10′　25.58″　138　40′　52.80″ 20190508 ～ 20190509	亀裂跡 奈良 45	ピット 土器
H31-07	第 1 章 第 2 節 7	東（ひがし）平（たいら）遺跡 第 112 地区 1 次調査 75.301 ㎡　確認調査	伝出（でんだし） 2355-1 35　10′　26.41″　138　40′　38.10″ 20190508 ～ 20190509	亀裂跡 42	なし なし
H31-08	第 1 章 第 2 節 8	神谷古墳群（かみやこふんぐん） 第 11 地区 2 次調査 215.351 ㎡　確認調査	川尻（かわじり） 480-1　外 35　10′　21.56″　138　44′　37.76″ 20190513 ～ 20190520	古墳 古墳 200	なし 土器
H31-09	第 1 章 第 2 節 9	善得寺（ぜんとくじ）城跡・東泉院跡（とうせんいんあと） 第 4 地区 3.774 ㎡　確認調査	今泉（いまいずみ）八丁目（はっちょうめ） 1418-2 35　09′　55.43″　138　41′　15.58″ 20190514	亀裂跡　城館跡　社寺跡 弥生・平安 102	土坑 土器
H31-10	第 2 章	東（ひがし）平（たいら）遺跡 第 113 地区 1 次調査 5.004 ㎡　確認調査	伝出（でんだし） 2520-5 35　10′　24.68″　138　40′　19.37″ 20190515	亀裂跡 奈良 42	ピット 土器
H31-11	第 1 章 第 2 節 10	大間沢（おおまざわ）遺跡 第 56 地区 1 次調査 10.552 ㎡　確認調査	大間（おおま） 1010-1 35　12′　32.09″　138　38′　36.16″ 20190520	亀裂跡 7	なし なし

調査番号	所収番号	所収遺跡名 地区名	調査面積	発掘原因	所在地	北緯	東経	調査期間	種別	主な時代	市遺跡番号	遺構	遺物	特記事項
H31-12	第1章 第2節 11	中里2古墳群 第3地区1次調査	52.206 ㎡	確認調査	中里 1474-1　外	35　10′　01.99″	138　43′　56.52″	20190522	古墳	縄文・古墳・奈良・平安	197	竪穴建物跡・土坑・ピット	土器	
H31-13	第1章 第2節 12	大坂遺跡 第2地区1次調査	10.014 ㎡	確認調査	大淵 8553-4　外	35　14′　31.37″	138　41′　53.08″	20190527	散布地		1	なし	なし	
H31-14	第1章 第2節 13	花守遺跡 第8地区1次調査	30.107 ㎡	確認調査	富士岡 127-2	35　09′　39.15″	138　43′　40.45″	20190522	散布地		66	なし	なし	
H31-15	第1章 第2節 14	中島遺跡 第15地区1次調査	4.459 ㎡	確認調査	原田 771-2　外	35　10′　20.45″	138　42′　15.16″	20190604	集落跡		49	なし	なし	
H31-16	第1章 第2節 15	善得寺城跡・東泉院跡 第5地区1次調査	6.293 ㎡	確認調査	今泉八丁目 1387-1	35　09′　59.67″	138　41′　19.74″	20190605	集落跡　城館跡　社寺跡	奈良・平安	102	竪穴建物跡	土器	
H31-17	第1章 第2節 16	舟久保遺跡 第64地区1次調査	6.345 ㎡	確認調査	今泉 2030-20	35　10′　16.96″	138　41′　24.09″	20190531	集落跡		46	なし	なし	
H31-18	第1章 第2節 17	厚原横道下遺跡 第6地区1次調査	19.847 ㎡	確認調査	厚原 1229-16　外	35　11′　18.32″	138　39′　39.36″	20190618 ～ 20190619	散布地		15	なし	なし	
H31-19	第1章 第2節 18	入山瀬城跡 第2地区1次調査	10.244 ㎡	確認調査	入山瀬四丁目 335-1	35　11′　29.00″	138　38′　47.04″	20190624 ～ 20190626	城館跡		99	なし	なし	
H31-20	第1章 第2節 19	舟久保遺跡 第65地区1次調査	22.272 ㎡	確認調査	今泉 2054-1	35　10′　16.71″	138　41′　20.92″	20190705 ～ 20190708	集落跡		46	なし	なし	
H31-21	第1章 第2節 20	東平遺跡 隣接地（第114地区1次調査）	7.340 ㎡	試掘調査	瓜島町 72、73-2	35　09′　59.47″	138　40′　15.28″	20190716 ～ 20190718	集落跡		42	なし	なし	
H31-22	第1章 第2節 21	東平遺跡 第115地区1次調査	5.272 ㎡	確認調査	伝法 2821-1	35　10′　18.16″	138　40′　16.67″	20190719	集落跡		42	なし	なし	
H31-23	第1章 第2節 22	舟久保遺跡 第66地区1次調査	11.044 ㎡	確認調査	今泉 2030-24	35　10′　15.95″	138　41′　24.40″	20190801 ～ 20190802	集落跡		46	なし	土器	
H31-24	第1章 第2節 23	川坂遺跡 隣接地（第7地区1次調査）	56.016 ㎡	試掘調査	天間 797-1　外	35　12′　18.33″	138　38′　14.39″	20190805 ～ 20190807	散布地		5	なし	なし	
H31-25	第1章 第2節 24	国久保遺跡 第10地区1次調査	3.759 ㎡	確認調査	国久保三丁目 2263-7	35　10′　15.52″	138　40′　46.81″	20190806	集落跡		45	なし	なし	
H31-26	第1章 第2節 25	沢東B遺跡 第12地区1次調査	7.313 ㎡	確認調査	厚原 158-3　外	35　10′　55.58″	138　39′　07.14″	20190808	集落跡		34	なし	なし	
H31-27	第1章 第2節 26	舟久保遺跡 第67地区1次調査	9.889 ㎡	確認調査	今泉六丁目 656-6	35　10′　09.77″	138　41′　37.78″	20190829 ～ 20190831	集落跡	奈良・平安	46	ピット	土器	
H31-28	第1章 第2節 27	沢東B遺跡 第13地区1次調査	16.195 ㎡	確認調査	厚原 167-1	35　11′　00.09″	138　39′　05.33″	20190819 ～ 20190821	集落跡		34	なし	なし	
H31-29	第1章 第2節 28	東平遺跡 第116地区1次調査	33.231 ㎡	確認調査	伝法 2653-4	35　10′　33.95″	138　40′　05.71″	20190820	集落跡		42	なし	なし	
H31-30	第1章 第2節 29	比奈4古墳群 第3地区1次調査	15.090 ㎡	確認調査	比奈 1106-3	35　10′　05.75″	138　42′　53.34″	20190827	古墳		181	なし	なし	
H31-31	第1章 第2節 30	天間沢遺跡 第40地区4次調査	12.693 ㎡	確認調査	天間 1001-6	35　12′　33.06″	138　38′　39.72″	20190826	集落跡		7	なし	なし	
H31-32	第2章	東平遺跡 第117地区1次調査	8.298 ㎡	確認調査	伝法 3014-11	35　10′　00.59″	138　40′　30.07″	20190902	集落跡	奈良・平安	42	ピット	なし	
H31-33	第3章	滝下遺跡 隣接地（N地区1次調査）	106.659 ㎡	試掘調査	伝法 2316-1	35　10′　23.84″	138　40′　43.79″	20190904 ～ 20190906	集落跡	奈良・平安	44	ピット	土器	

調査番号	所収番号	所収遺跡名 地区名 調査面積	発掘原因	所在地 北緯	東経 調査期間	種別 主な時代 市遺跡番号	遺構 遺物 特記事項
H31-34	第 1 章 第 2 節 31	大熊沢遺跡 第 57 地区 1 次調査 173.008 ㎡	確認調査	天熊 529-1　外 35　12′　14.97″　138　38′　26.96″ 20190909 ～ 20190912		集落跡 縄文・奈良 7	竪穴建物跡・炭・土坑・ピット 土器・石器
H31-35	第 1 章 第 2 節 32	厚原遺跡 第 9 地区 1 次調査 14.759 ㎡	確認調査	厚原 710-1、710-7 35　11′　13.75″　138　39′　29.70″ 20190906		散布地 12	なし なし
H31-36	第 1 章 第 2 節 33	舟久保遺跡 第 68 地区 1 次調査 3.551 ㎡	確認調査	今泉八丁目 1586-2 35　10′　07.42″　138　41′　20.82″ 20190912		集落跡 奈良・平安 46	竪穴建物跡 土器
H31-37	第 1 章 第 2 節 34	宇東川遺跡 第 28 地区 1 次調査 29.909 ㎡	確認調査	今泉 1692-4 35　10′　14.15″　138　41′　58.58″ 20190925 ～ 20190926		集落跡 50	なし なし
H31-38	第 1 章 第 2 節 35	コーカン前遺跡 第 4 地区 1 次調査 6.802 ㎡	確認調査	江尻 667-3 35　09′　26.80″　138　45′　10.39″ 20191007		散布地 71	なし なし
H31-39	第 1 章 第 2 節 36	大熊沢遺跡 第 58 地区 1 次調査 26.279 ㎡	確認調査	天熊 1137-1 35　12′　30.31″　138　38′　37.78″ 20190919		集落跡 縄文 7	なし 土器
H31-40	第 1 章 第 2 節 37	沢東 A 遺跡 第 22 次調査地点 1 次調査 54.950 ㎡	確認調査	久沢 158-1 35　10′　52.81″　138　38′　49.58″ 20191002 ～ 20191003		集落跡 33	なし なし
H31-41	第 1 章 第 2 節 38	柏原遺跡 第 15 地区 1 次調査 6.849 ㎡	確認調査	中柏原新田 164-1 35　08′　05.20″　138　45′　00.34″ 20191002 ～ 20191003		集落跡 奈良 97	土坑・ピット 土器
H31-42	第 1 章 第 2 節 39	三吉市浅寺跡 東平遺跡第 118 地区 1 次調査 9.283 ㎡	確認調査	浅間上町 2920-1、2920-2、2925-1 35　10′　10.37″　138　40′　40.20″ 20191114		集落跡　社寺跡 奈良・平安 43	ピット 土器
H31-43	第 4 章	三路田遺跡 N 地区 1 次調査 8.963 ㎡	確認調査	松 路田 189-1 35　08′　19.49″　138　43′　48.92″ 20191018 ～ 20191023		集落跡 古墳・奈良 96	竪穴建物跡 土器・金属製品
H31-44	第 1 章 第 2 節 40	石坂 B 古墳群 第 2 地区 1 次調査 43.861 ㎡	確認調査	今泉 3443-6　外 35　10′　42.14″　138　41′　24.15″ 20191010 ～ 20191017		古墳 奈良・平安 158	なし 土器
H31-45	第 1 章 第 2 節 41	富士岡 1 古墳群 第 18 地区 1 次調査 9.716 ㎡	確認調査	比奈 1749-1 35　10′　10.06″　138　43′　29.35″ 20191025 ～ 20191028		古墳 192	なし なし
H31-46	第 1 章 第 2 節 42	宇東川遺跡 第 29 地区 1 次調査 40.083 ㎡	確認調査	原田 704 35　10′　12.05″　138　42′　09.45″ 20191031		集落跡 縄文・古墳・奈良・平安 50	竪穴建物跡・土坑 縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器
H31-47	第 1 章 第 2 節 27	沢東 B 遺跡 第 13 地区 2 次調査 20.197 ㎡	確認調査	厚原 167-1 35　11′　00.09″　138　39′　05.33″ 20191107		集落跡 34	なし なし
H31-48	第 1 章 第 2 節 43	大熊沢遺跡 第 52 地区 2 次調査 5.687 ㎡	確認調査	天熊 1130-2 35　12′　26.09″　138　38′　36.70″ 20191105		集落跡 7	なし なし
H31-49	第 1 章 第 2 節 44	三吉市浅寺跡 東平遺跡第 119 地区 1 次調査 35.184 ㎡	確認調査	浅間上町 2920-2 35　10′　12.88″　138　40′　38.75″ 20191125		集落跡　社寺跡 奈良・平安 43	竪穴建物跡・ピット 土器
H31-50	第 1 章 第 2 節 45	外田遺跡 第 139 次調査地点 17.713 ㎡	確認調査	今泉 470-3 35　09′　37.20″　138　42′　08.85″ 20191210 ～ 20191211		その他の遺跡 その他の墓 53	なし なし
H31-51	第 1 章 第 2 節 46	東平遺跡 第 120 地区 1 次調査 16.987 ㎡	確認調査	伝出 2581-7 35　10′　31.18″　138　40′　11.67″ 20191204		集落跡 42	なし なし
H31-52	第 1 章 第 2 節 47	大熊沢遺跡 第 59 地区 1 次調査 4.078 ㎡	確認調査	天熊 584-13 35　12′　20.03″　138　38′　27.24″ 20191212		集落跡 7	なし なし
H31-53	第 1 章 第 2 節 48	宇東川遺跡 Z 地区 4 次調査 3.323 ㎡	確認調査	原田 628-24 35　10′　18.71″　138　42′　03.57″ 20191211		集落跡 縄文 50	なし 土器
H31-54	第 1 章 第 2 節 49	大熊沢遺跡 第 60 地区 1 次調査 4.781 ㎡	確認調査	天熊 1069-2 35　12′　28.92″　138　38′　29.04″ 20191216 ～ 20191217		集落跡 7	なし なし
H31-55	第 1 章 第 2 節 50	東平遺跡 第 121 地区 1 次調査 10.754 ㎡	確認調査	伝出 2502-1 35　10′　27.61″　138　40′　18.58″ 20191223		集落跡 奈良 42	炭・土坑 土器

調査番号	所収番号	所収遺跡名 地区名		所在地 北緯	東経	種別 主な時代	遺構 遺物
		調査面積	発掘原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H31-56	第1章 第2節 51	前宮ノ前遺跡 第6地区1次調査		比奈1592-2 外 35 09′ 54.91″ 138 43′ 28.84″		集落跡 57	なし なし
		8,898 ㎡	確認調査	20200114 ～ 20200115			
H31-57	第1章 第2節 52	東平遺跡 第122地区1次調査		伝法2839-5 35 10′ 16.17″ 138 40′ 26.74″		集落跡 古墳～奈良 42	なし 土器
		5,769 ㎡	確認調査	20200116			
H31-58	第1章 第2節 53	東平遺跡 第123地区1次調査		伝法2663-1、2663-2、2663-3の各一部 35 10′ 36.03″ 138 40′ 04.13″		集落跡 42	なし なし
		10,081 ㎡	確認調査	20200124			
H31-59	第1章 第2節 54	東平遺跡 第124地区1次調査		伝法3048 35 10′ 08.35″ 138 40′ 23.52″		集落跡 42	なし なし
		10,590 ㎡	確認調査	20200128 ～ 20200129			
H31-60	第1章 第2節 55	出口遺跡 隣接地（3地区1次調査）		伝法277-1 外 35 10′ 44.63″ 138 40′ 30.99″		その他の墓 111	なし なし
		167,760 ㎡	試掘調査	20200303 ～ 20200305			
H31-61	第1章 第2節 56	沢東A遺跡 第23次調査地点1次調査		久沢8-1 35 10′ 41.68″ 138 38′ 50.94″		集落跡 33	なし なし
		34,466 ㎡	確認調査	20200212			
H31-62	第1章 第2節 57	船津A古墳群 第2地区1次調査		船津755-1 35 09′ 21.75″ 138 46′ 18.58″		古墳 210	なし なし
		20,002 ㎡	確認調査	20200219 ～ 20200220			
H31-63	第1章 第2節 58	木の宮遺跡 第3地区1次調査		ニッ沢219-1 外 35 10′ 59.83″ 138 42′ 06.64″		散布地 なし	なし なし
		20,523 ㎡	確認調査	20200226 ～ 20200227			
H31-64	第1章 第2節 59	東平遺跡 第125地区1次調査		伝法2806-5、-6 35 10′ 09.75″ 138 40′ 22.02″		集落跡 奈良・平安 42	ピット なし
		27,520 ㎡	確認調査	20200305			
H31-99	第5章	地川古墳群 浅間古墳		地川624 外 35 09′ 50.73″ 138 44′ 47.70″		古墳 古墳	埋蔵施設か なし
		㎡	地中探査	20191017 ～ 20191018		201	

富士市埋蔵文化財調査報告　第70集

富士市内遺跡発掘調査報告書
－令和元年度－

発行年月日　令和3年3月31日

編集・発行　富士市教育委員会
〒417-8601　静岡県富士市永田町一丁目100番地
TEL 0545-55-2875　FAX 0545-53-0789
E-mail:si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本　文光堂印刷株式会社
〒410-0871　静岡県沼津市西間門68番地の1

（富士市行政資料登録番号　R2-57）